

2 - 2 取組別調査分析結果

取組1 「地域経済を力強く牽引するものづくり産業（製造業）の振興」

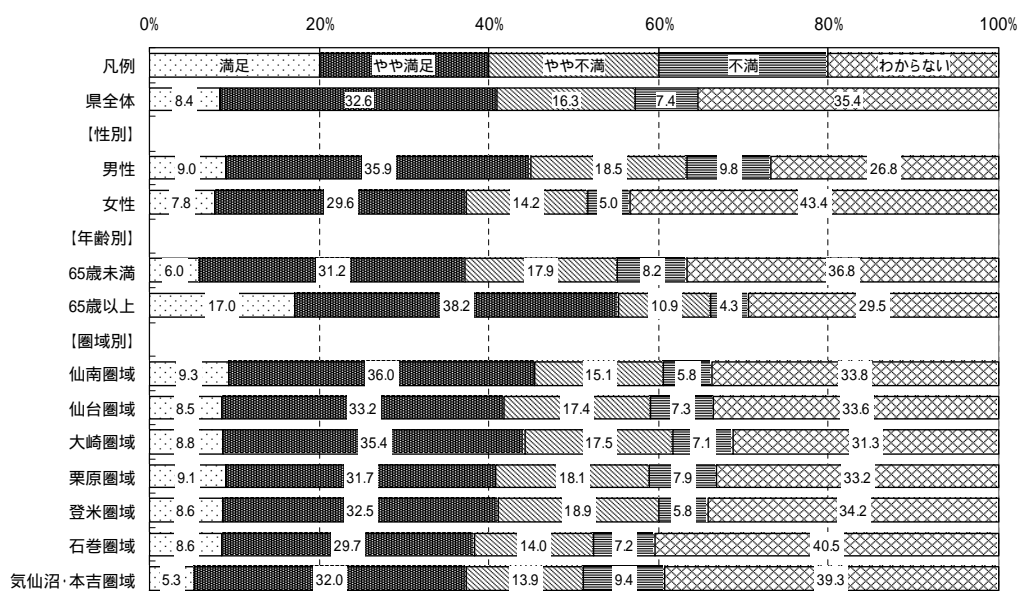
【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

自動車関連産業の集積のため、企業ニーズの把握と提供に取り組むとともに、経営革新や技術向上の支援策を行っています。

設備投資を行う場合の初期負担を軽減し、県内での設備投資を促進させるため、県内で工場の新設・増設を行った企業に対して奨励金を交付しています。

先端技術を定着させ、県内企業の技術の高度化を促すため、新産業の創出支援や大学・高専等で構成する基盤技術高度化支援センターによる技術相談・訪問支援などを行っています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が41.0%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の23.7%を上回っている。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が63.4%、『不満』は36.6%であった。

性別に見ると、男性の場合は『満足』が44.9%で、女性の37.4%より7.5ポイント高かった。

女性の43.4%が「わからない」と回答しており、男性の場合の26.8%に対

して16.6ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が37.2%、65歳以上の『満足』が55.2%と、65歳未満よりも65歳以上の方が『満足』の割合が18ポイントと大幅に高かった。

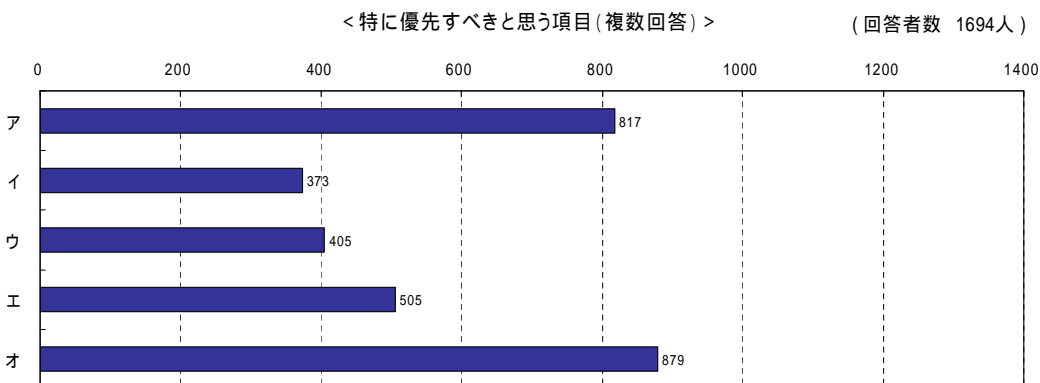
圏域別では、『満足』の割合が比較的高いのが仙南圏域(45.3%)、大崎圏域(44.2%)で、一方、比較的低いのが気仙沼・本吉圏域(37.3%)、石巻圏域(38.3%)であった。

		有効					欠損値		合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	合計		
県全体	度数	147	568	284	129	617	1745	33	1778
	パーセント	8.3	31.9	16.0	7.3	34.7	98.1	1.9	100.0
	有効パーセント	8.4	32.6	16.3	7.4	35.4	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	13.0	50.4	25.2	11.4	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	76	304	157	83	227	847	13	860
	パーセント	8.8	35.3	18.3	9.7	26.4	98.5	1.5	100.0
	有効パーセント	9.0	35.9	18.5	9.8	26.8	100.0		
女性	度数	68	259	124	44	379	874	19	893
	パーセント	7.6	29.0	13.9	4.9	42.4	97.9	2.1	100.0
	有効パーセント	7.8	29.6	14.2	5.0	43.4	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	79	413	237	109	487	1325	11	1336
	パーセント	5.9	30.9	17.7	8.2	36.5	99.2	0.8	100.0
	有効パーセント	6.0	31.2	17.9	8.2	36.8	100.0		
65歳以上	度数	67	150	43	17	116	393	21	414
	パーセント	16.2	36.2	10.4	4.1	28.0	94.9	5.1	100.0
	有効パーセント	17.0	38.2	10.9	4.3	29.5	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	21	81	34	13	76	225	5	230
	パーセント	9.1	35.2	14.8	5.7	33.0	97.8	2.2	100.0
	有効パーセント	9.3	36.0	15.1	5.8	33.8	100.0		
仙台圏域	度数	21	82	43	18	83	247	1	248
	パーセント	8.5	33.1	17.3	7.3	33.5	99.6	0.4	100.0
	有効パーセント	8.5	33.2	17.4	7.3	33.6	100.0		
大崎圏域	度数	21	85	42	17	75	240	1	241
	パーセント	8.7	35.3	17.4	7.1	31.1	99.6	0.4	100.0
	有効パーセント	8.8	35.4	17.5	7.1	31.3	100.0		
栗原圏域	度数	24	84	48	21	88	265	9	274
	パーセント	8.8	30.7	17.5	7.7	32.1	96.7	3.3	100.0
	有効パーセント	9.1	31.7	18.1	7.9	33.2	100.0		
登米圏域	度数	21	79	46	14	83	243	8	251
	パーセント	8.4	31.5	18.3	5.6	33.1	96.8	3.2	100.0
	有効パーセント	8.6	32.5	18.9	5.8	34.2	100.0		
石巻圏域	度数	19	66	31	16	90	222	2	224
	パーセント	8.5	29.5	13.8	7.1	40.2	99.1	0.9	100.0
	有効パーセント	8.6	29.7	14.0	7.2	40.5	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	13	78	34	23	96	244	3	247
	パーセント	5.3	31.6	13.8	9.3	38.9	98.8	1.2	100.0
	有効パーセント	5.3	32.0	13.9	9.4	39.3	100.0		

【優先項目】

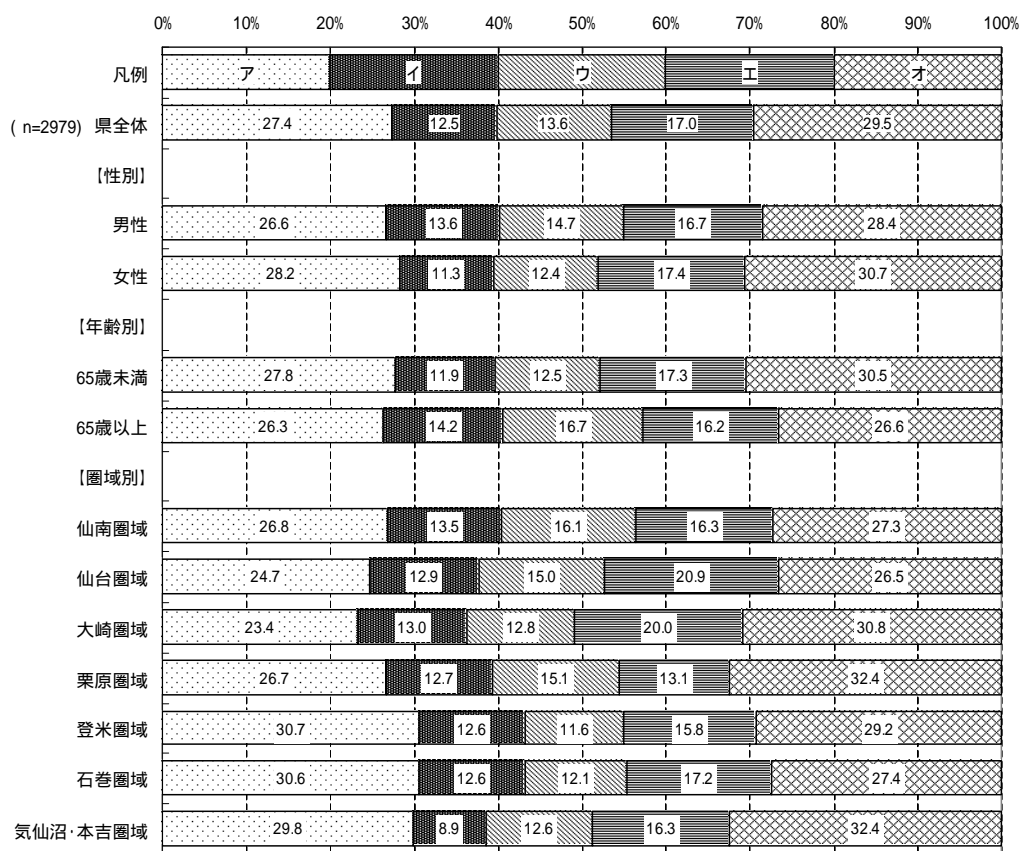
県が取組1に関し10年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア みやぎ産業振興機構などの産業支援機関と連携して行う、県内製造業の技術力、営業力、販売力などの強化への支援
- イ 自動車関連産業を活発にするための下地となる県内製造業の技術力の向上や設備投資への支援や隣接県の試験研究機関との連携による技術開発への支援
- ウ 岩手県・山形県等と連携して関東・東海圏域で商談会を開催するなど、受注機会の拡大
- エ 光関連産業や生活福祉関連産業など市場拡大が期待される分野での、技術開発や製品開発への取組支援
- オ 半導体関連産業など経済波及効果の高い業種や、雇用の増加につながる業種などを中心とした、地域経済の核となる企業の誘致



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、2979度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、オの地域経済の核となる企業の誘致で、879度であった。次に、アのみやぎ産業振興機構などの産業支援機関と連携して行う、県内製造業の技術力、営業力、販売力などの強化への支援で、817度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**オ**の地域経済の核となる企業の誘致が、男性の28.4%に対し、女性が30.7%で、女性の方が2.3ポイント高かった。

年齢別では、**オ**の地域経済の核となる企業の誘致が、65歳未満が30.5%に対し65歳以上は26.6%で、65歳未満の方が3.9ポイント高かった。

圏域別では、**オ**の経済波及効果の高い業種や、雇用の増加につながる業種などを中心とした地域経済の核となる企業の誘致についてで、栗原圏域(32.4%)、気仙沼・本吉圏域(32.4%)が高く、次いで大崎圏域(30.8%)が高かった。

アの県内製造業の技術力、営業力、販売力などの強化への支援では、登米圏域(30.7%)、石巻圏域(30.6%)が高く、次いで気仙沼・本吉圏域(29.8%)が高かった。

取組2 「産学官の連携による高度技術産業の集積促進」

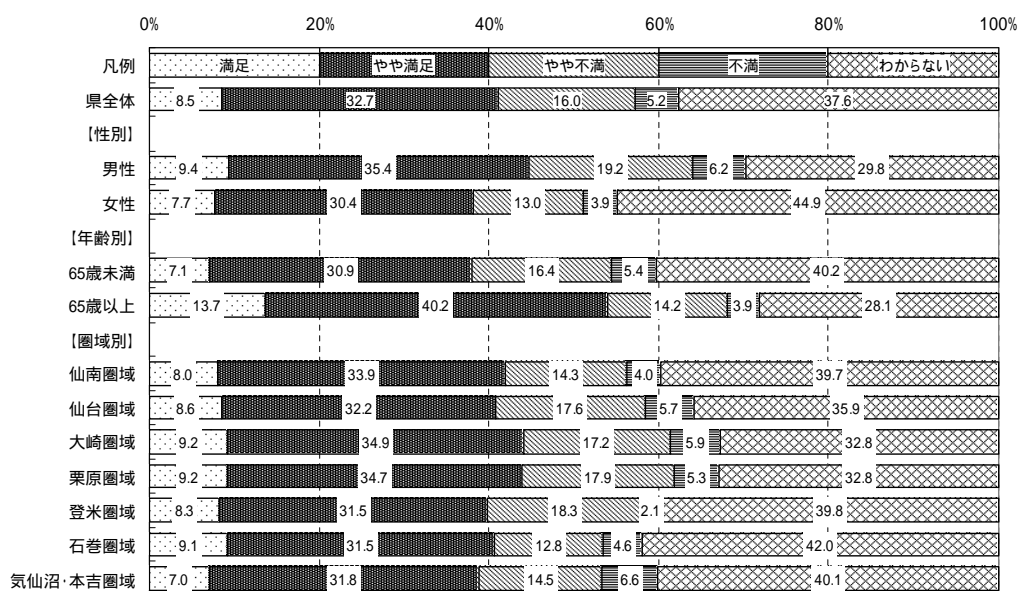
【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

知的財産の活用促進と競争力の強化のため、県内企業の経営者や担当者、事業者や生産者などを対象とした特許や商標・ブランド等に関する研修やセミナーを開催しました。

知的財産を活用した新規事業や新製品開発を推進するため、産業技術総合センター内の知的所有権センターを中心に、特許の流通支援や特許情報の活用支援を行っています。

新たな環境関連技術を確立するために、学術機関の研究成果や企業の技術力を活用しながら、両者が連携して行う研究開発の支援を行いました。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が41.2%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の21.2%を上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が66.0%、『不満』は34.0%であった。

性別に見ると、男性の場合は『満足』が44.8%で、女性の38.1%より6.7ポイント高かった。

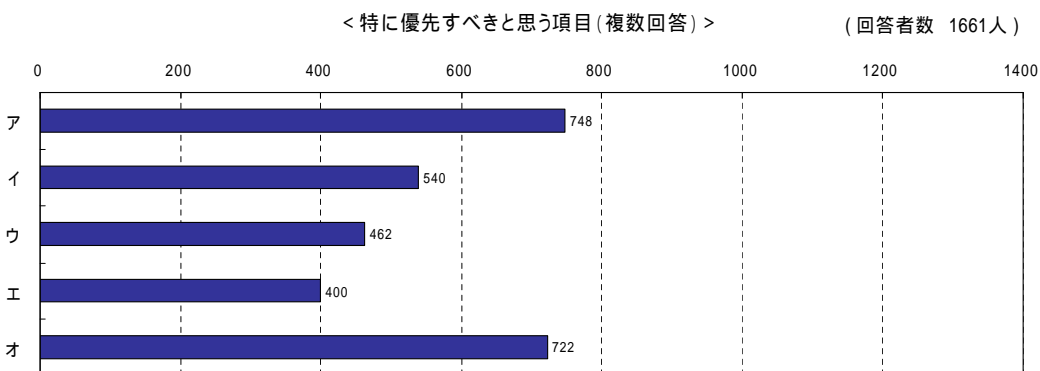
年齢別では、65歳未満の『満足』が38.0%、65歳以上の『満足』が53.9%と、65歳未満よりも65歳以上の方が『満足』の割合が15.9ポイント高かった。圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、大崎圏域(44.1%)、栗原圏域(43.9%)であり、一方、比較的低いのが気仙沼・本吉圏域(38.8%)、登米圏域(39.8%)であった。

		有効					欠損値		合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	合計		
県全体	度数	147	564	277	89	650	1727	51	1778
	パーセント	8.3	31.7	15.6	5.0	36.6	97.1	2.9	100.0
	有効パーセント	8.5	32.7	16.0	5.2	37.6	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	13.6	52.4	25.7	8.3	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	79	297	161	52	250	839	21	860
	パーセント	9.2	34.5	18.7	6.0	29.1	97.6	2.4	100.0
	有効パーセント	9.4	35.4	19.2	6.2	29.8	100.0		
女性	度数	67	264	113	34	389	867	26	893
	パーセント	7.5	29.6	12.7	3.8	43.6	97.1	2.9	100.0
	有効パーセント	7.7	30.4	13.0	3.9	44.9	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	93	406	216	71	529	1315	21	1336
	パーセント	7.0	30.4	16.2	5.3	39.6	98.4	1.6	100.0
	有効パーセント	7.1	30.9	16.4	5.4	40.2	100.0		
65歳以上	度数	53	156	55	15	109	388	26	414
	パーセント	12.8	37.7	13.3	3.6	26.3	93.7	6.3	100.0
	有効パーセント	13.7	40.2	14.2	3.9	28.1	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	18	76	32	9	89	224	6	230
	パーセント	7.8	33.0	13.9	3.9	38.7	97.4	2.6	100.0
	有効パーセント	8.0	33.9	14.3	4.0	39.7	100.0		
仙台圏域	度数	21	79	43	14	88	245	3	248
	パーセント	8.5	31.9	17.3	5.6	35.5	98.8	1.2	100.0
	有効パーセント	8.6	32.2	17.6	5.7	35.9	100.0		
大崎圏域	度数	22	83	41	14	78	238	3	241
	パーセント	9.1	34.4	17.0	5.8	32.4	98.8	1.2	100.0
	有効パーセント	9.2	34.9	17.2	5.9	32.8	100.0		
栗原圏域	度数	24	91	47	14	86	262	12	274
	パーセント	8.8	33.2	17.2	5.1	31.4	95.6	4.4	100.0
	有効パーセント	9.2	34.7	17.9	5.3	32.8	100.0		
登米圏域	度数	20	76	44	5	96	241	10	251
	パーセント	8.0	30.3	17.5	2.0	38.2	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	8.3	31.5	18.3	2.1	39.8	100.0		
石巻圏域	度数	20	69	28	10	92	219	5	224
	パーセント	8.9	30.8	12.5	4.5	41.1	97.8	2.2	100.0
	有効パーセント	9.1	31.5	12.8	4.6	42.0	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	17	77	35	16	97	242	5	247
	パーセント	6.9	31.2	14.2	6.5	39.3	98.0	2.0	100.0
	有効パーセント	7.0	31.8	14.5	6.6	40.1	100.0		

【優先項目】

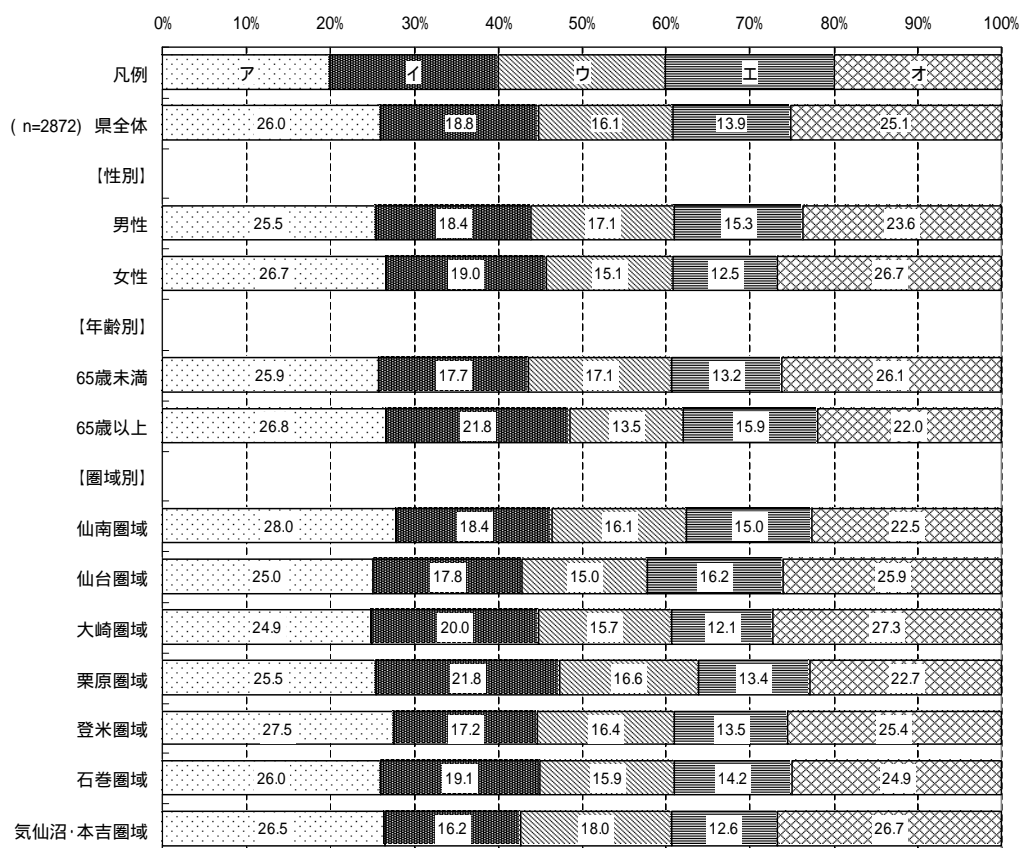
県が取組 2 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 高度技術を活用した産業を作り出したいと考える企業と大学などの人材や技術の相互交流、共同研究、ネットワークづくり
- イ 大学や県内企業などによるプロジェクトに、国からの大規模な資金を使えるようにするための支援
- ウ 知的財産・未利用特許を持つ県内企業や大学などと、それを使った開発を行える企業の仲介や、そのような技術を利用して行う新製品の開発支援
- エ これから整備される東北大学サイエンスパークなどでの産業界と大学が連携した研究成果を活用した新製品の開発支援
- オ 独自技術を持つ企業の共同研究や、医学と工学が分野を越えて行う研究などによる新製品開発への支援



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、2872度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**ア**の企業と大学の相互交流、共同研究、ネットワークづくりで、748度であった。次に、**オ**の独自技術を持つ企業や医工連携による新製品開発への支援が、722度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**エ**の産業界と大学が連携した新製品の開発支援が男性の15.3%に対し女性が12.5%で、男性の方が2.8ポイント高かった。**オ**の独自技術を持つ企業や医工連携による新製品開発への支援は女性が26.7%に対し男性は23.6%で、女性の方が3.1ポイント高かった。

年齢別では、**イ**の大学や県内企業などによるプロジェクトへの支援は65歳未満が17.7%に対し65歳以上は21.8%で、65歳以上が4.1ポイント高かった。また、**オ**の独自技術を持つ企業や医工連携による新製品開発への支援は65歳未満が26.1%に対し65歳以上は22.0%で、65歳未満が4.1ポイント高かった。

圏域別では、**ア**の企業と大学の相互交流、共同研究、ネットワークづくりで、仙南圏域(28.0%)、登米圏域(27.5%)が高かった。

オの独自技術を持つ企業や医工連携による新製品開発への支援では、大崎圏域(27.3%)と気仙沼・本吉圏域(26.7%)が高かった。

取組3 「豊かな農林水産資源と結びついた食品製造業の振興」

【満足度】

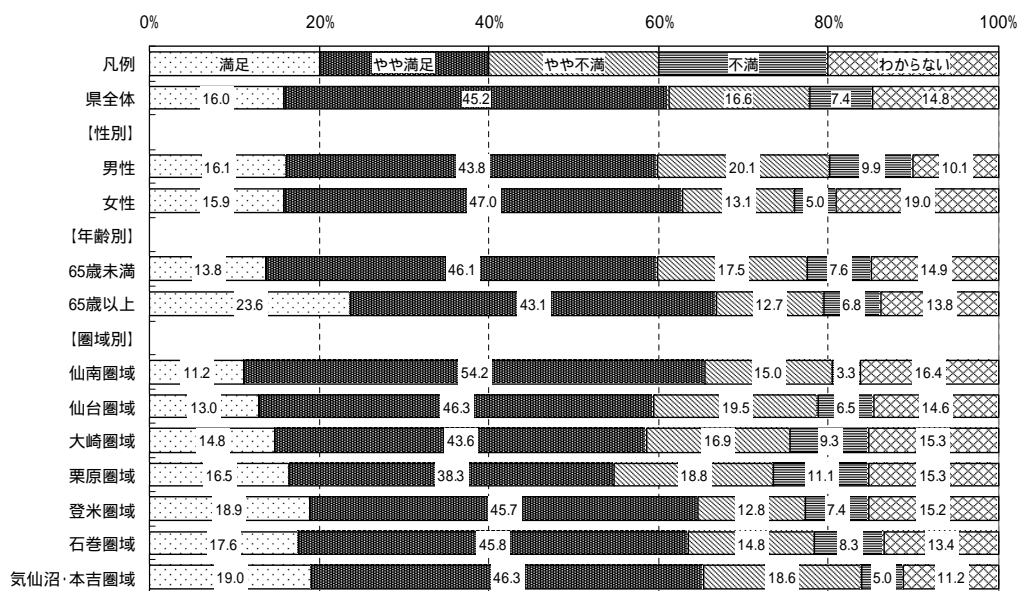
宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

「食材王国みやぎ」の取組をさらに統一的に展開することで、多彩で豊富な県産食材等のブランドイメージを高め、食産業の振興が図られるよう推進方針を定めています。

他産業の持つ様々な知識・技術を積極的に取り入れた複合的農産物加工を推進するため、アドバイザーの派遣や研修会の開催により、農産加工者の経営能力向上を図っています。

水産加工品の商品開発や品質向上、消費拡大を図るため、水産加工業者への技術支援や業界団体が開催する水産加工品品評会への支援を行っています。

みやぎの情報発信と売れる商品づくりを支援するため、東京都豊島区東池袋にアンテナショップを開設し、県産品販売を通して得られる消費者の声などを県内企業等に提供しています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が61.2%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の24.0%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が71.8%、『不満』

は28.2%であった。

性別に見ると、男性の場合は『満足』が59.9%で女性の62.9%より3.0ポイント低かった。

女性の19.0%が「わからない」と回答しており、男性の場合の10.1%に比して8.9ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が59.9%、65歳以上の『満足』が66.7%と、65歳以上の方が6.8ポイント高かった。

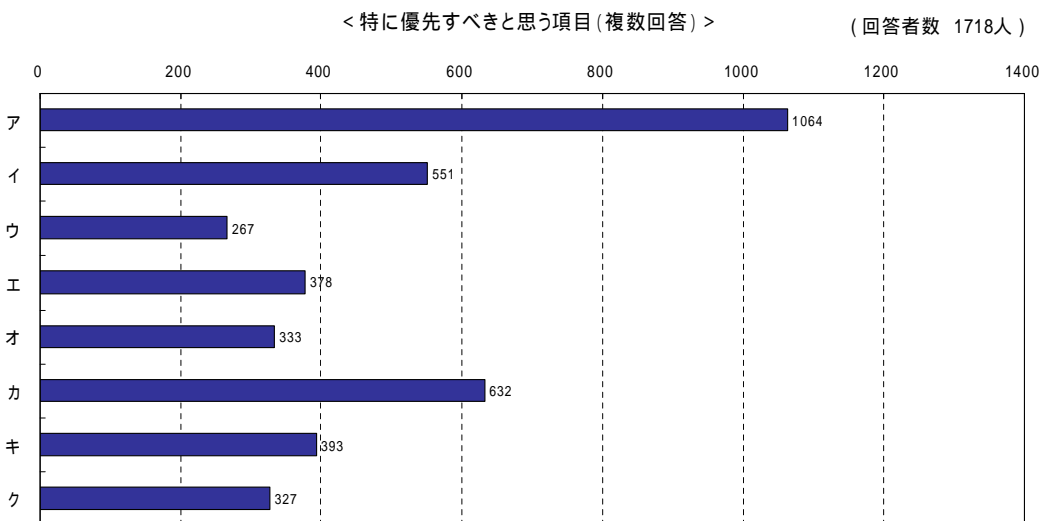
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは仙南圏域(65.4%)、気仙沼・本吉圏域(65.3%)、及び登米圏域(64.6%)、石巻圏域(63.4%)であり、一方、比較的低いのが栗原圏域(54.8%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	274	776	285	127	254	1716	62	1778
	パーセント	15.4	43.6	16.0	7.1	14.3	96.5	3.5	100.0
	有効パーセント	16.0	45.2	16.6	7.4	14.8	100.0		
	有効パーセント (「わからない」を除く有効パーセント)	18.7	53.1	19.5	8.7	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	134	364	167	82	84	831	29	860
	パーセント	15.6	42.3	19.4	9.5	9.8	96.6	3.4	100.0
	有効パーセント	16.1	43.8	20.1	9.9	10.1	100.0		
女性	度数	137	405	113	43	164	862	31	893
	パーセント	15.3	45.4	12.7	4.8	18.4	96.5	3.5	100.0
	有効パーセント	15.9	47.0	13.1	5.0	19.0	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	180	602	229	99	195	1305	31	1336
	パーセント	13.5	45.1	17.1	7.4	14.6	97.7	2.3	100.0
	有効パーセント	13.8	46.1	17.5	7.6	14.9	100.0		
65歳以上	度数	91	166	49	26	53	385	29	414
	パーセント	22.0	40.1	11.8	6.3	12.8	93.0	7.0	100.0
	有効パーセント	23.6	43.1	12.7	6.8	13.8	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	24	116	32	7	35	214	16	230
	パーセント	10.4	50.4	13.9	3.0	15.2	93.0	7.0	100.0
	有効パーセント	11.2	54.2	15.0	3.3	16.4	100.0		
仙台圏域	度数	32	114	48	16	36	246	2	248
	パーセント	12.9	46.0	19.4	6.5	14.5	99.2	0.8	100.0
	有効パーセント	13.0	46.3	19.5	6.5	14.6	100.0		
大崎圏域	度数	35	103	40	22	36	236	5	241
	パーセント	14.5	42.7	16.6	9.1	14.9	97.9	2.1	100.0
	有効パーセント	14.8	43.6	16.9	9.3	15.3	100.0		
栗原圏域	度数	43	100	49	29	40	261	13	274
	パーセント	15.7	36.5	17.9	10.6	14.6	95.3	4.7	100.0
	有効パーセント	16.5	38.3	18.8	11.1	15.3	100.0		
登米圏域	度数	46	111	31	18	37	243	8	251
	パーセント	18.3	44.2	12.4	7.2	14.7	96.8	3.2	100.0
	有効パーセント	18.9	45.7	12.8	7.4	15.2	100.0		
石巻圏域	度数	38	99	32	18	29	216	8	224
	パーセント	17.0	44.2	14.3	8.0	12.9	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	17.6	45.8	14.8	8.3	13.4	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	46	112	45	12	27	242	5	247
	パーセント	18.6	45.3	18.2	4.9	10.9	98.0	2.0	100.0
	有効パーセント	19.0	46.3	18.6	5.0	11.2	100.0		

【優先項目】

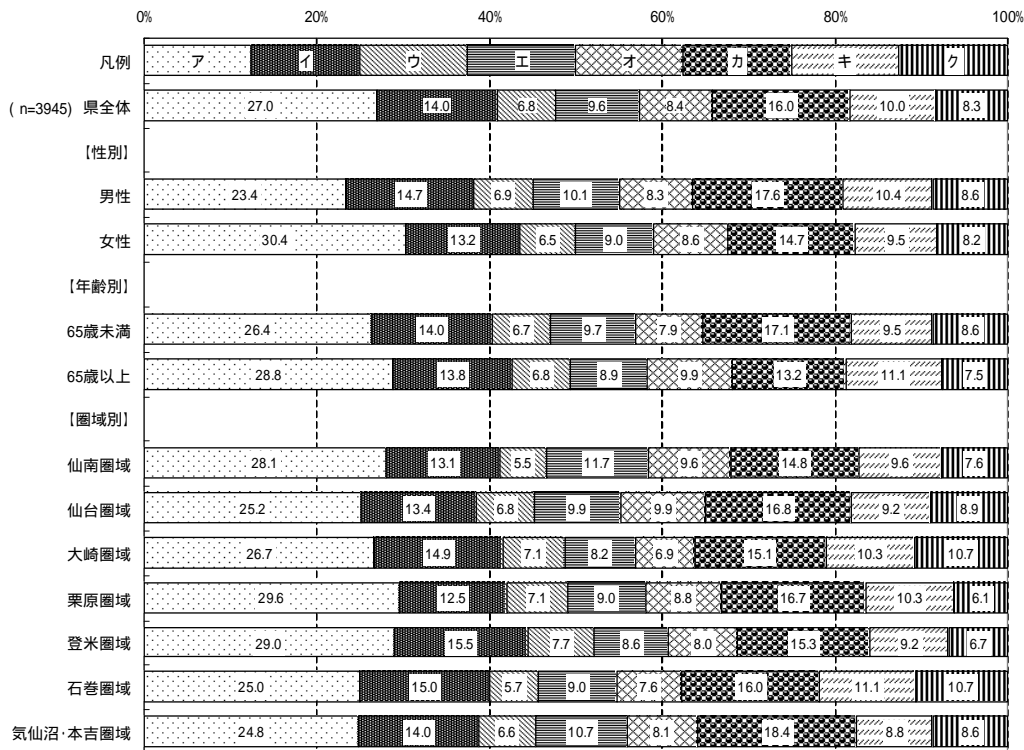
県が取組 3 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 高齢化社会や健康志向などを踏まえて行う、消費者が求める商品づくり
- イ 新たな加工食品などの開発を、農林水産業、食品製造業者等が協力しながら行う体制づくりへの支援
- ウ 県内での取引を活発にするための、企業間の取引などの仲介
- エ 商品開発力や販売力を強化するための食品製造業の経営革新
- オ 産学官の連携や地域の食文化を生かした新商品開発
- カ 販売競争を有利に進めるための県産食品のイメージアップ
- キ 県や関係機関が協力して行う大規模商談会や、首都圏などで開催される国際規模の商談会での、県産食品の取引拡大のに向けた支援
- ク 首都圏などでの市場調査や、企業間の販売や取引の仲介の支援



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3945度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、アの消費者が求める商品づくりで、1064度であった。次が、カの販売競争を有利に進めるための県産食品のイメージアップで、632度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**ア**の消費者が求める商品づくりが、男性の23.4%に対し女性が30.4%で、女性の方が7.0ポイント高かった。**カ**の県産食品のイメージアップは女性が14.7%に対し男性は17.6%で、男性の方が2.9ポイント高かった。

年齢別では、**ア**の消費者が求める商品づくりは65歳未満が26.4%に対し65歳以上は28.8%で、65歳以上が2.4ポイント高かった。また、**カ**の県産食品のイメージアップは65歳未満が17.1%に対し65歳以上は13.2%で、65歳未満が3.9ポイント高かった。

圏域別では、**ア**の消費者が求める商品づくりで、栗原圏域(29.6%)と、登米圏域(29.0%)が高かった。

また、**カ**の県産食品のイメージアップでは、気仙沼・本吉圏域(18.4%)、仙台圏域(16.8%)、栗原圏域(16.7%)及び石巻圏域(16.0%)が高かった。

取組 4 「高付加価値型サービス産業・情報産業及び地域商業の振興」

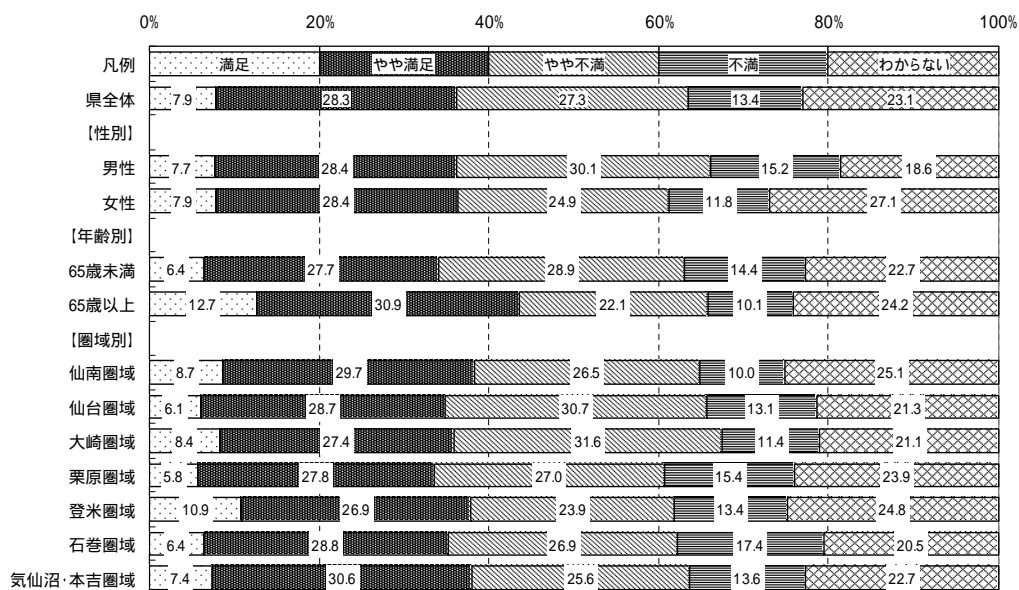
【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

商店街の魅力アップのため、商店街団体等が行う商店街の施設整備、情報化、空き店舗有効活用等の事業に対して市町村を通して支援しています。

情報産業のブランド確立を目指し、県内IT企業のビジネスプランの経費の一部を助成したり、優れた商品の表彰、商談会の開催を行っています。

コールセンター等情報通信関連企業の誘致を通じて情報産業の集積を進めるため、初期投資の負担軽減を目的に、一定の要件を満たした立地企業に対し奨励金を交付しています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が36.2%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の40.7%に対し4.5ポイント下回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が47.0%、『不満』は53.0%であった。

性別に見ると、『満足』は男女ほぼ同じであったが、『不満』は男性が45.3%に対し、女性は36.7%と、男性の方が8.6ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が34.1%、65歳以上の『満足』が43.6%と、65歳以上の方が9.5ポイント高かった。

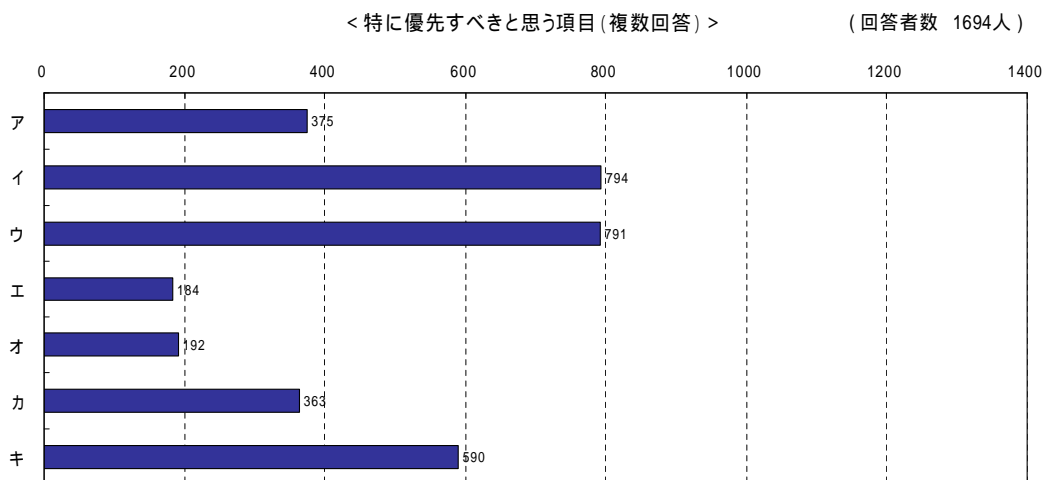
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは仙南圏域（38.4%）、気仙沼・本吉圏域（38.0%）及び登米圏域（37.8%）であり、一方、比較的低いのが栗原圏域（33.6%）であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	135	485	469	230	396	1715	63	1778
	パーセント	7.6	27.3	26.4	12.9	22.3	96.5	3.5	100.0
	有効パーセント	7.9	28.3	27.3	13.4	23.1	100.0		
	有効パーセント 「わからない」を除く有効	10.2	36.8	35.6	17.4	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	64	235	249	126	154	828	32	860
	パーセント	7.4	27.3	29.0	14.7	17.9	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	7.7	28.4	30.1	15.2	18.6	100.0		
女性	度数	68	246	215	102	234	865	28	893
	パーセント	7.6	27.5	24.1	11.4	26.2	96.9	3.1	100.0
	有効パーセント	7.9	28.4	24.9	11.8	27.1	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	83	361	377	188	296	1305	31	1336
	パーセント	6.2	27.0	28.2	14.1	22.2	97.7	2.3	100.0
	有効パーセント	6.4	27.7	28.9	14.4	22.7	100.0		
65歳以上	度数	49	119	85	39	93	385	29	414
	パーセント	11.8	28.7	20.5	9.4	22.5	93.0	7.0	100.0
	有効パーセント	12.7	30.9	22.1	10.1	24.2	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	19	65	58	22	55	219	11	230
	パーセント	8.3	28.3	25.2	9.6	23.9	95.2	4.8	100.0
	有効パーセント	8.7	29.7	26.5	10.0	25.1	100.0		
仙台圏域	度数	15	70	75	32	52	244	4	248
	パーセント	6.0	28.2	30.2	12.9	21.0	98.4	1.6	100.0
	有効パーセント	6.1	28.7	30.7	13.1	21.3	100.0		
大崎圏域	度数	20	65	75	27	50	237	4	241
	パーセント	8.3	27.0	31.1	11.2	20.7	98.3	1.7	100.0
	有効パーセント	8.4	27.4	31.6	11.4	21.1	100.0		
栗原圏域	度数	15	72	70	40	62	259	15	274
	パーセント	5.5	26.3	25.5	14.6	22.6	94.5	5.5	100.0
	有効パーセント	5.8	27.8	27.0	15.4	23.9	100.0		
登米圏域	度数	26	64	57	32	59	238	13	251
	パーセント	10.4	25.5	22.7	12.7	23.5	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	10.9	26.9	23.9	13.4	24.8	100.0		
石巻圏域	度数	14	63	59	38	45	219	5	224
	パーセント	6.3	28.1	26.3	17.0	20.1	97.8	2.2	100.0
	有効パーセント	6.4	28.8	26.9	17.4	20.5	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	18	74	62	33	55	242	5	247
	パーセント	7.3	30.0	25.1	13.4	22.3	98.0	2.0	100.0
	有効パーセント	7.4	30.6	25.6	13.6	22.7	100.0		

【優先項目】

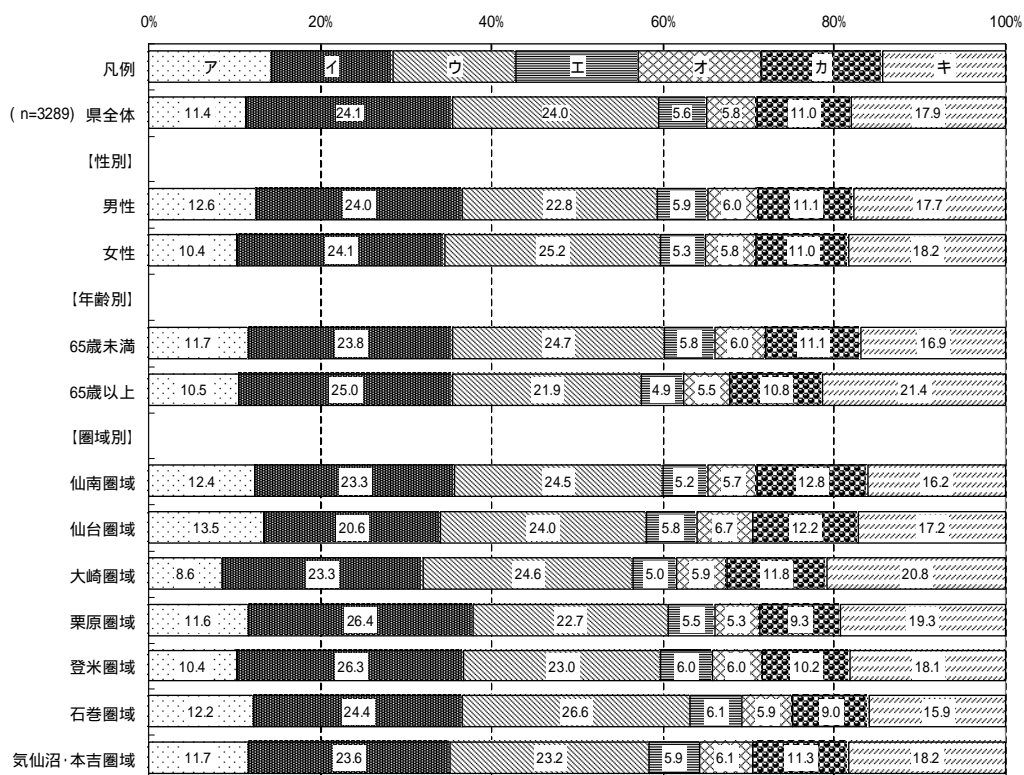
県が取組4に関し10年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 地域経済を活性化させる新たな事業モデルづくりや、世界規模での商取引や流通の合理化など、経済構造の変化に対応した新たな事業展開に対するアドバイス機能の充実
- イ 地域の住民が主体となって地域の課題解決に取り組み、それにより地域を活性化するコミュニティビジネスのような、地域や生活に密着したサービス業を行う場合の支援
- ウ 地域住民や公共サービスと連携した地域商業の活性化支援
- エ コールセンターなどの企業（サービス業）の誘致促進
- オ 情報関連技術者の養成と、企業が経営革新する場合の情報関連技術の積極的活用
- カ 情報関連産業で活躍できる高度な技術を持つ人材の育成支援
- キ 健康福祉分野や家電製品の組込みソフトなど、成長が期待される分野での市場占有率獲得をめざした技術習得、人材交流、商品開発等への支援



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3289度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、イの地域や生活に密着したサービス業を行う場合の支援で、794度であった。次が、ウの地域商業の活性化支援で、791度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、ウの地域商業の活性化支援が、男性の22.8%に対し女性が25.2%で、女性の方が2.4ポイント高かった。また、アの新たな事業展開に対するアドバイス機能の充実は、女性が10.4%に対し男性は12.6%で、男性の方が2.2ポイント高かった。

年齢別では、キの成長が期待される分野での市場占有率獲得をめざした技術習得、人材交流、商品開発等への支援が、65歳未満が16.9%に対し65歳以上は21.4%で、65歳以上が4.5ポイント高かった。

圏域別では、イの地域や生活に密着したサービス業を行う場合の支援で、栗原圏域(26.4%)、登米圏域(26.3%)が高く、ウの地域商業の活性化支援では、石巻圏域(26.6%)が高かった。

取組 5 「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

県内の民間旅行会社やホテル・旅館など観光関係事業者と一体となり、旅行商品を販売している首都圏を始めとする県外の旅行エージェントやマスコミ等に対して、本県の観光資源のPRを行いました。

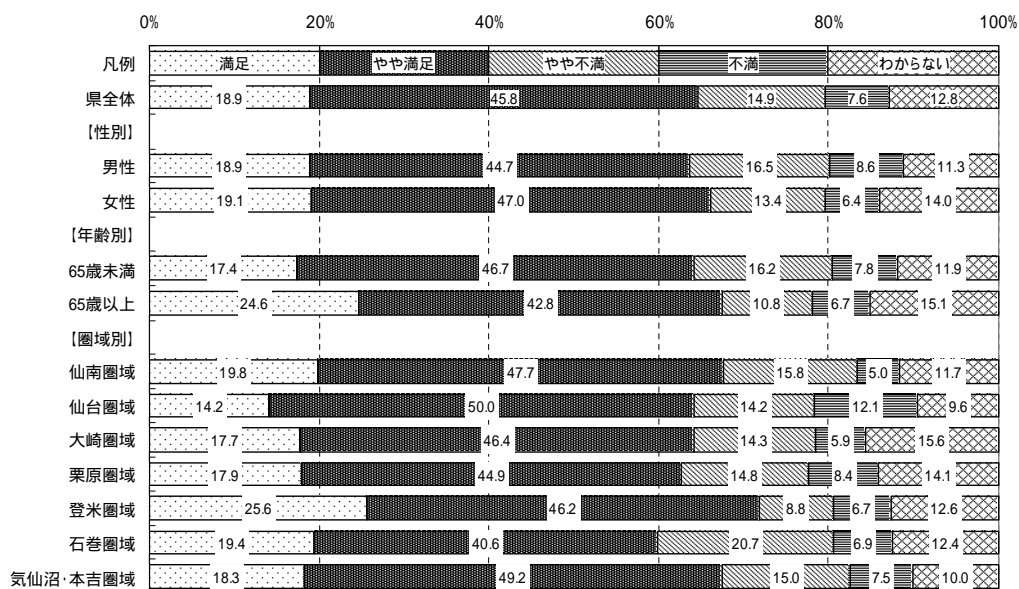
全国からの観光客誘致を推進するため「サザエさん」とのタイアップによるキャラクターを活用した宣伝事業やインパクトのある観光ポスターを作成し、本県のイメージアップを図りました。

観光客の利便性を向上し、市町村合併や外国人増加に対応するため、県で設置した広域観光案内板について、観光情報の更新や市町村名の変更、多言語表記の追加などを行っています。

海外からの観光客誘致促進のため、東アジアを中心とした国々を対象に、海外旅行エージェントを本県に招へいし、観光施設を視察してもらったり、海外のマスコミに本県の観光施設の記事を紹介してもらうなど、各種プロモーションを行いました。

「東北楽天ゴールデンイーグルス」の知名度と集客力を活用した、観光キャンペーン（野球観戦から県内温泉旅館等への誘導）と県内地場産品等の販売促進支援を実施しました。

農山漁村が持つ優れた景観や文化、食材を活用したグリーン・ツーリズムなど、県内各地の特徴を活かしながら都市との交流活動ができるよう支援を行っています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が64.7%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の22.5%に対し大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が74.2%、『不満』は25.8%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が63.6%に対し、女性は66.1%と、女性の方が2.5ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が64.1%、65歳以上の『満足』が67.4%と、65歳以上の方が3.3ポイント高かった。

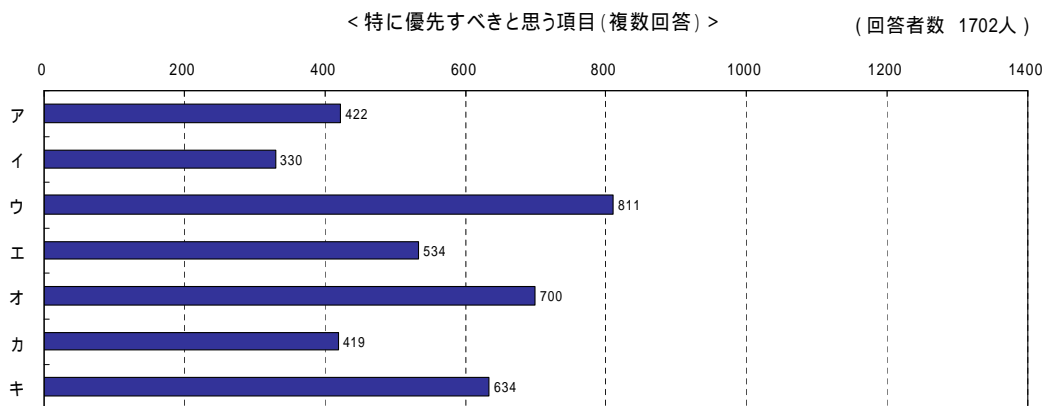
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは登米圏域(71.8%)、仙南圏域(67.5%)及び気仙沼・本吉圏域(67.5%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	324	784	256	130	219	1713	65	1778
	パーセント	18.2	44.1	14.4	7.3	12.3	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	18.9	45.8	14.9	7.6	12.8	100.0		
	有効パーセント (「わからない」を除く有効パーセント)	21.7	52.5	17.1	8.7	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	158	373	138	72	94	835	25	860
	パーセント	18.4	43.4	16.0	8.4	10.9	97.1	2.9	100.0
	有効パーセント	18.9	44.7	16.5	8.6	11.3	100.0		
女性	度数	164	403	115	55	120	857	36	893
	パーセント	18.4	45.1	12.9	6.2	13.4	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	19.1	47.0	13.4	6.4	14.0	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	226	607	211	101	154	1299	37	1336
	パーセント	16.9	45.4	15.8	7.6	11.5	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	17.4	46.7	16.2	7.8	11.9	100.0		
65歳以上	度数	96	167	42	26	59	390	24	414
	パーセント	23.2	40.3	10.1	6.3	14.3	94.2	5.8	100.0
	有効パーセント	24.6	42.8	10.8	6.7	15.1	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	44	106	35	11	26	222	8	230
	パーセント	19.1	46.1	15.2	4.8	11.3	96.5	3.5	100.0
	有効パーセント	19.8	47.7	15.8	5.0	11.7	100.0		
仙台圏域	度数	34	120	34	29	23	240	8	248
	パーセント	13.7	48.4	13.7	11.7	9.3	96.8	3.2	100.0
	有効パーセント	14.2	50.0	14.2	12.1	9.6	100.0		
大崎圏域	度数	42	110	34	14	37	237	4	241
	パーセント	17.4	45.6	14.1	5.8	15.4	98.3	1.7	100.0
	有効パーセント	17.7	46.4	14.3	5.9	15.6	100.0		
栗原圏域	度数	47	118	39	22	37	263	11	274
	パーセント	17.2	43.1	14.2	8.0	13.5	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	17.9	44.9	14.8	8.4	14.1	100.0		
登米圏域	度数	61	110	21	16	30	238	13	251
	パーセント	24.3	43.8	8.4	6.4	12.0	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	25.6	46.2	8.8	6.7	12.6	100.0		
石巻圏域	度数	42	88	45	15	27	217	7	224
	パーセント	18.8	39.3	20.1	6.7	12.1	96.9	3.1	100.0
	有効パーセント	19.4	40.6	20.7	6.9	12.4	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	44	118	36	18	24	240	7	247
	パーセント	17.8	47.8	14.6	7.3	9.7	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	18.3	49.2	15.0	7.5	10.0	100.0		

【優先項目】

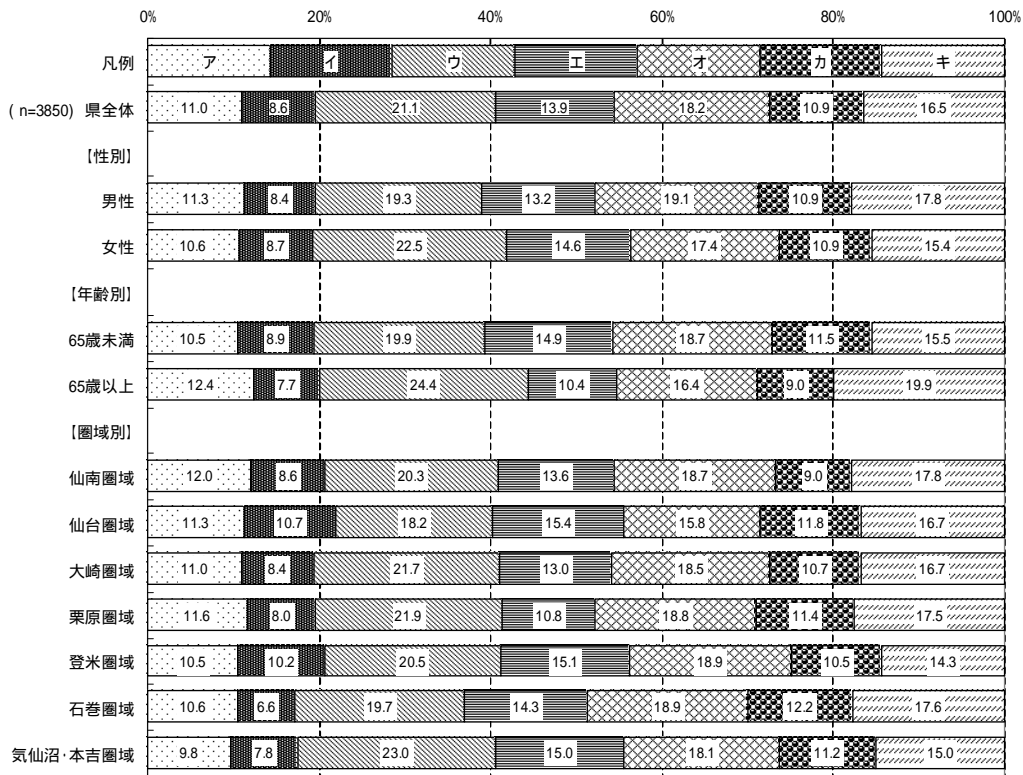
県が取組 5 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」など催し物や行事を活用した積極的な誘客活動
- イ インターネットや広報媒体などを活用した効果的な情報発信や、団塊の世代などの絞った集客活動
- ウ 地域一体となった「もてなしの心」向上のための取組強化や、誰もが安全安心に観光できる環境づくり
- エ 観光施設及び案内板・標識の整備、バリアフリー・ユニバーサルデザインの普及
- オ 温泉や食材、プロスポーツなど宮城独自の資源を生かした体験・滞在型観光の発掘・整備
- カ 自然環境や伝統文化などを活用したグリーン・ツーリズム及びエコ・ツーリズム推進体制づくり
- キ 東北各県や関係機関との連携による観光ルートの設定など観光推進組織の強化



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3850度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、ウの地域一体となった「もてなしの心」向上のための取組強化や、誰もが安全安心に観光できる環境づくりで、811度であった。次いで、オの宮城独自の資源を生かした体験・滞在型観光の発掘・整備が700度、キの東北各県や関係機関との連携による観光ルートの設定など観光推進組織の強化が634度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、ウの地域一体となった「もてなしの心」向上のための取組強化や、誰もが安全安心に観光できる環境づくりが、男性19.3%に対し女性が22.5%と、女性の方が3.2ポイント高かった。キの東北各県や関係機関との連携による観光ルートの設定など観光推進組織の強化は女性が15.4%に対し男性は17.8%で、男性の方が2.4ポイント高かった。

年齢別では、ウの地域一体となった「もてなしの心」向上のための取組強化や、誰もが安全安心に観光できる環境づくりが、65歳未満が19.9%に対し65歳以上は24.4%で、65歳以上が4.5ポイント高かった。また、キの東北各県や関係機関との連携による観光ルートの設定など観光推進組織の強化は、65歳未満が15.5%に対し65歳以上は19.9%で、65歳以上が4.4ポイント高かった。

圏域別では、ウの地域一体となった「もてなしの心」向上のための取組強化や、誰もが安全安心に観光できる環境づくりで、気仙沼・本吉圏域(23.0%)が高かった。オの宮城独自の資源を生かした体験・滞在型観光の発掘・整備では、登米圏域(18.9%)、石巻圏域(18.9%)及び栗原圏域(18.8%)が高かった。

取組 6 「競争力ある農林水産業への転換」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

農薬や化学肥料の使用を半分以下にした農産物を県が認証する「みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度」を運営し、消費者ニーズに応える農産物の供給を支援しています。

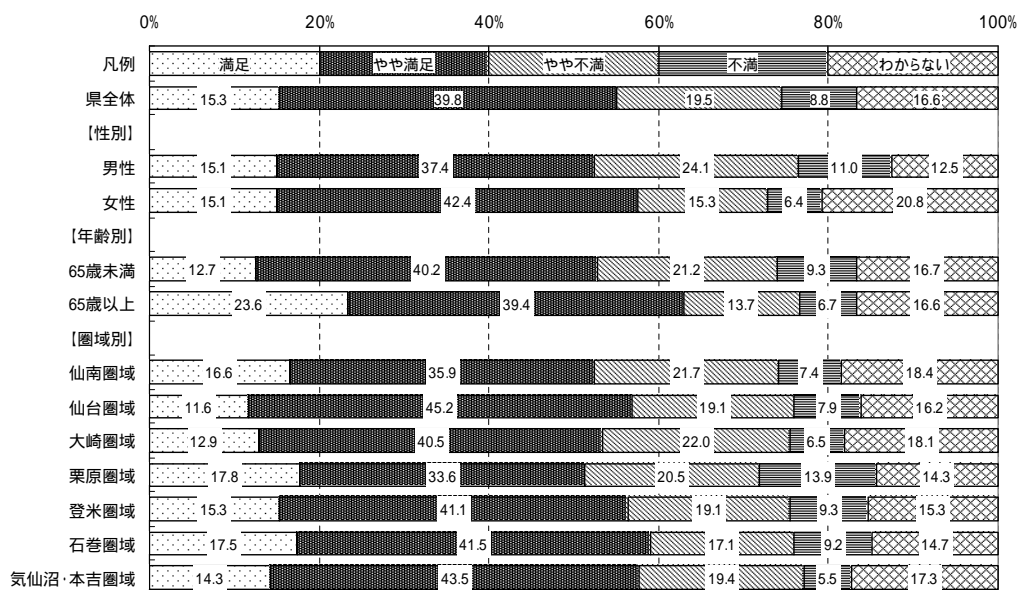
「みやぎ米」の地位の確立のため、情報の収集・提供を行う「みやぎ米情報ネット」の運営のほか、最高級米「みやぎ吟撰米」の品質確保、安定生産などを図っています。

仙台湾の環境悪化が漁業資源に悪影響を与えていることから、実態把握のための環境・漁業調査を行い、仙台湾再生に向けた取り組みを進めています。

県産水産物のPRや販路拡大等への支援、「生メバチマグロ（塩電）」や「戻りがつお（石巻）」を対象とした全国に誇れるブランド魚創出への支援を行っています。

高品質県産材の「優良みやぎ材」としてのブランド化を推進し、生産と流通の拡大を図りながら認知度の向上を目指しています。

新たなアグリビジネスに取り組む優れた人材や企業を育成するほか、食料産業を活性化するための組織づくりなどを推進することにより、宮城県農業の成長産業分野への転換を図っています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が55.1%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の28.3%に対し大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が66.0%、『不満』は34.0%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が52.5%に対し、女性は57.5%と、女性の方が5.0ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が52.9%に対し65歳以上の『満足』が63.0%と、65歳以上の方が10.1ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは石巻圏域(59.0%)、気仙沼・本吉圏域(57.8%)、仙台圏域(56.8%)、及び登米圏域(56.4%)であった。

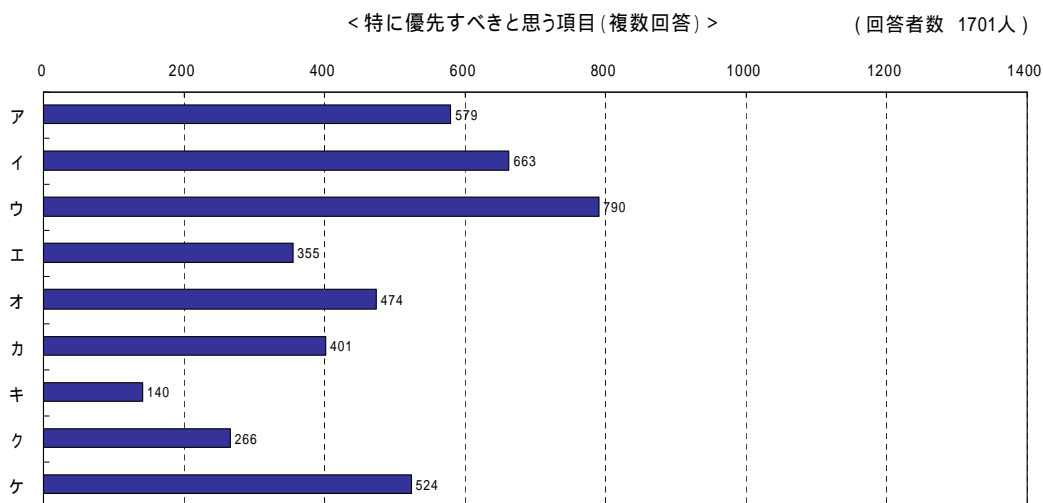
一方、『満足』の割合が比較的低いのは、栗原圏域(51.4%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	260	675	331	150	282	1698	80	1778
	パーセント	14.6	38.0	18.6	8.4	15.9	95.5	4.5	100.0
	有効パーセント	15.3	39.8	19.5	8.8	16.6	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	18.4	47.7	23.4	10.6	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	125	309	199	91	103	827	33	860
	パーセント	14.5	35.9	23.1	10.6	12.0	96.2	3.8	100.0
	有効パーセント	15.1	37.4	24.1	11.0	12.5	100.0		
女性	度数	128	359	130	54	176	847	46	893
	パーセント	14.3	40.2	14.6	6.0	19.7	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	15.1	42.4	15.3	6.4	20.8	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	163	516	273	119	214	1285	51	1336
	パーセント	12.2	38.6	20.4	8.9	16.0	96.2	3.8	100.0
	有効パーセント	12.7	40.2	21.2	9.3	16.7	100.0		
65歳以上	度数	91	152	53	26	64	386	28	414
	パーセント	22.0	36.7	12.8	6.3	15.5	93.2	6.8	100.0
	有効パーセント	23.6	39.4	13.7	6.7	16.6	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	36	78	47	16	40	217	13	230
	パーセント	15.7	33.9	20.4	7.0	17.4	94.3	5.7	100.0
	有効パーセント	16.6	35.9	21.7	7.4	18.4	100.0		
仙台圏域	度数	28	109	46	19	39	241	7	248
	パーセント	11.3	44.0	18.5	7.7	15.7	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	11.6	45.2	19.1	7.9	16.2	100.0		
大崎圏域	度数	30	94	51	15	42	232	9	241
	パーセント	12.4	39.0	21.2	6.2	17.4	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	12.9	40.5	22.0	6.5	18.1	100.0		
栗原圏域	度数	46	87	53	36	37	259	15	274
	パーセント	16.8	31.8	19.3	13.1	13.5	94.5	5.5	100.0
	有効パーセント	17.8	33.6	20.5	13.9	14.3	100.0		
登米圏域	度数	36	97	45	22	36	236	15	251
	パーセント	14.3	38.6	17.9	8.8	14.3	94.0	6.0	100.0
	有効パーセント	15.3	41.1	19.1	9.3	15.3	100.0		
石巻圏域	度数	38	90	37	20	32	217	7	224
	パーセント	17.0	40.2	16.5	8.9	14.3	96.9	3.1	100.0
	有効パーセント	17.5	41.5	17.1	9.2	14.7	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	34	103	46	13	41	237	10	247
	パーセント	13.8	41.7	18.6	5.3	16.6	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	14.3	43.5	19.4	5.5	17.3	100.0		

【優先項目】

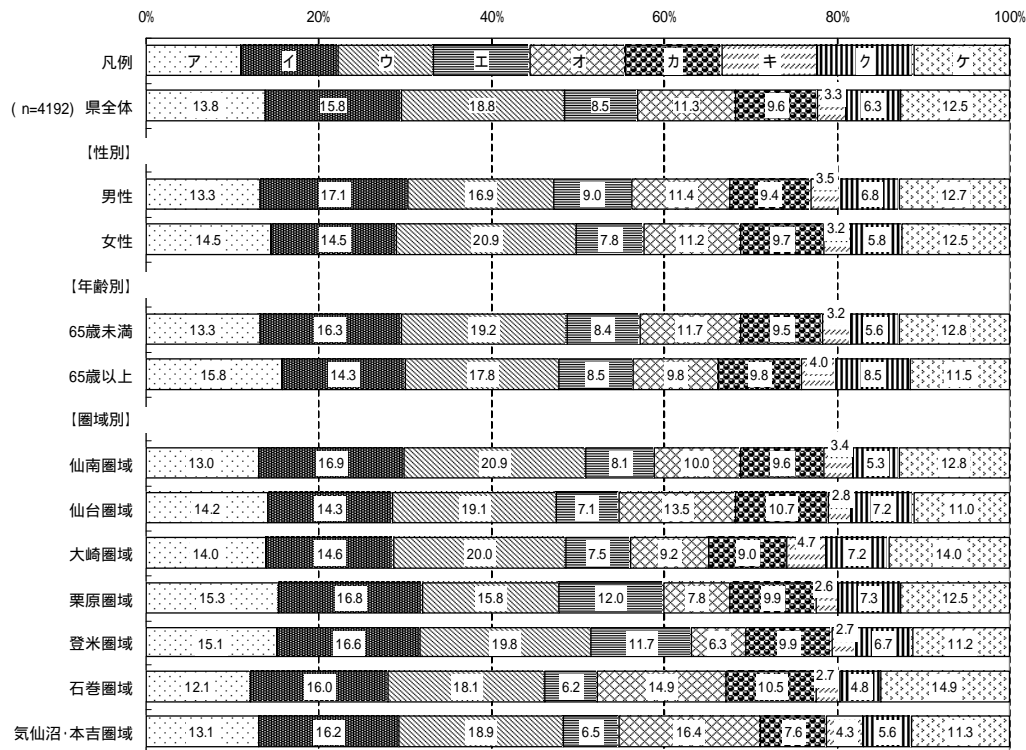
県が取組 6 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 消費者の視点に立って商品を生産していく農林水産業への転換支援
- イ 「食材王国みやぎ」を支える県産農林水産物のブランド化
- ウ 安全安心な農林水産物の生産と安定供給体制の確立支援
- エ 農業生産規模の拡大や集団化、農業者が生産から流通・加工・販売などを一体で行うアグリビジネスなど、企業的経営の促進
- オ 水産資源の適切な保全と管理、養殖や増殖の推進及び生育環境の保全と改善
- カ 計画的な森林づくりから木材流通までの生産経費の低減、良質な製材品の生産の促進
- キ 農林水産業と流通加工業等との取引の仲介支援
- ク 東アジア市場など海外にも目を向けた、県産食品の輸出促進
- ケ 農林水産業の経営力や技術力の向上と、効率的な生産を支える基盤づくり



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、4192度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、ウの安全安心な農林水産物の生産と安定供給体制の確立支援が790度で、次に、イの「食材王国みやぎ」を支える県産農林水産物のブランド化が、663度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、ウの安全安心な農林水産物の生産と安定供給体制の確立支援が、男性16.9%に対し女性が20.9%と、女性の方が4.0ポイント高かった。

イの「食材王国みやぎ」を支える県産農林水産物のブランド化は、女性が14.5%に対し男性は17.1%で、男性の方が2.6ポイント高かった。

年齢別では、イの「食材王国みやぎ」を支える県産農林水産物のブランド化が、65歳未満が16.3%に対し65歳以上は14.3%で、65歳未満の方が2.0ポイント高かった。また、アの農林水産業への転換支援は、65歳未満が13.3%に対し65歳以上は15.8%で、65歳以上の方が2.5ポイント高かった。

圏域別では、ウの安全安心な農林水産物の生産と安定供給体制の確立支援で、仙南圏域(20.9%)、大崎圏域(20.0%)が高かった。

また、イの「食材王国みやぎ」を支える県産農林水産物のブランド化では、仙南圏域(16.9%)と、栗原圏域(16.8%)が高かった。

取組 7 「地産地消や食育を通じた需要の創出と食の安全安心の確保」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

食の安全安心確保対策が持続的かつ着実に進められるよう、食の安全安心取組宣言、食の安全安心モニター制度等の普及を進めています。

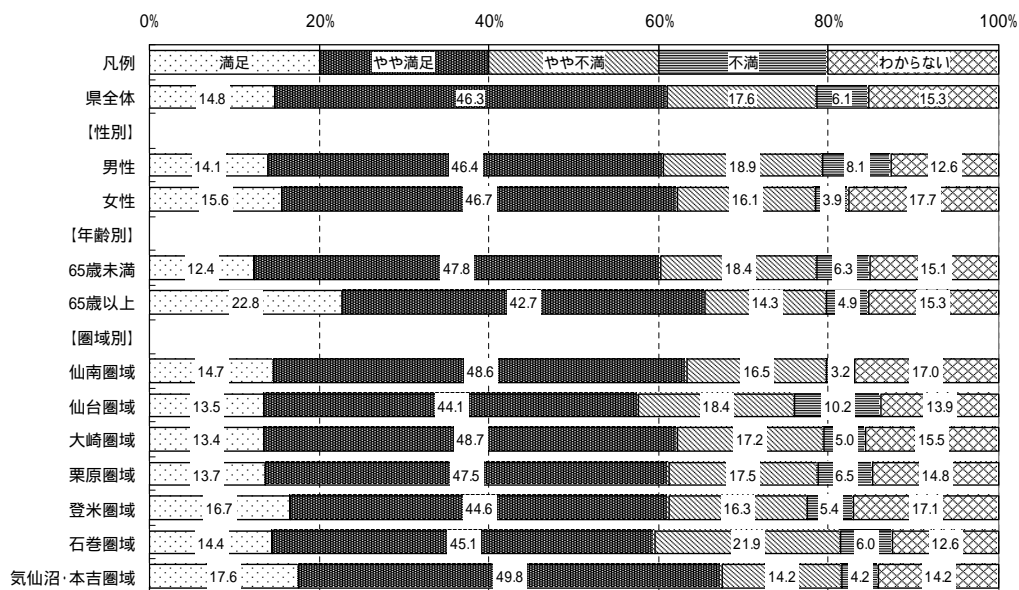
環境負荷低減技術の導入計画を作成した農業者を県がエコファーマーとして認定し、環境保全型農業を進める農業者を育成しています。

学校給食での地場野菜利用を増やすため、供給体制の構築を支援したり、学校給食地域食材月間を設けたりしています。

県内産のカキを安全な食品として生産・販売するため、ウィルスの除去方法の開発や、短時間で安全性を確認できる検査方法の開発を進めています。

安全で安心な水産物・水産加工品を供給するため、産地魚市場や水産加工場における衛生対策をより一層推進するための取組を支援しています。

本県の主要な森林資源であるスギ材の用途拡大に向け、新たな住宅資材など利用技術開発を行い、民間企業等への技術移転を進めています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が61.1%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の23.7%に対し大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が72.0%、『不満』は28.0%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が60.5%に対し、女性は62.3%と、女性の方が1.8ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が60.2%に対し65歳以上の『満足』が65.5%と、65歳以上の方が5.3ポイント高かった。

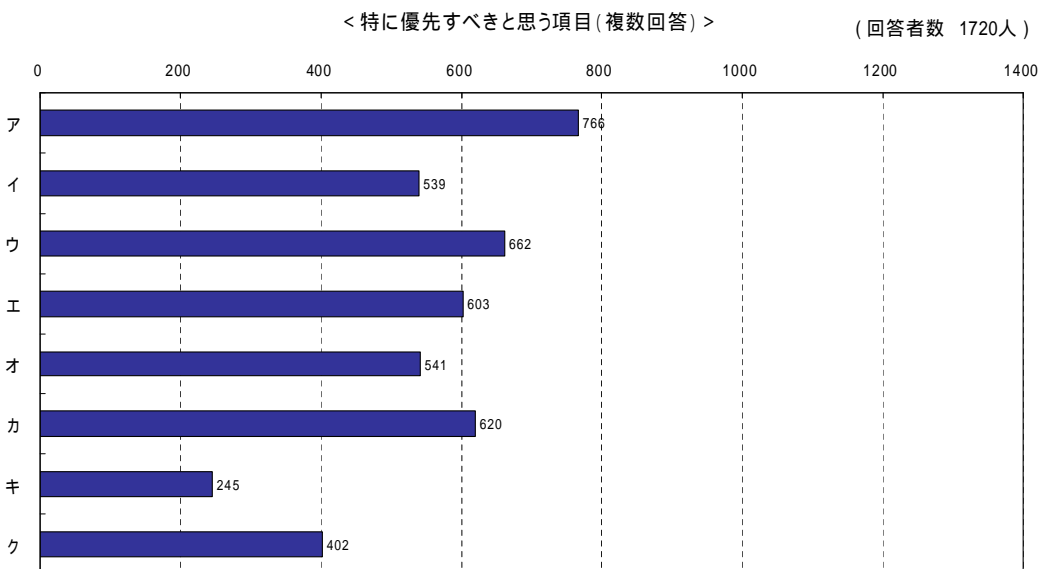
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、気仙沼・本吉圏域(67.4%)、仙南圏域(63.3%)であった。一方、『満足』の割合が比較的低いのは、仙台圏域(57.6%)であった。

		有効					欠損値		合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	合計		
県全体	度数	253	793	301	105	262	1714	64	1778
	パーセント	14.2	44.6	16.9	5.9	14.7	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	14.8	46.3	17.6	6.1	15.3	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	17.4	54.6	20.7	7.2	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	117	386	157	67	105	832	28	860
	パーセント	13.6	44.9	18.3	7.8	12.2	96.7	3.3	100.0
	有効パーセント	14.1	46.4	18.9	8.1	12.6	100.0		
女性	度数	134	402	139	34	152	861	32	893
	パーセント	15.0	45.0	15.6	3.8	17.0	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	15.6	46.7	16.1	3.9	17.7	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	161	621	239	82	196	1299	37	1336
	パーセント	12.1	46.5	17.9	6.1	14.7	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	12.4	47.8	18.4	6.3	15.1	100.0		
65歳以上	度数	89	167	56	19	60	391	23	414
	パーセント	21.5	40.3	13.5	4.6	14.5	94.4	5.6	100.0
	有効パーセント	22.8	42.7	14.3	4.9	15.3	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	32	106	36	7	37	218	12	230
	パーセント	13.9	46.1	15.7	3.0	16.1	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	14.7	48.6	16.5	3.2	17.0	100.0		
仙台圏域	度数	33	108	45	25	34	245	3	248
	パーセント	13.3	43.5	18.1	10.1	13.7	98.8	1.2	100.0
	有効パーセント	13.5	44.1	18.4	10.2	13.9	100.0		
大崎圏域	度数	32	116	41	12	37	238	3	241
	パーセント	13.3	48.1	17.0	5.0	15.4	98.8	1.2	100.0
	有効パーセント	13.4	48.7	17.2	5.0	15.5	100.0		
栗原圏域	度数	36	125	46	17	39	263	11	274
	パーセント	13.1	45.6	16.8	6.2	14.2	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	13.7	47.5	17.5	6.5	14.8	100.0		
登米圏域	度数	40	107	39	13	41	240	11	251
	パーセント	15.9	42.6	15.5	5.2	16.3	95.6	4.4	100.0
	有効パーセント	16.7	44.6	16.3	5.4	17.1	100.0		
石巻圏域	度数	31	97	47	13	27	215	9	224
	パーセント	13.8	43.3	21.0	5.8	12.1	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	14.4	45.1	21.9	6.0	12.6	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	42	119	34	10	34	239	8	247
	パーセント	17.0	48.2	13.8	4.0	13.8	96.8	3.2	100.0
	有効パーセント	17.6	49.8	14.2	4.2	14.2	100.0		

【優先項目】

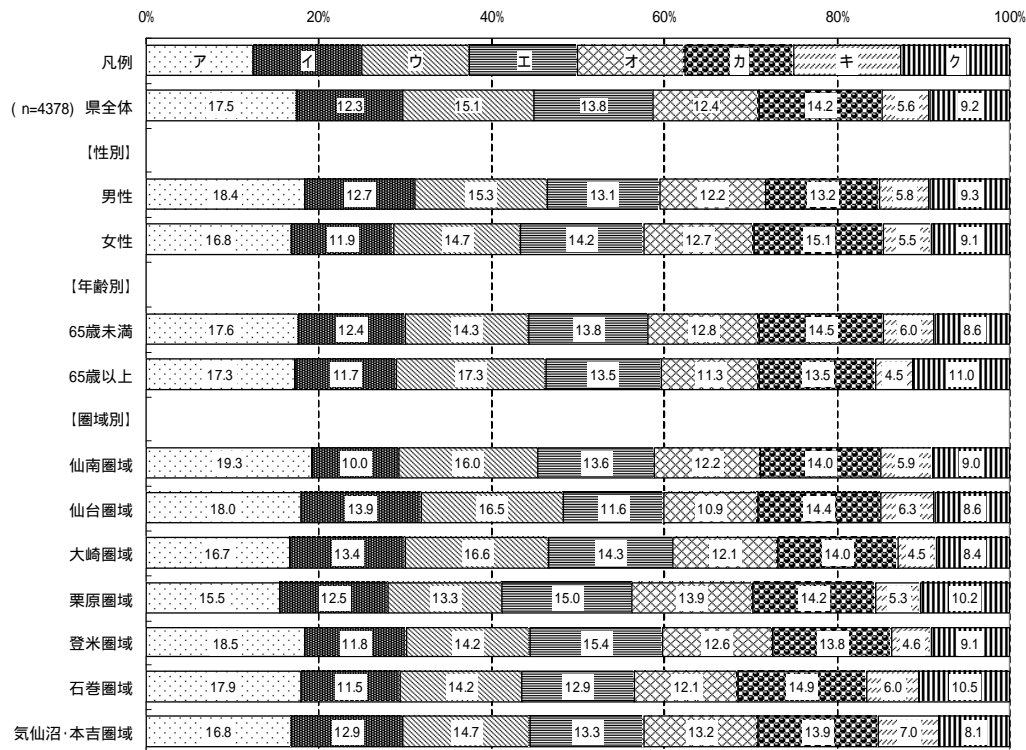
県が取組 7 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 安全安心な食品の安定供給のための、環境保全型農業を実施する農業者の育成や食品の衛生管理体制の確立
- イ 生産者と消費者の間での食材や食品についての情報共有による相互理解など、安全安心についての信頼関係づくり
- ウ 行政、生産者、事業者、消費者などが連携して行う食の安全安心を支える体制づくり
- エ 地産池消につながる県産食材の学校給食への利用促進
- オ 地元食材を県内で消費できる各地域での仕組みづくりや直売施設の活用・支援
- カ 宮城の豊かな「食」を生かした食育の推進
- キ 県産食材の再認識・再発見を促す情報や機会の提供と県内供給力の向上
- ク 県産材を積極的に使うことが森を育てることにつながる「みやぎの木づかい運動」の推進や、県産材の利用技術の開発支援、「優良みやぎ材」の利用促進



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、4378度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**ア**の安全安心な食品の安定供給のための、環境保全型農業を実施する農業者の育成や食品の衛生管理体制の確立で、766度であった。次に、**ウ**の行政、生産者、事業者、消費者などが連携して行う食の安全安心を支える体制づくりが、662度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**ア**の安全安心な食品の安定供給のための、環境保全型農業を実施する農業者の育成や食品の衛生管理体制の確立が、男性18.4%に対し女性が16.8%と、男性の方が1.6ポイント高かった。

年齢別では、**ウ**の行政、生産者、事業者、消費者などが連携して行う食の安全安心を支える体制づくりが、65歳未満が14.3%に対し65歳以上は17.3%で、65歳以上の方が3.0ポイント高かった。また、**ク**の「みやぎの木づかい運動」の推進や、県産材の利用技術の開発支援、「優良みやぎ材」の利用促進が、65歳未満が8.6%に対し65歳以上は11.0%で、65歳以上の方が2.4ポイント高かった。

圏域別では、**ア**の安全安心な食品の安定供給のための、環境保全型農業を実施する農業者の育成や食品の衛生管理体制の確立で、仙南圏域(19.3%)、登米圏域(18.5%)、仙台圏域(18.0%)が高かった。

また、**ウ**の行政、生産者、事業者、消費者などが連携して行う食の安全安心を支える体制づくりでは、大崎圏域(16.6%)、仙台圏域(16.5%)、及び仙南圏域(16.0%)が高かった。

取組 8 「県内企業のグローバルビジネスの推進と外資系企業の立地促進」

【満足度】

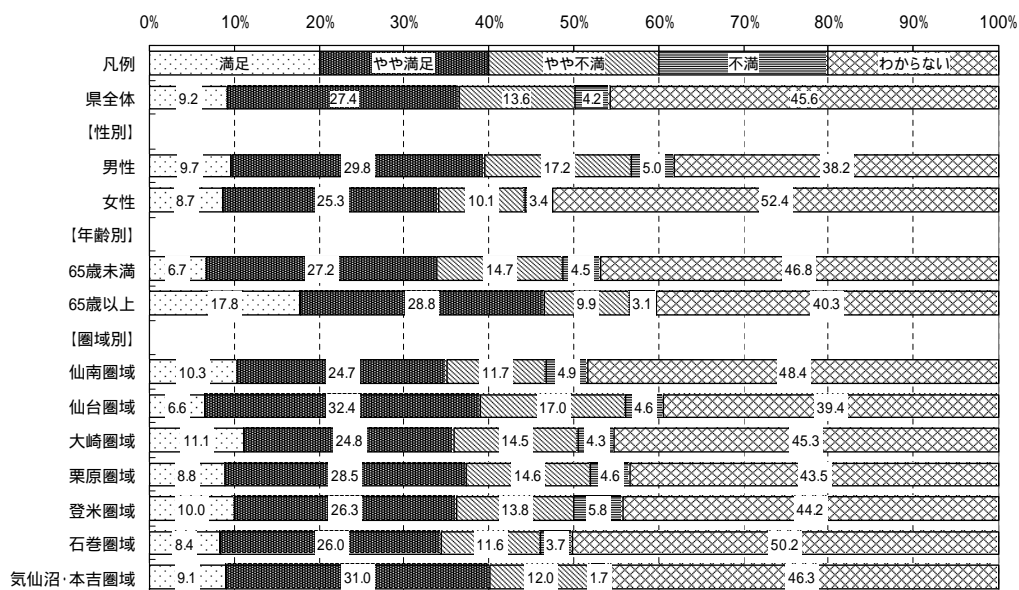
宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

東北大学等の学術研究機関と連携して海外から研究開発型企業を誘致するため、外資系企業・関係団体等を訪問するとともに本県に招へいし、情報収集や投資環境の説明を行いました。

米国からの投資を促進するため、JETRO（ジェトロ 日本貿易振興機構）及び仙台市と協力し、セミナーを開催、地元企業と米国企業との商取引につなげるための支援を行いました。

企業の海外展開を支援するため、アドバイザーによる個別相談や海外情報等を提供するセミナー等を実施しています。

東アジア地域との経済交流を促進するため、中国上海市等でのビジネスフェア等を開催し、県内企業と現地企業との商談会を行っています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が36.6%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の17.8%に対し上回った。

なお、「わからない」が45.6%あり、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が67.2%、『不満』は32.8%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が39.5%に対し、女性は34.0%と、男性の方が5.5ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が33.9%に対し65歳以上の『満足』が46.6%と、65歳以上の方が12.7ポイント高かった。

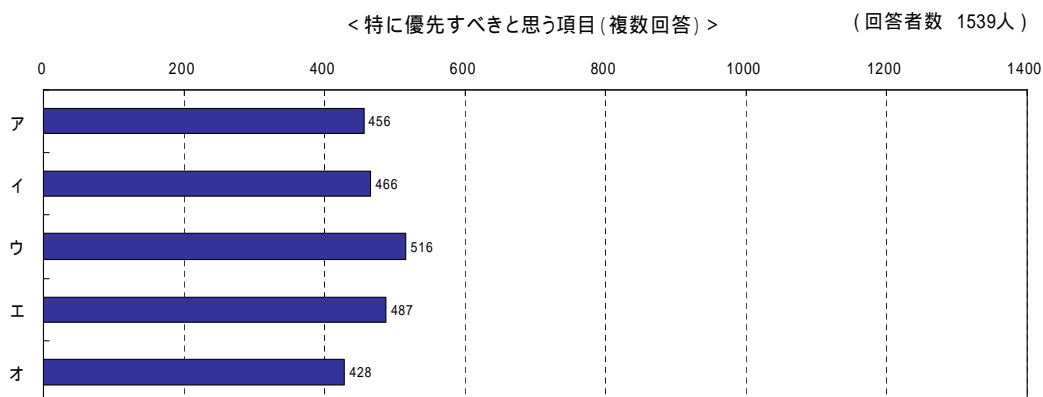
圏域別では『満足』の割合が高いのは、気仙沼・本吉圏域(40.1%)、仙台圏域(39.0%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	157	468	233	72	781	1711	67	1778
	パーセント	8.8	26.3	13.1	4.0	43.9	96.2	3.8	100.0
	有効パーセント	9.2	27.4	13.6	4.2	45.6	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	16.9	50.3	25.1	7.7	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	81	248	143	42	318	832	28	860
	パーセント	9.4	28.8	16.6	4.9	37.0	96.7	3.3	100.0
	有効パーセント	9.7	29.8	17.2	5.0	38.2	100.0		
女性	度数	75	217	87	29	450	858	35	893
	パーセント	8.4	24.3	9.7	3.2	50.4	96.1	3.9	100.0
	有効パーセント	8.7	25.3	10.1	3.4	52.4	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	88	355	192	59	611	1305	31	1336
	パーセント	6.6	26.6	14.4	4.4	45.7	97.7	2.3	100.0
	有効パーセント	6.7	27.2	14.7	4.5	46.8	100.0		
65歳以上	度数	68	110	38	12	154	382	32	414
	パーセント	16.4	26.6	9.2	2.9	37.2	92.3	7.7	100.0
	有効パーセント	17.8	28.8	9.9	3.1	40.3	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	23	55	26	11	108	223	7	230
	パーセント	10.0	23.9	11.3	4.8	47.0	97.0	3.0	100.0
	有効パーセント	10.3	24.7	11.7	4.9	48.4	100.0		
仙台圏域	度数	16	78	41	11	95	241	7	248
	パーセント	6.5	31.5	16.5	4.4	38.3	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	6.6	32.4	17.0	4.6	39.4	100.0		
大崎圏域	度数	26	58	34	10	106	234	7	241
	パーセント	10.8	24.1	14.1	4.1	44.0	97.1	2.9	100.0
	有効パーセント	11.1	24.8	14.5	4.3	45.3	100.0		
栗原圏域	度数	23	74	38	12	113	260	14	274
	パーセント	8.4	27.0	13.9	4.4	41.2	94.9	5.1	100.0
	有効パーセント	8.8	28.5	14.6	4.6	43.5	100.0		
登米圏域	度数	24	63	33	14	106	240	11	251
	パーセント	9.6	25.1	13.1	5.6	42.2	95.6	4.4	100.0
	有効パーセント	10.0	26.3	13.8	5.8	44.2	100.0		
石巻圏域	度数	18	56	25	8	108	215	9	224
	パーセント	8.0	25.0	11.2	3.6	48.2	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	8.4	26.0	11.6	3.7	50.2	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	22	75	29	4	112	242	5	247
	パーセント	8.9	30.4	11.7	1.6	45.3	98.0	2.0	100.0
	有効パーセント	9.1	31.0	12.0	1.7	46.3	100.0		

【優先項目】

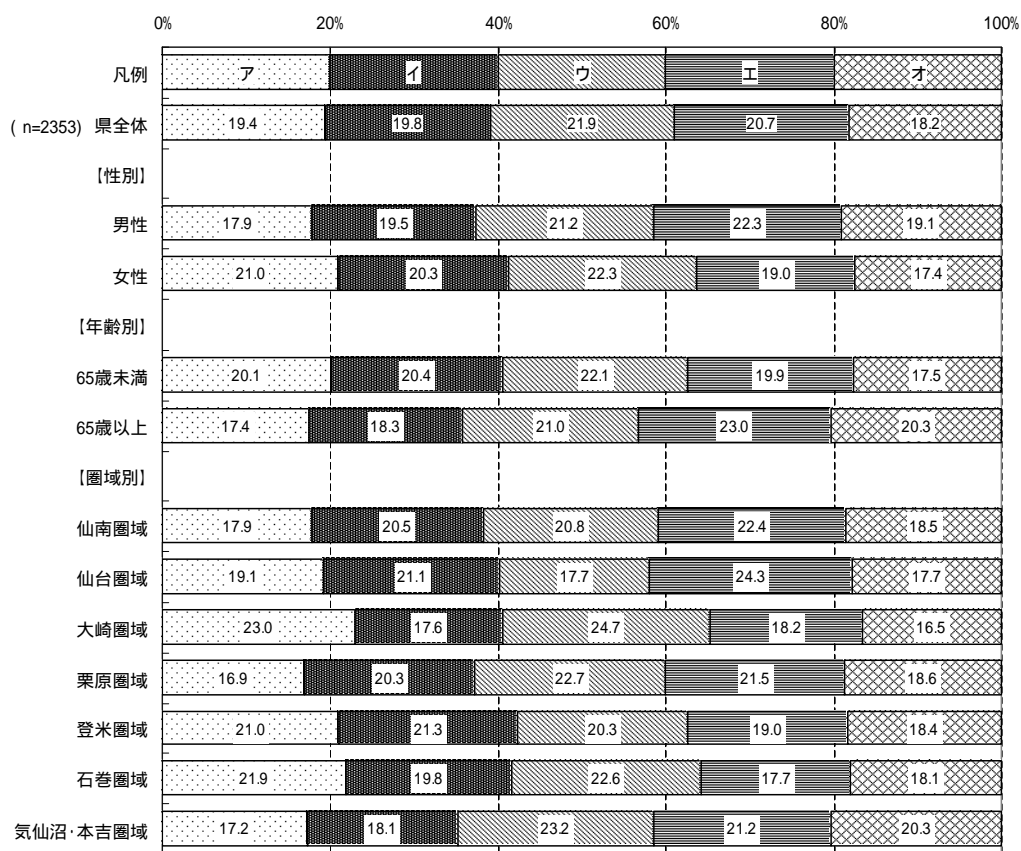
県が取組 8 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 県の海外事務所や関係機関が連携して行う、国際的事業活動への総合的な支援体制づくり
- イ 海外との取引拡大に向けた市場調査、海外取引事務や知的財産保護対策等の専門知識の提供、アドバイスや取引仲介機能など支援体制の強化
- ウ 県産品の販売先開拓や原材料調達のための商談会開催など、海外との取引機会の拡大支援
- エ 産学共同を推し進めている東北大学と協力するなど、みやぎの優位性を生かした外資企業・研究機関の立地促進
- オ 東アジア諸国や今後の成長が期待されるロシア極東地域をはじめとする近隣諸国との経済交流の促進



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、2353度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**ウ**の海外との取引機会の拡大支援で516度であった。次いで、**エ**のみやぎの優位性を生かした外資企業・研究機関の立地促進が、487度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**ア**の県の海外事務所や関係機関が連携して行う、国際的事業活動への総合的な支援体制づくりが、男性17.9%に対し女性が21.0%と、女性の方が3.1ポイント高かった。また、**エ**のみやぎの優位性を生かした外資企業・研究機関の立地促進が、男性22.3%に対し女性が19.0%と、男性の方が3.3ポイント高かった。

年齢別では、**ア**の県の海外事務所や関係機関が連携して行う、国際的事業活動への総合的な支援体制づくりが、65歳未満が20.1%に対し65歳以上は17.4%で、65歳未満の方が2.7ポイント高かった。また、**エ**のみやぎの優位性を生かした外資企業・研究機関の立地促進が、65歳未満が19.9%に対し65歳以上は23.0%で、65歳以上の方が3.1ポイント高かった。

圏域別では、**ウ**の海外との取引機会の拡大支援で、大崎圏域(24.7%)が高かった。

また、**エ**のみやぎの優位性を生かした外資企業・研究機関の立地促進では、仙台圏域(24.3%)、仙南圏域(22.4%)が高かった。

取組 9 「自律的に発展できる経済システム構築に向けた広域経済圏の形成」

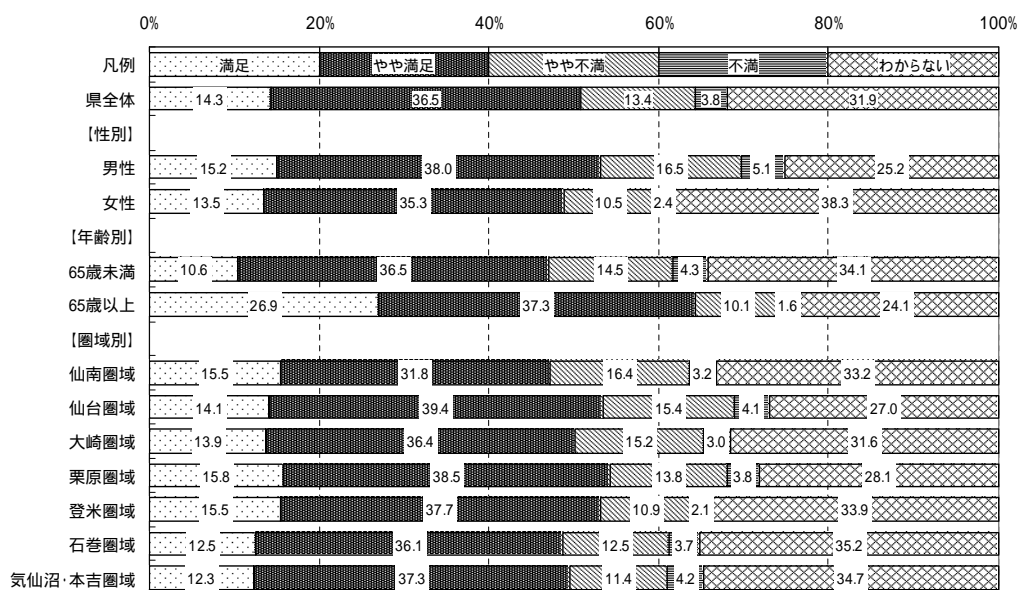
【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

北海道、東北（新潟県）の8道県と、東北経済連合会など6つの経済団体で「北海道・東北未来戦略会議」を構成し、広域観光など、官民が一体となって広域的に取り組むべき課題についての調査・検討を行っています。

山形県とは、これまでも、広域・国際観光の共同展開、海外事務所の共同化、自動車関連産業の集積促進やIT関連産業の育成などをはじめとするさまざまな分野で、共同の取り組みを着実に進めてきました。これまでの連携実績を基に、両県の相互の連携をより実効性のあるものにしていくため、今般両県で、「宮城・山形の連携に関する基本構想」を新たに策定し、今後産業分野をはじめさまざまな分野において、連携に向けた検討・調整を進めてゆきます。

県内企業の海外展開支援や環境客の誘致を効果的に実施するため、山形県と共同でソウル事務所を、岩手県と共同で（中国）大連事務所を設置しています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が50.8%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の17.2%に対し大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が74.7%、『不満』は25.3%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が53.2%に対し、女性は48.8%と、男性の方が4.4ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が47.1%に対し65歳以上の『満足』が64.2%と、65歳以上の方が17.1ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、栗原圏域(54.3%)、仙台圏域(53.5%)、登米圏域(53.2%)であった。

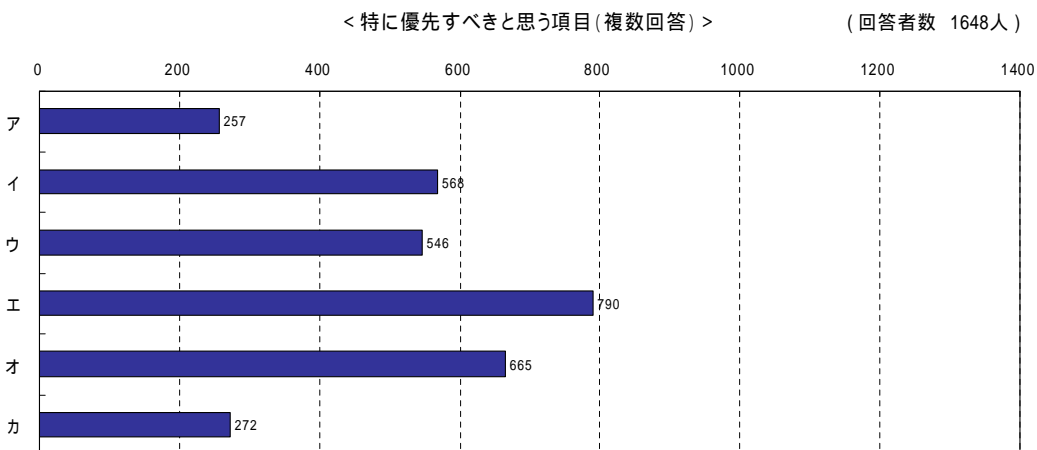
一方、『満足』の割合が比較的低いのは、仙南圏域(47.3%)であった。

		有効					欠損値 合計	合計	
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	243	620	228	65	542	1698	80	1778
	パーセント	13.7	34.9	12.8	3.7	30.5	95.5	4.5	100.0
	有効パーセント	14.3	36.5	13.4	3.8	31.9	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	21.0	53.6	19.7	5.6	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	126	315	137	42	209	829	31	860
	パーセント	14.7	36.6	15.9	4.9	24.3	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	15.2	38.0	16.5	5.1	25.2	100.0		
女性	度数	115	300	89	20	325	849	44	893
	パーセント	12.9	33.6	10.0	2.2	36.4	95.1	4.9	100.0
	有効パーセント	13.5	35.3	10.5	2.4	38.3	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	136	471	187	55	440	1289	47	1336
	パーセント	10.2	35.3	14.0	4.1	32.9	96.5	3.5	100.0
	有効パーセント	10.6	36.5	14.5	4.3	34.1	100.0		
65歳以上	度数	104	144	39	6	93	386	28	414
	パーセント	25.1	34.8	9.4	1.4	22.5	93.2	6.8	100.0
	有効パーセント	26.9	37.3	10.1	1.6	24.1	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	34	70	36	7	73	220	10	230
	パーセント	14.8	30.4	15.7	3.0	31.7	95.7	4.3	100.0
	有効パーセント	15.5	31.8	16.4	3.2	33.2	100.0		
仙台圏域	度数	34	95	37	10	65	241	7	248
	パーセント	13.7	38.3	14.9	4.0	26.2	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	14.1	39.4	15.4	4.1	27.0	100.0		
大崎圏域	度数	32	84	35	7	73	231	10	241
	パーセント	13.3	34.9	14.5	2.9	30.3	95.9	4.1	100.0
	有効パーセント	13.9	36.4	15.2	3.0	31.6	100.0		
栗原圏域	度数	41	100	36	10	73	260	14	274
	パーセント	15.0	36.5	13.1	3.6	26.6	94.9	5.1	100.0
	有効パーセント	15.8	38.5	13.8	3.8	28.1	100.0		
登米圏域	度数	37	90	26	5	81	239	12	251
	パーセント	14.7	35.9	10.4	2.0	32.3	95.2	4.8	100.0
	有効パーセント	15.5	37.7	10.9	2.1	33.9	100.0		
石巻圏域	度数	27	78	27	8	76	216	8	224
	パーセント	12.1	34.8	12.1	3.6	33.9	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	12.5	36.1	12.5	3.7	35.2	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	29	88	27	10	82	236	11	247
	パーセント	11.7	35.6	10.9	4.0	33.2	95.5	4.5	100.0
	有効パーセント	12.3	37.3	11.4	4.2	34.7	100.0		

【優先項目】

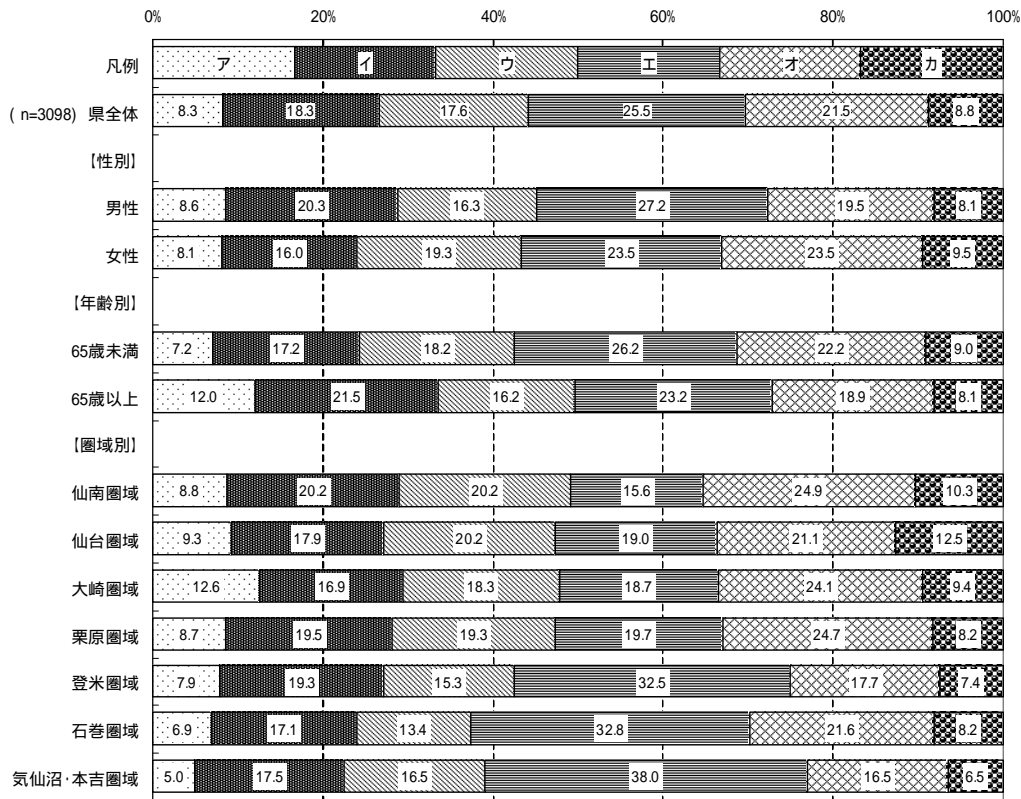
県が取組 9 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 山形県との連携に関する基本構想の具体化と連携体制づくり
- イ 自動車関連産業や情報関連産業分野での、岩手・山形両県をはじめとする東北各県との連携促進
- ウ 県境を越えた企業、研究機関の間での役割分担や協力体制づくりによる、東北地方への産業集積の支援
- エ 三陸縦貫自動車道をはじめとする、広域的な経済活動を支える交通・情報などのネットワークづくり
- オ 東北各県との連携による広域観光ルートの設定など、観光推進組織づくり
- カ 隣接県と連携した国内外拠点事務所の共同運営や、企業の海外進出を支援する体制づくり



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3098度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、エの広域的な経済活動を支える交通・情報などのネットワークづくりで、790度であった。次いで、オの観光推進組織づくりが、665度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、イの自動車関連産業や情報関連産業分野での、岩手・山形両県をはじめとする東北各県との連携促進では、男性20.3%に対し女性が16.0%と、男性の方が4.3ポイント高かった。

一方で、オの東北各県との連携による広域観光ルートの設定など、観光推進組織づくりでは、男性19.5%に対し女性が23.5%と、女性の方が4.0ポイント高かった。

年齢別では、オの東北各県との連携による広域観光ルートの設定など、観光推進組織づくりで、65歳未満が22.2%に対し65歳以上は18.9%と、65歳未満の方が3.3ポイント高かった。一方で、アの山形県との連携に関する基本構想の具体化と連携体制づくりでは、65歳未満が7.2%に対し65歳以上は12.0%と、65歳以上の方が4.8ポイント高かった。

圏域別では、エの広域的な経済活動を支える交通・情報などのネットワークづくりで、気仙沼・本吉圏域(38.0%)、石巻圏域(32.8%)、及び登米圏域(32.5%)が非常に高かった。また、オの東北各県との連携による広域観光ルートの設定など、観光推進組織づくりでは、仙南圏域(24.9%)、栗原圏域(24.7%)、大崎圏域(24.1%)が高かった。

取組 1 0 「産業活動の基礎となる人材の育成・確保」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

県立高等技術専門学校や宮城障害者職業能力開発校で、新規学卒者や離転職者等を対象とした公共職業訓練を実施しています。

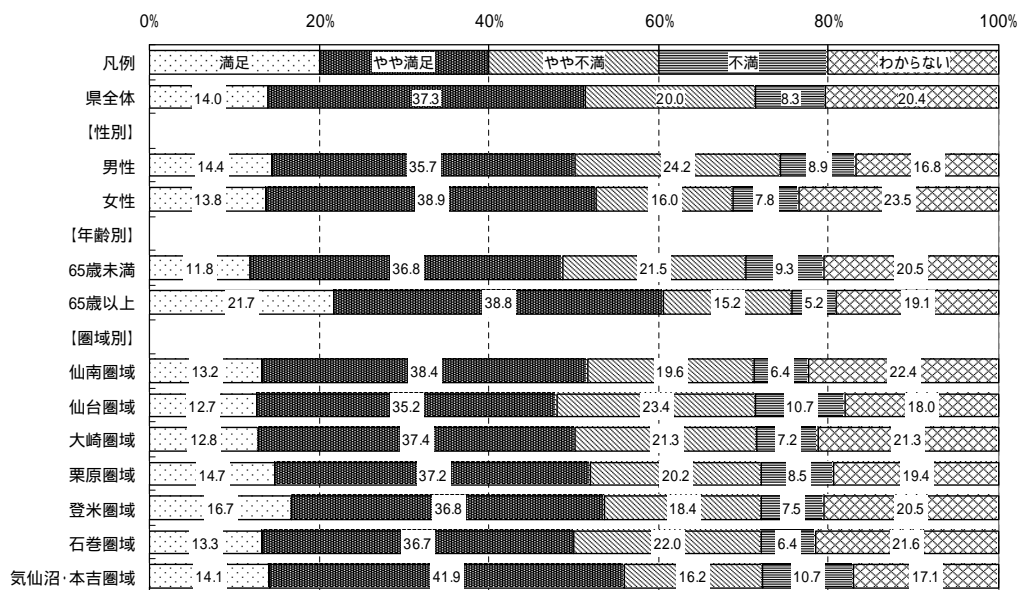
企業などが従業員の職業能力開発のために行う認定職業訓練が、計画的かつ効果的に行われるよう指導、助言を行い、訓練に要する経費の一部を補助するなど支援しています。

農業の担い手を確保し育成するため、農業技術や経営方法等の習得に要する経費の軽減などの支援を行っています。

林業の担い手を確保し育成するため、新規林業就業者向けの知識・技術習得の研修会の開催や林業後継者団体の取組への支援を行っています。

漁業生産の担い手を確保するため、中核的漁業者や青年・女性漁業者向けの研修会の開催や漁業後継者団体の自主的活動への支援を行っています。

大学等と協力して留学生就職セミナーや就職説明会を開催しました。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が51.3%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の28.3%を上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が64.5%、『不満』は35.5%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が50.1%に対し、女性は52.7%と、女性の方が2.6ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が48.6%に対し65歳以上の『満足』が60.5%と、65歳以上の方が11.9ポイント高かった。

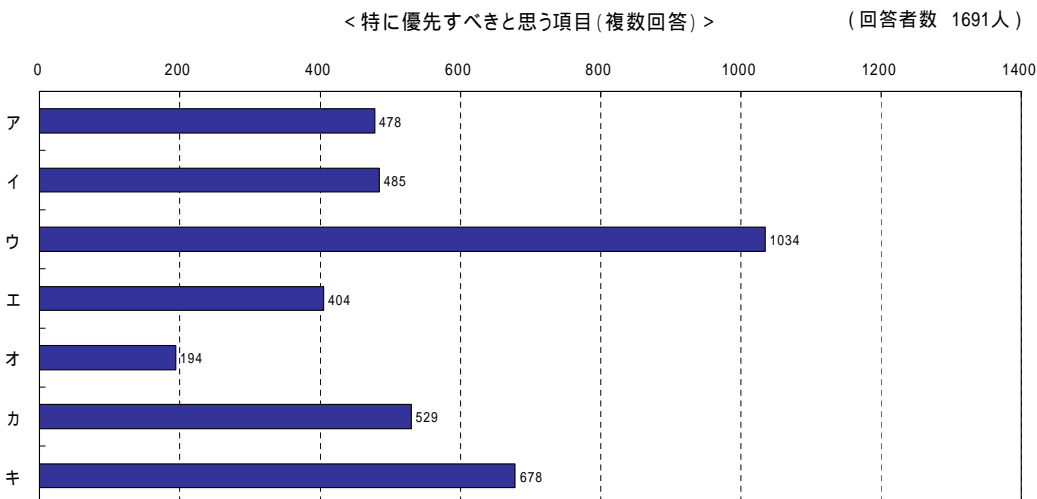
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、気仙沼・本吉圏域(56.0%)、登米圏域(53.5%)であった。一方、『満足』の割合が比較的低いのは、仙台圏域(47.9%)、石巻圏域(50.0%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	239	635	340	141	347	1702	76	1778
	パーセント	13.4	35.7	19.1	7.9	19.5	95.7	4.3	100.0
	有効パーセント	14.0	37.3	20.0	8.3	20.4	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	17.6	46.9	25.1	10.4	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	120	297	201	74	140	832	28	860
	パーセント	14.0	34.5	23.4	8.6	16.3	96.7	3.3	100.0
	有効パーセント	14.4	35.7	24.2	8.9	16.8	100.0		
女性	度数	117	331	136	66	200	850	43	893
	パーセント	13.1	37.1	15.2	7.4	22.4	95.2	4.8	100.0
	有効パーセント	13.8	38.9	16.0	7.8	23.5	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	153	476	278	120	265	1292	44	1336
	パーセント	11.5	35.6	20.8	9.0	19.8	96.7	3.3	100.0
	有効パーセント	11.8	36.8	21.5	9.3	20.5	100.0		
65歳以上	度数	84	150	59	20	74	387	27	414
	パーセント	20.3	36.2	14.3	4.8	17.9	93.5	6.5	100.0
	有効パーセント	21.7	38.8	15.2	5.2	19.1	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	29	84	43	14	49	219	11	230
	パーセント	12.6	36.5	18.7	6.1	21.3	95.2	4.8	100.0
	有効パーセント	13.2	38.4	19.6	6.4	22.4	100.0		
仙台圏域	度数	31	86	57	26	44	244	4	248
	パーセント	12.5	34.7	23.0	10.5	17.7	98.4	1.6	100.0
	有効パーセント	12.7	35.2	23.4	10.7	18.0	100.0		
大崎圏域	度数	30	88	50	17	50	235	6	241
	パーセント	12.4	36.5	20.7	7.1	20.7	97.5	2.5	100.0
	有効パーセント	12.8	37.4	21.3	7.2	21.3	100.0		
栗原圏域	度数	38	96	52	22	50	258	16	274
	パーセント	13.9	35.0	19.0	8.0	18.2	94.2	5.8	100.0
	有効パーセント	14.7	37.2	20.2	8.5	19.4	100.0		
登米圏域	度数	40	88	44	18	49	239	12	251
	パーセント	15.9	35.1	17.5	7.2	19.5	95.2	4.8	100.0
	有効パーセント	16.7	36.8	18.4	7.5	20.5	100.0		
石巻圏域	度数	29	80	48	14	47	218	6	224
	パーセント	12.9	35.7	21.4	6.3	21.0	97.3	2.7	100.0
	有効パーセント	13.3	36.7	22.0	6.4	21.6	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	33	98	38	25	40	234	13	247
	パーセント	13.4	39.7	15.4	10.1	16.2	94.7	5.3	100.0
	有効パーセント	14.1	41.9	16.2	10.7	17.1	100.0		

【優先項目】

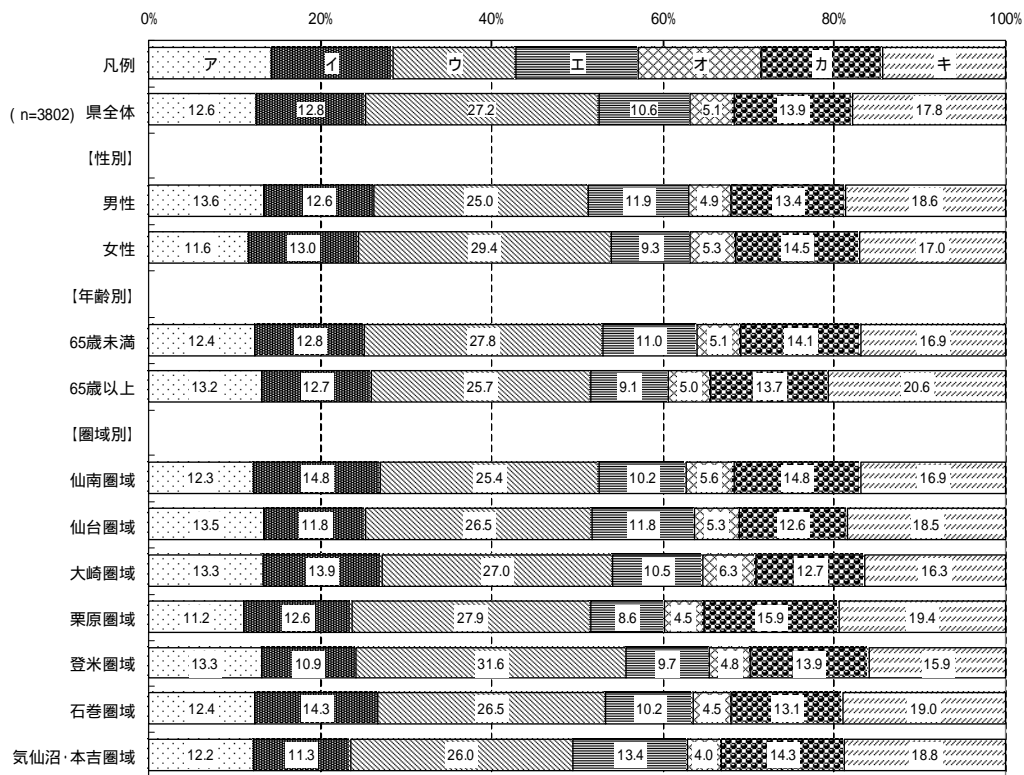
県が取組10に関し10年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 社会情勢の変化や国際化に対応し、事業のチャンスをつえ、県経済をリードする次代のリーダーや起業家的人材の育成・定着
- イ 企業での実習と学校での座学を並行して行うなど、学校と地域企業が一体となった産業人材の育成
- ウ 働く意欲のある女性や高齢者の、個々の能力や実績に応じた就業・雇用環境づくりや能力開発
- エ 宮城県の基幹産業である製造業の発展を担うものづくり人材の育成体制づくり
- オ 県内大学等への留学生など高度な専門知識や技術力を持つ外国人の、卒業後の県内企業や研究機関への就業
- カ まちづくりと連携した、地域の活性化につながる商店街づくりを行いつつ、安定した経営ができる人材の育成
- キ 社会情勢の変化に対応しながら、次代の農林水産業を担う人材・後継者の育成確保



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3802度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、ウの働く意欲のある女性や高齢者の、個々の能力や実績に応じた就業・雇用環境づくりや能力開発で、1034度であった。次に、キの次代の農林水産業を担う人材・後継者の育成確保が、678度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、ウの働く意欲のある女性や高齢者の、個々の能力や実績に応じた就業・雇用環境づくりや能力開発が、男性25.0%に対し女性が29.4%と、女性の方が4.4ポイント高かった。

また、エの宮城県基幹産業である製造業の発展を担うものづくり人材の育成体制づくりでは、男性11.9%に対し女性が9.3%と、男性の方が2.6ポイント高かった。

年齢別では、キの次代の農林水産業を担う人材・後継者の育成確保が、65歳未満が16.9%に対し65歳以上は20.6%で、65歳以上の方が3.7ポイント高かった。

圏域別では、ウの働く意欲のある女性や高齢者の、個々の能力や実績に応じた就業・雇用環境づくりや能力開発で、登米圏域(31.6%)が高かった。

また、キの次代の農林水産業を担う人材・後継者の育成確保では、栗原圏域(19.4%)、石巻圏域(19.0%)が高かった。

取組 1 1 「経営力の向上と経営基盤の強化」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

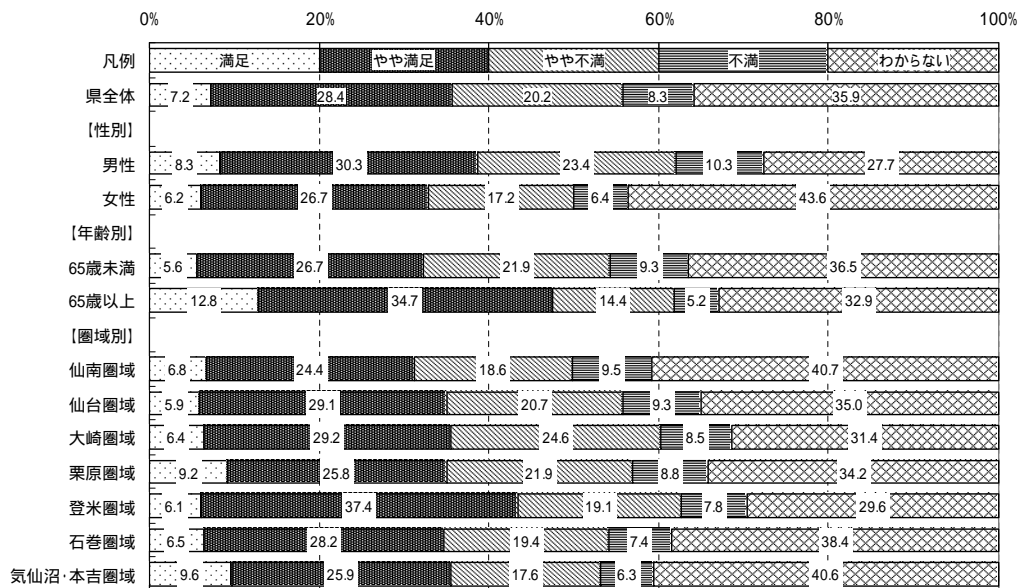
財団法人みやぎ産業振興機構を通じて、起業からビジネスプランの磨き上げ、販路開拓までの、一貫した経営の支援に取り組みます。

経営安定資金、セーフティネット資金、創業育成資金など長期低利の県制度資金により、県内中小企業の円滑な資金調達を支援しています。

農業経営改善の着実な実践を図るため、県及び地域段階の担い手育成総合支援協議会を通じて、各種情報提供、研修会の開催、専門家の派遣、法人化の推進等に取り組んでいます。

公共事業における受益者の負担金軽減を図るため、関係機関との調整を図り民間資金を活用した繰上償還を行うなど、農家の経営基盤強化を図っています。

経営多角化等に取り組む建設業者に対して建設業総合相談窓口を設置し、関係部局が連携して相談・助言を実施するとともに、経営多角化等の意識向上のために建設業経営多角化支援セミナーを開催しています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が35.6%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の28.5%を上回った。

なお、「わからない」が35.9%あり、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が55.6%、『不満』は44.4%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が38.6%に対し、女性は32.9%と、男性の方が5.7ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が32.3%に対し65歳以上の『満足』が47.5%と、65歳以上の方が15.2ポイント高かった。

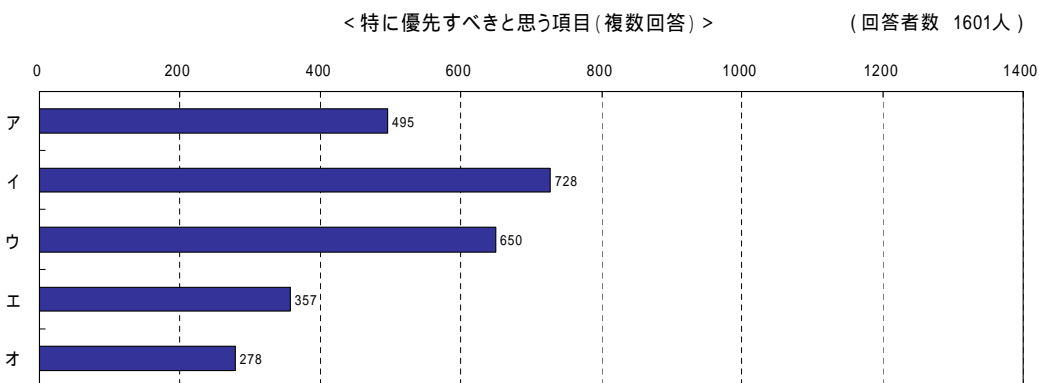
圏域別では『満足』の割合が高いのは、登米圏域(43.5%)であった。一方、『満足』の割合が比較的低いのは、仙南圏域(31.2%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	122	480	341	140	607	1690	88	1778
	パーセント	6.9	27.0	19.2	7.9	34.1	95.1	4.9	100.0
	有効パーセント	7.2	28.4	20.2	8.3	35.9	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	11.3	44.3	31.5	12.9	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	69	251	194	85	229	828	32	860
	パーセント	8.0	29.2	22.6	9.9	26.6	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	8.3	30.3	23.4	10.3	27.7	100.0		
女性	度数	52	226	145	54	368	845	48	893
	パーセント	5.8	25.3	16.2	6.0	41.2	94.6	5.4	100.0
	有効パーセント	6.2	26.7	17.2	6.4	43.6	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	72	343	282	119	470	1286	50	1336
	パーセント	5.4	25.7	21.1	8.9	35.2	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	5.6	26.7	21.9	9.3	36.5	100.0		
65歳以上	度数	49	133	55	20	126	383	31	414
	パーセント	11.8	32.1	13.3	4.8	30.4	92.5	7.5	100.0
	有効パーセント	12.8	34.7	14.4	5.2	32.9	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	15	54	41	21	90	221	9	230
	パーセント	6.5	23.5	17.8	9.1	39.1	96.1	3.9	100.0
	有効パーセント	6.8	24.4	18.6	9.5	40.7	100.0		
仙台圏域	度数	14	69	49	22	83	237	11	248
	パーセント	5.6	27.8	19.8	8.9	33.5	95.6	4.4	100.0
	有効パーセント	5.9	29.1	20.7	9.3	35.0	100.0		
大崎圏域	度数	15	69	58	20	74	236	5	241
	パーセント	6.2	28.6	24.1	8.3	30.7	97.9	2.1	100.0
	有効パーセント	6.4	29.2	24.6	8.5	31.4	100.0		
栗原圏域	度数	24	67	57	23	89	260	14	274
	パーセント	8.8	24.5	20.8	8.4	32.5	94.9	5.1	100.0
	有効パーセント	9.2	25.8	21.9	8.8	34.2	100.0		
登米圏域	度数	14	86	44	18	68	230	21	251
	パーセント	5.6	34.3	17.5	7.2	27.1	91.6	8.4	100.0
	有効パーセント	6.1	37.4	19.1	7.8	29.6	100.0		
石巻圏域	度数	14	61	42	16	83	216	8	224
	パーセント	6.3	27.2	18.8	7.1	37.1	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	6.5	28.2	19.4	7.4	38.4	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	23	62	42	15	97	239	8	247
	パーセント	9.3	25.1	17.0	6.1	39.3	96.8	3.2	100.0
	有効パーセント	9.6	25.9	17.6	6.3	40.6	100.0		

【優先項目】

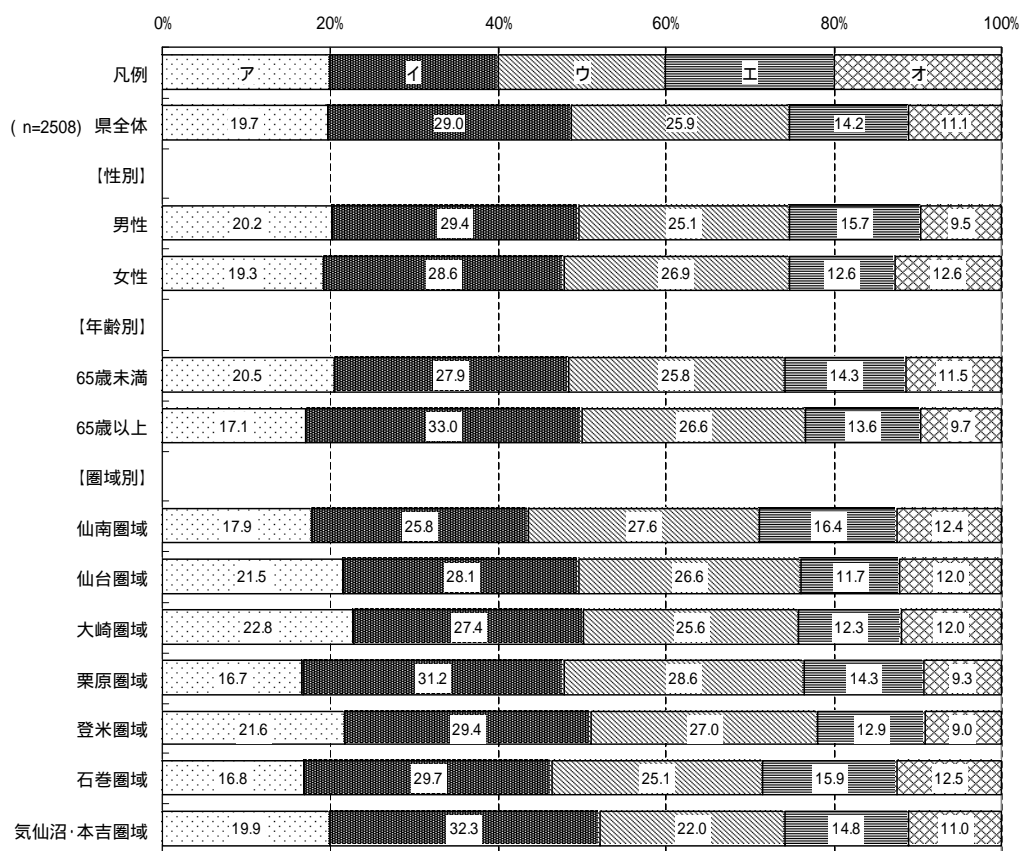
県が取組 1 1 に関し 1 0 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 起業家の育成や事業計画の作成支援など、産業支援機関等と連携したさまざまな経営支援体制の充実
- イ 農林水産業の経営の基礎を固めるための支援と、社会情勢に応じた経営のできる人材育成
- ウ 社会情勢に的確に対応できる経営体の育成のため、商工会議所、農業共同組合など産業ごとの関連団体と連携して行う情報提供や相談機能強化
- エ 自動車関連産業や食品関連産業など、成長が見込まれ経済の中核をなす業種を、重点的に支援するための制度融資の充実
- オ ファンドや証券化の手法を活用した資金供給、企業の成長性を評価する融資制度づくりなど、中小企業にとっても利用しやすいさまざまな資金調達手段の整備



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、2 5 0 8 度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、イの農林水産業の経営の基礎を固めるための支援と、社会情勢に応じた経営のできる人材育成で、7 2 8 度であった。次に、ウの商工会議所、農業共同組合など産業ごとの関連団体と連携して行う情報提供や相談機能強化で、6 5 0 度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**エ**の成長が見込まれ経済の中核をなす業種を、重点的に支援するための制度融資の充実が、男性15.7%に対し女性が12.6%と、男性の方が3.1ポイント高かった。

また、**オ**の資金供給、企業の成長性を評価する融資制度づくりなど、中小企業にとっても利用しやすいさまざまな資金調達手段の整備では、男性9.5%に対し女性が12.6%と、女性の方が3.1ポイント高かった。

年齢別では、**イ**の農林水産業の経営の基礎を固めるための支援と、社会情勢に応じた経営のできる人材育成が、65歳未満が27.9%に対し65歳以上は33.0%で、65歳以上の方が5.1ポイント高かった。また、**ア**の産業支援機関等と連携したさまざまな経営支援体制の充実では、65歳未満が20.5%に対し65歳以上は17.1%で、65歳未満の方が3.4ポイント高かった。

圏域別では、**イ**の農林水産業の経営の基礎を固めるための支援と、社会情勢に応じた経営のできる人材育成で、気仙沼・本吉圏域(32.3%)、栗原圏域(31.2%)が高かった。

取組 1 2 「宮城の飛躍を支える産業基盤の整備」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

仙台塩釜港のコンテナ貨物量の増大に対応するため、高砂コンテナターミナルの施設整備を行っています。また、コンテナ貨物の集荷促進と既存航路の安定化のために誘致活動を行っています。

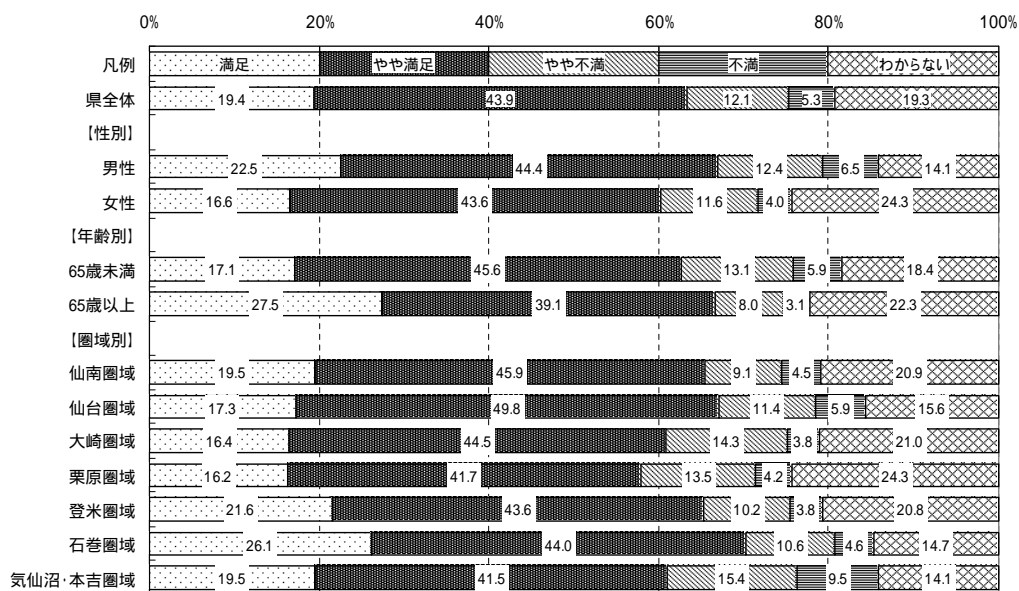
石巻港雲雀野地区では、船舶接岸の安全性を向上させるため、南防波堤の整備を進めています。

仙台空港就航路線の安定拡充と新規路線開設を目指し、地元自治体や経済界と連携した各種利用促進策を展開しています。また、国内外の関係企業等への空港セールスを行っています。

誰もが国内外の各地域に容易に行き来できるように、仙台空港へのアクセスを整備するとともに、仙台空港周辺地域に東北の空の玄関口にふさわしいまちづくりを進めています。

仙台港の国際貿易のゲートウェイ機能と仙台東部道路等の交通網を活かし、東北の産業経済拠点としての機能強化を図るため、仙台港背後地に商業・流通業務地を整備しています。

地域間の活発な交流を支える高速交通を確保するため、三陸縦貫自動車道等の自動車専用道路網の整備を促進しています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が63.3%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の17.4%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が78.4%、『不満』は21.6%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が66.9%に対し、女性は60.2%と、男性の方が6.7ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が62.7%に対し65歳以上の『満足』が66.6%と、65歳以上の方が3.9ポイント高かった。

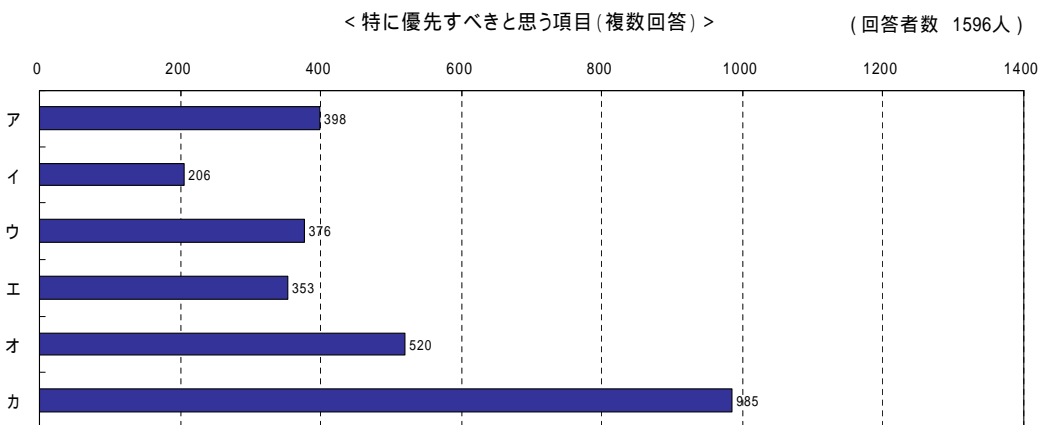
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、石巻圏域(70.1%)、仙台圏域(67.1%)、仙南圏域(65.4%)であった。一方、『満足』の割合が比較的低いのは、栗原圏域(57.9%)、大崎圏域(60.9%)であった。

		有効					欠損値 合計	合計	
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	330	747	206	91	328	1702	76	1778
	パーセント	18.6	42.0	11.6	5.1	18.4	95.7	4.3	100.0
	有効パーセント	19.4	43.9	12.1	5.3	19.3	100.0		
	有効パーセント 「わからない」を除く有効パーセント	24.0	54.4	15.0	6.6	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	186	368	103	54	117	828	32	860
	パーセント	21.6	42.8	12.0	6.3	13.6	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	22.5	44.4	12.4	6.5	14.1	100.0		
女性	度数	142	374	99	34	208	857	36	893
	パーセント	15.9	41.9	11.1	3.8	23.3	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	16.6	43.6	11.6	4.0	24.3	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	221	590	170	76	238	1295	41	1336
	パーセント	16.5	44.2	12.7	5.7	17.8	96.9	3.1	100.0
	有効パーセント	17.1	45.6	13.1	5.9	18.4	100.0		
65歳以上	度数	106	151	31	12	86	386	28	414
	パーセント	25.6	36.5	7.5	2.9	20.8	93.2	6.8	100.0
	有効パーセント	27.5	39.1	8.0	3.1	22.3	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	43	101	20	10	46	220	10	230
	パーセント	18.7	43.9	8.7	4.3	20.0	95.7	4.3	100.0
	有効パーセント	19.5	45.9	9.1	4.5	20.9	100.0		
仙台圏域	度数	41	118	27	14	37	237	11	248
	パーセント	16.5	47.6	10.9	5.6	14.9	95.6	4.4	100.0
	有効パーセント	17.3	49.8	11.4	5.9	15.6	100.0		
大崎圏域	度数	39	106	34	9	50	238	3	241
	パーセント	16.2	44.0	14.1	3.7	20.7	98.8	1.2	100.0
	有効パーセント	16.4	44.5	14.3	3.8	21.0	100.0		
栗原圏域	度数	42	108	35	11	63	259	15	274
	パーセント	15.3	39.4	12.8	4.0	23.0	94.5	5.5	100.0
	有効パーセント	16.2	41.7	13.5	4.2	24.3	100.0		
登米圏域	度数	51	103	24	9	49	236	15	251
	パーセント	20.3	41.0	9.6	3.6	19.5	94.0	6.0	100.0
	有効パーセント	21.6	43.6	10.2	3.8	20.8	100.0		
石巻圏域	度数	57	96	23	10	32	218	6	224
	パーセント	25.4	42.9	10.3	4.5	14.3	97.3	2.7	100.0
	有効パーセント	26.1	44.0	10.6	4.6	14.7	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	47	100	37	23	34	241	6	247
	パーセント	19.0	40.5	15.0	9.3	13.8	97.6	2.4	100.0
	有効パーセント	19.5	41.5	15.4	9.5	14.1	100.0		

【優先項目】

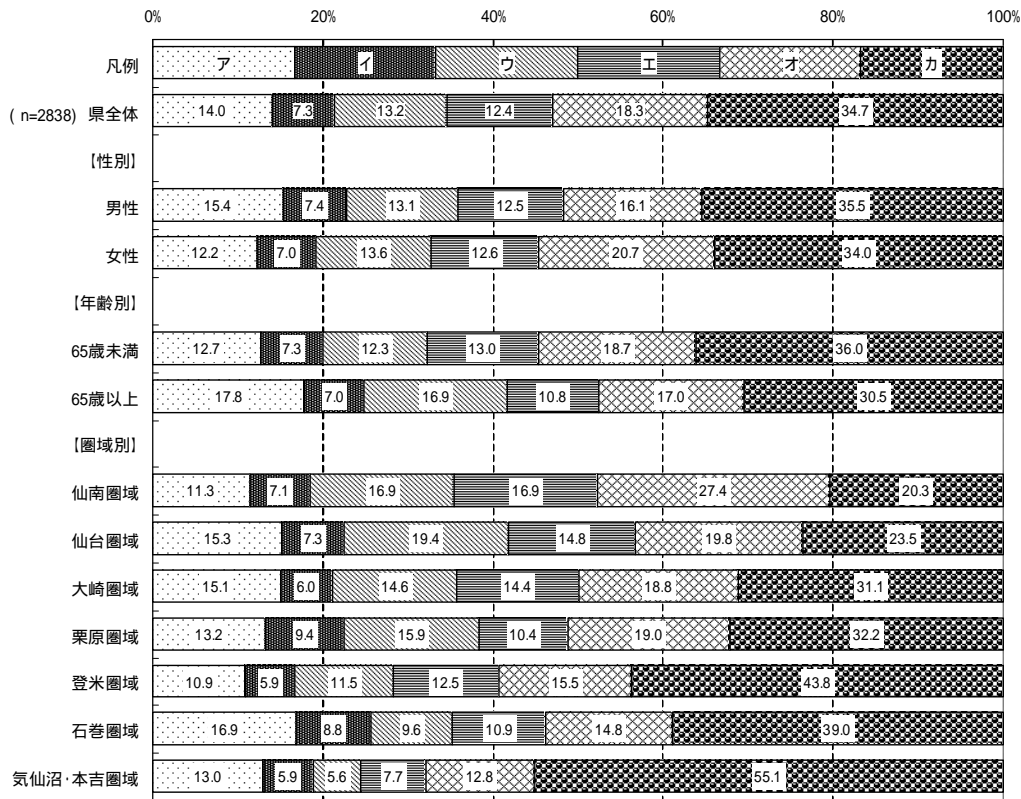
県が取組 1 2 に関し 1 0 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 貨物量の増加や船舶の大型化に対応した岸壁やふ頭用地の造成など、港湾機能拡充のための施設整備
- イ 港湾貨物の需要開拓及び新機航路開設に向けた誘致活動（ポートセールス）の強化
- ウ 仙台港背後地の整備など港周辺地域の貿易関連機能や流通・工業機能の整備促進
- エ 空港の新規路線開設及び運休路線の再開に向けた誘致活動（エアポートセールス）と空港利用促進活動の強化
- オ 仙台空港アクセス鉄道沿線の臨空都市整備など、産業経済拠点づくりに向けた流通・商業機能の整備促進
- カ 三陸縦貫自動車道など高速道路網及び広域ネットワークづくりに向けた道路網の整備促進



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、2 8 3 8 度であった（複数回答）。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**カ**の三陸縦貫自動車道など高速道路網及び広域ネットワークづくりに向けた道路網の整備促進で、9 8 5 度であった。次に、**オ**の産業経済拠点づくりに向けた流通・商業機能の整備促進で、5 2 0 度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、エの空港の新規路線開設及び運休路線の再開に向けた誘致活動（エアポートセールス）と空港利用促進活動の強化が、男性16.1%に対し女性が20.7%と、女性の方が4.6ポイント高かった。

一方、アの港湾機能拡充のための施設整備では、男性15.4%に対し女性が12.2%と、男性の方が3.2ポイント高かった。

年齢別では、カの三陸縦貫自動車道など高速道路網及び広域ネットワークづくりに向けた道路網の整備促進が、65歳未満が36.0%に対し65歳以上は30.5%で、65歳未満の方が5.5ポイント高かった。

一方、イの港湾貨物の需要開拓及び新機航路開設に向けた誘致活動（ポートセールス）の強化では、65歳未満が12.3%に対し65歳以上は16.9%で、65歳以上の方が4.6ポイント高かった。

圏域別では、カの三陸縦貫自動車道など高速道路網及び広域ネットワークづくりに向けた道路網の整備促進で、気仙沼・本吉圏域（55.1%）が極めて高く、登米圏域（43.8%）、石巻圏域（39.0%）も高かった。また、オの産業経済拠点づくりに向けた流通・商業機能の整備促進では、仙南圏域（27.4%）が高かった。

取組 1 3 「次代を担う子どもを安心して生み育てることができる環境づくり」

【満足度】

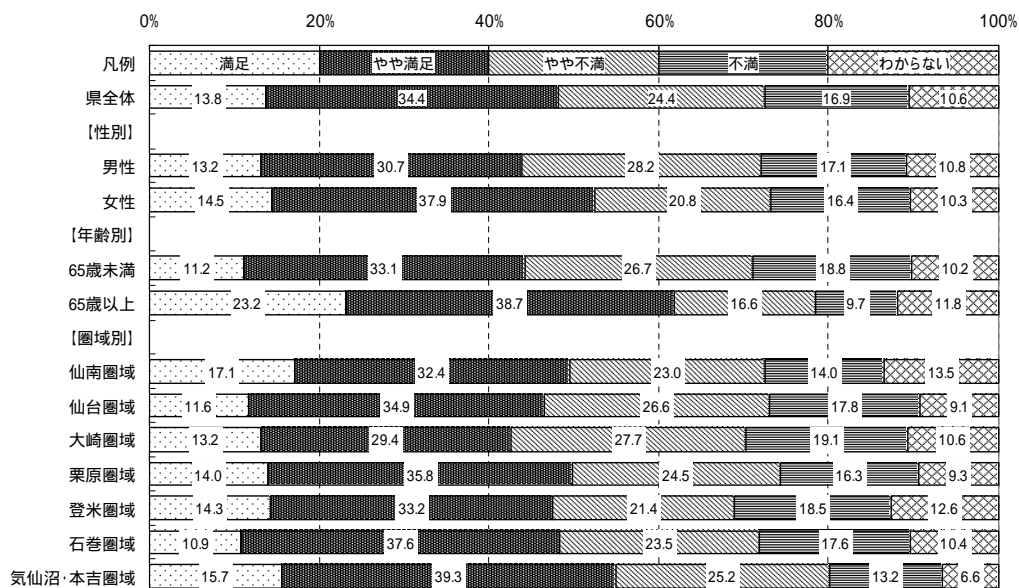
宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

家庭や職場等での性別による差別的な扱いに関する相談を行うため「みやぎ男女共同参画相談室」を運営するとともに相談者の自立に向けた公開講座を行っています。労働者が子育てしやすい就業環境の整備を進めています。また、子育てを援助するファミリー・サポート・センターを設置する市町村に補助金を交付し、仕事と家庭の両立を支援してきました。

心の問題を持つ子どもの治療やデイケア、親に対する専門的なケアをしています。また、不登校、ひきこもりなどの子どもやその家族の相談、指導をしています。市町村が実施（委託）する放課後児童クラブに補助するなど、地域の実情に応じた児童クラブの拡充を推進しています。

育児不安等により親子関係をうまく築けなかった親（母）と子に対し、専門スタッフを配置した生活の場を提供し、親子再統合のためのプログラムの開発とその実践を行っています。

子どもの保護者の育児不安を解消するため発熱等に関する電話相談を受け付けています。また、小児科医不足を補完するため、内科医等に対して小児救急に関する研修を実施しています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が48.2%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の41.3%を上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が53.9%、『不満』は46.1%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が43.9%に対し、女性は52.4%と、女性の方が8.5ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が44.3%に対し65歳以上の『満足』が61.9%と、65歳以上の方が17.6ポイント高かった。

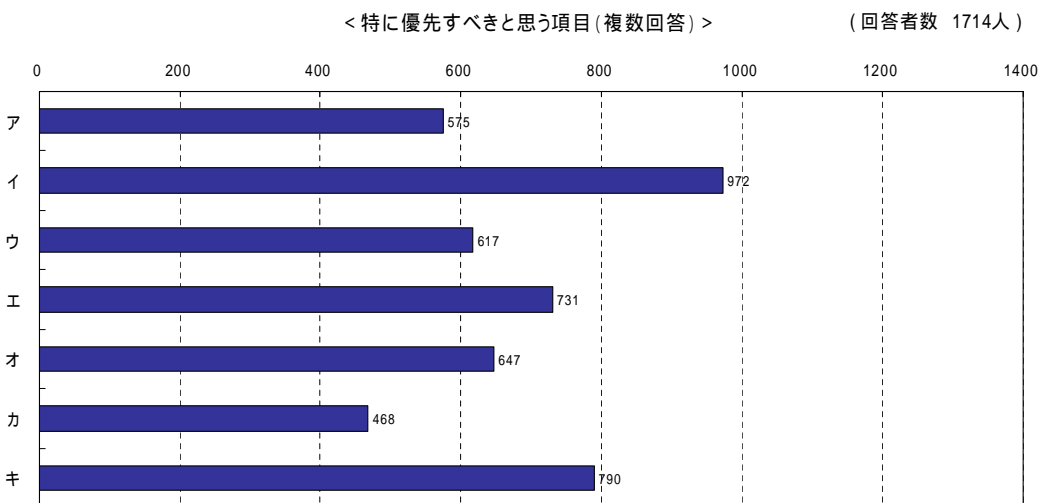
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、気仙沼・本吉圏域(55.0%)、栗原圏域(49.8%)、仙南圏域(49.5%)であった。一方、『満足』の割合が比較的低いのは、大崎圏域(42.6%)であった。

		有効					欠損値 合計	合計	
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	236	587	416	288	181	1708	70	1778
	パーセント	13.3	33.0	23.4	16.2	10.2	96.1	3.9	100.0
	有効パーセント	13.8	34.4	24.4	16.9	10.6	100.0		
	有効パーセント 「わからない」を除く有効パーセント	15.5	38.4	27.2	18.9	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	110	255	234	142	90	831	29	860
	パーセント	12.8	29.7	27.2	16.5	10.5	96.6	3.4	100.0
	有効パーセント	13.2	30.7	28.2	17.1	10.8	100.0		
女性	度数	125	326	179	141	89	860	33	893
	パーセント	14.0	36.5	20.0	15.8	10.0	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	14.5	37.9	20.8	16.4	10.3	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	146	433	349	246	133	1307	29	1336
	パーセント	10.9	32.4	26.1	18.4	10.0	97.8	2.2	100.0
	有効パーセント	11.2	33.1	26.7	18.8	10.2	100.0		
65歳以上	度数	88	147	63	37	45	380	34	414
	パーセント	21.3	35.5	15.2	8.9	10.9	91.8	8.2	100.0
	有効パーセント	23.2	38.7	16.6	9.7	11.8	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	38	72	51	31	30	222	8	230
	パーセント	16.5	31.3	22.2	13.5	13.0	96.5	3.5	100.0
	有効パーセント	17.1	32.4	23.0	14.0	13.5	100.0		
仙台圏域	度数	28	84	64	43	22	241	7	248
	パーセント	11.3	33.9	25.8	17.3	8.9	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	11.6	34.9	26.6	17.8	9.1	100.0		
大崎圏域	度数	31	69	65	45	25	235	6	241
	パーセント	12.9	28.6	27.0	18.7	10.4	97.5	2.5	100.0
	有効パーセント	13.2	29.4	27.7	19.1	10.6	100.0		
栗原圏域	度数	36	92	63	42	24	257	17	274
	パーセント	13.1	33.6	23.0	15.3	8.8	93.8	6.2	100.0
	有効パーセント	14.0	35.8	24.5	16.3	9.3	100.0		
登米圏域	度数	34	79	51	44	30	238	13	251
	パーセント	13.5	31.5	20.3	17.5	12.0	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	14.3	33.2	21.4	18.5	12.6	100.0		
石巻圏域	度数	24	83	52	39	23	221	3	224
	パーセント	10.7	37.1	23.2	17.4	10.3	98.7	1.3	100.0
	有効パーセント	10.9	37.6	23.5	17.6	10.4	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	38	95	61	32	16	242	5	247
	パーセント	15.4	38.5	24.7	13.0	6.5	98.0	2.0	100.0
	有効パーセント	15.7	39.3	25.2	13.2	6.6	100.0		

【優先項目】

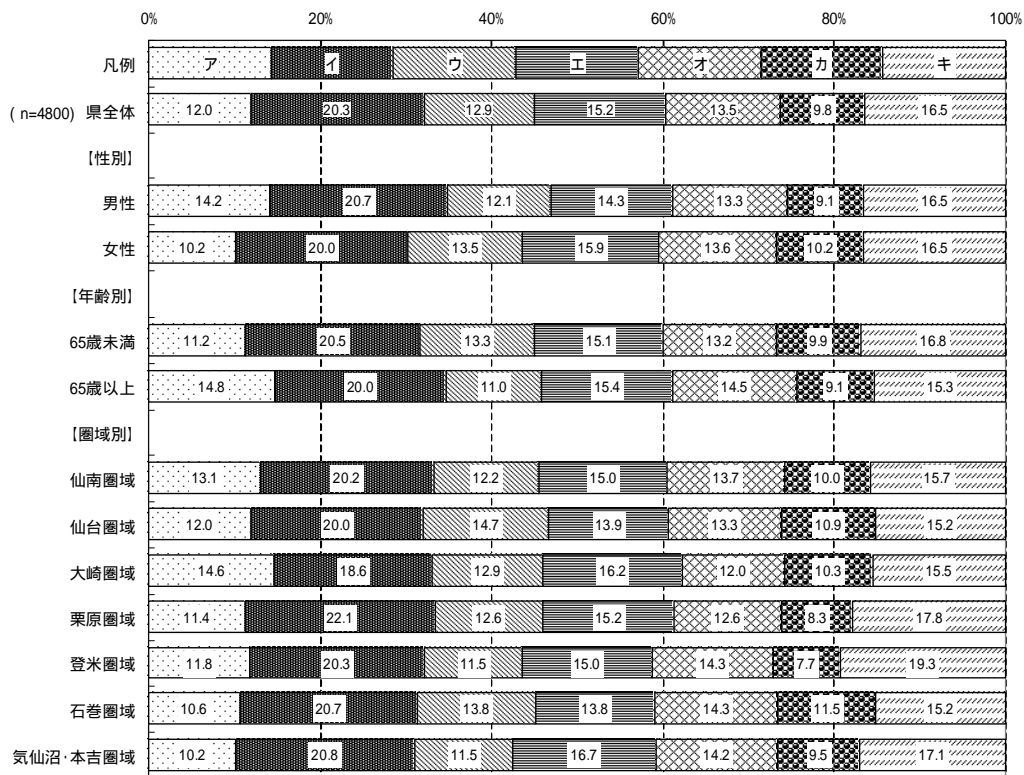
県が取組13に関し10年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 市町村・企業・NPOなどと連携・協働して行う総合的な少子化対策
- イ 育児休業取得の促進や職場復帰しやすい環境づくりなど、職場における仕事と子育ての両立支援対策
- ウ さまざまな需要に応じた保育サービスの充実
- エ 子育て中の親の交流の場を設けたり、放課後の児童の居場所を作るなど、それぞれの地域に合わせた子育て支援の充実
- オ 不登校や引きこもりなど悩みを抱える子供や、子育てに不安・問題を抱える親や家族に対する相談・指導の充実
- カ 関係機関が連携した虐待防止体制づくりや、発生予防から早期発見・援助など、素早く的確な対応
- キ 県立こども病院での高度で専門的な医療の提供や、周産期・小児医療体制づくりと小児救急医療体制の充実



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、4800度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、イの職場における仕事と子育ての両立支援対策で、972度であった。次に、キの県立こども病院での高度で専門的な医療の提供や、周産期・小児医療体制づくりと小児救急医療体制の充実が、790度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、男性・女性ともにイの職場における仕事と子育ての両立支援対策が最も高く、男性が20.7%、女性が20.0%であった。

また、アの市町村・企業・NPOなどと連携・協働して行う総合的な少子化対策が、男性14.2%に対し女性が10.2%と、男性の方が4.0ポイント高かった。

年齢別では、アの市町村・企業・NPOなどと連携・協働して行う総合的な少子化対策が、65歳未満が11.2%に対し65歳以上は14.8%で、65歳以上の方が3.6ポイント高かった。

圏域別では、イの職場における仕事と子育ての両立支援対策で、栗原圏域(22.1%)が高かった。

また、キの県立こども病院での高度で専門的な医療の提供や、周産期・小児医療体制づくりと小児救急医療体制の充実では、登米圏域(19.3%)が高かった。

取組 1 4 「家庭・地域・学校の協働による子どもの健全な育成」

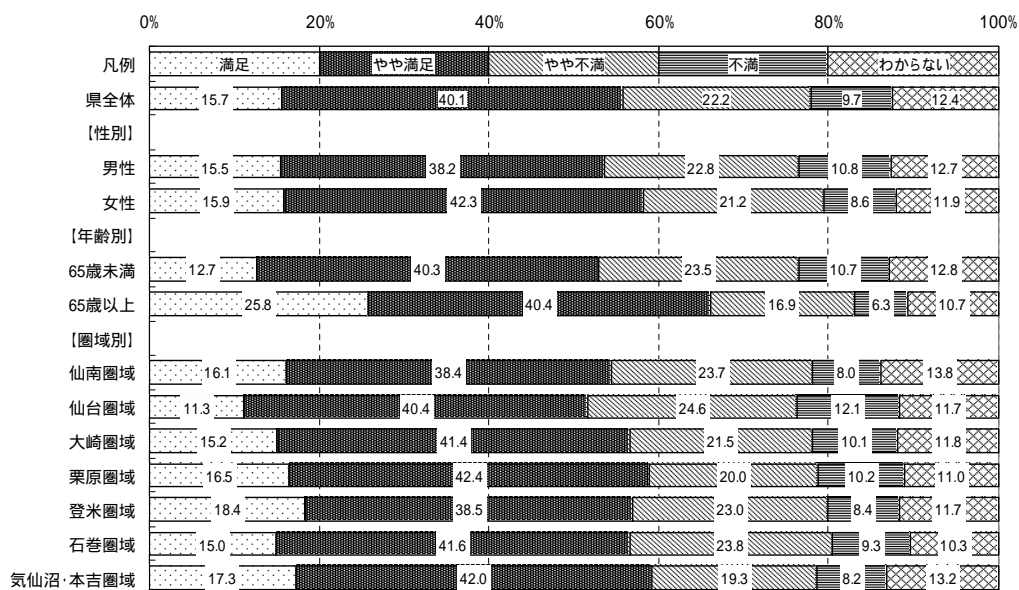
【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

「はやね・はやおき・あさごはん」といった子どもの健全な生活習慣の定着に取り組む気運を高めるため、フォーラムを開催したほか、各学校・PTA等を通じて広く県民や家庭に呼びかけています。

子どもたちを地域全体で育むために、地域と学校をつなぐ仕組みをつくり、地域と学校が協働した教育活動を展開しています。

家庭教育への支援として、子育て電話相談や子育てサポーターの養成、父親の家庭教育参画への支援、家庭教育に関するさまざまな学習機会の提供を行っています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が55.8%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の31.9%を上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が63.7%、『不満』は36.3%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が53.7%に対し、女性は58.2%と、女性の方が4.5ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が53.0%に対し65歳以上の『満足』が66.2%と、65歳以上の方が13.2ポイント高かった。

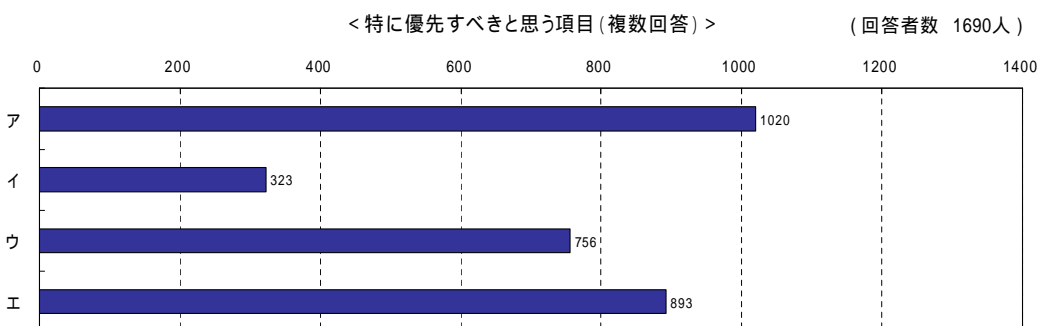
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、気仙沼・本吉圏域（59.3%）、栗原圏域（58.9%）であった。一方、『満足』の割合が比較的低いのは、仙台圏域（51.7%）であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	267	684	378	165	212	1706	72	1778
	パーセント	15.0	38.5	21.3	9.3	11.9	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	15.7	40.1	22.2	9.7	12.4	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	17.9	45.8	25.3	11.0	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	128	315	188	89	105	825	35	860
	パーセント	14.9	36.6	21.9	10.3	12.2	95.9	4.1	100.0
	有効パーセント	15.5	38.2	22.8	10.8	12.7	100.0		
女性	度数	137	365	183	74	103	862	31	893
	パーセント	15.3	40.9	20.5	8.3	11.5	96.5	3.5	100.0
	有効パーセント	15.9	42.3	21.2	8.6	11.9	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	165	524	305	139	166	1299	37	1336
	パーセント	12.4	39.2	22.8	10.4	12.4	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	12.7	40.3	23.5	10.7	12.8	100.0		
65歳以上	度数	99	155	65	24	41	384	30	414
	パーセント	23.9	37.4	15.7	5.8	9.9	92.8	7.2	100.0
	有効パーセント	25.8	40.4	16.9	6.3	10.7	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	36	86	53	18	31	224	6	230
	パーセント	15.7	37.4	23.0	7.8	13.5	97.4	2.6	100.0
	有効パーセント	16.1	38.4	23.7	8.0	13.8	100.0		
仙台圏域	度数	27	97	59	29	28	240	8	248
	パーセント	10.9	39.1	23.8	11.7	11.3	96.8	3.2	100.0
	有効パーセント	11.3	40.4	24.6	12.1	11.7	100.0		
大崎圏域	度数	36	98	51	24	28	237	4	241
	パーセント	14.9	40.7	21.2	10.0	11.6	98.3	1.7	100.0
	有効パーセント	15.2	41.4	21.5	10.1	11.8	100.0		
栗原圏域	度数	42	108	51	26	28	255	19	274
	パーセント	15.3	39.4	18.6	9.5	10.2	93.1	6.9	100.0
	有効パーセント	16.5	42.4	20.0	10.2	11.0	100.0		
登米圏域	度数	44	92	55	20	28	239	12	251
	パーセント	17.5	36.7	21.9	8.0	11.2	95.2	4.8	100.0
	有効パーセント	18.4	38.5	23.0	8.4	11.7	100.0		
石巻圏域	度数	32	89	51	20	22	214	10	224
	パーセント	14.3	39.7	22.8	8.9	9.8	95.5	4.5	100.0
	有効パーセント	15.0	41.6	23.8	9.3	10.3	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	42	102	47	20	32	243	4	247
	パーセント	17.0	41.3	19.0	8.1	13.0	98.4	1.6	100.0
	有効パーセント	17.3	42.0	19.3	8.2	13.2	100.0		

【優先項目】

県が取組14に関し10年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

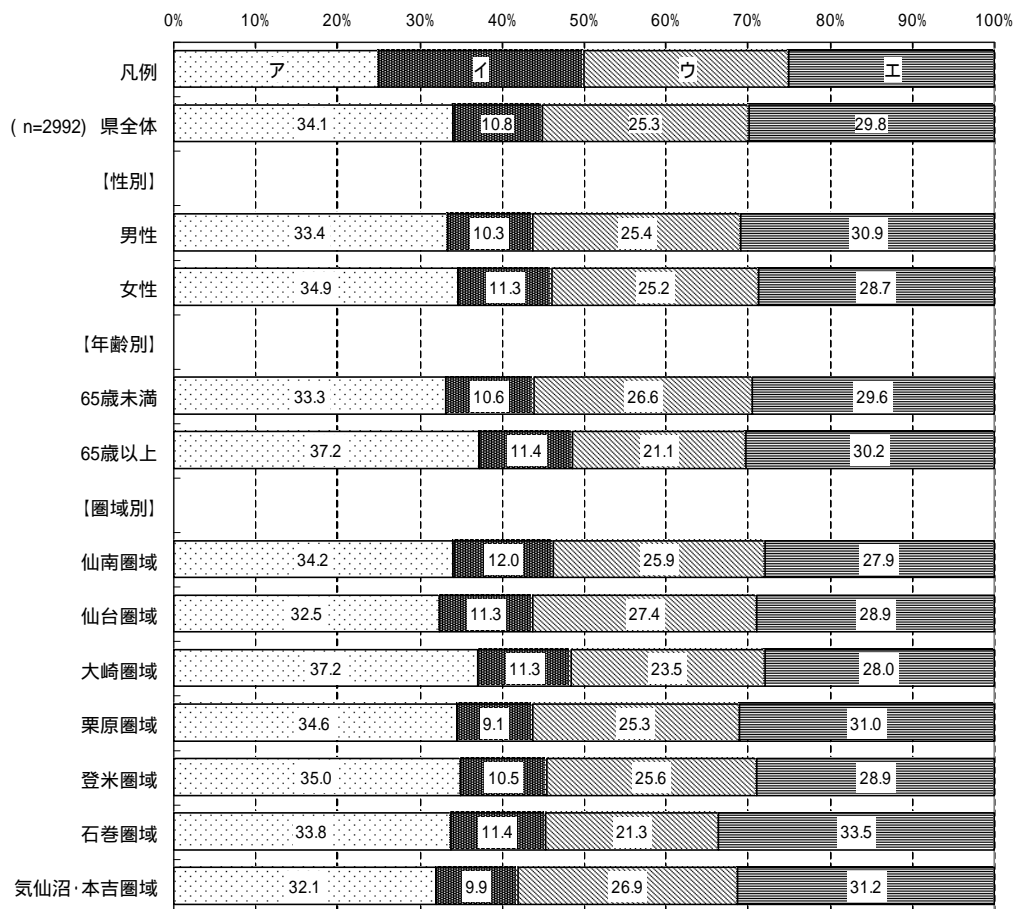
- ア 家庭・地域・学校が協働して行う、子どもの基本的な生活習慣や学習習慣の定着に向けた運動
- イ 学校とNPOなどそれぞれの地域のさまざまな主体が連携して行う教育活動
- ウ 子どもの活動拠点作りや地域で子どもを教え育てるしくみなど、地域全体で子どもの教育を進めるための組織づくり
- エ 家庭・地域・学校が協働し、多くの住民が進んで参画しながら生み出す、子どものさまざまな学習・体験機会



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、2992度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**ア**の家庭・地域・学校が協働して行う、子どもの基本的な生活習慣や学習習慣の定着に向けた運動で、1020度であった。

次に、**エ**の家庭・地域・学校が協働し、多くの住民が進んで参画しながら生み出す、子どものさまざまな学習・体験機会が、893度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**エ**の家庭・地域・学校が協働し、多くの住民が進んで参画しながら生み出す、子どものさまざまな学習・体験機会が、男性30.9%に対し女性が28.7%と、男性の方が2.2ポイント高かった。

年齢別では、**ア**の家庭・地域・学校が協働して行う、子どもの基本的な生活習慣や学習習慣の定着に向けた運動が、65歳未満が33.3%に対し65歳以上は37.2%で、65歳以上の方が3.9ポイント高かった。

一方、**ウ**の地域全体で子どもの教育を進めるための組織づくりは、65歳未満が26.6%に対し65歳以上は21.1%で、65歳未満の方が5.5ポイント高かった。

圏域別では、**ア**の家庭・地域・学校が協働して行う、子どもの基本的な生活習慣や学習習慣の定着に向けた運動で、大崎圏域(37.2%)、登米圏域(35.0%)及び栗原圏域(34.6%)が高かった。また、**エ**の家庭・地域・学校が協働し、多くの住民が進んで参画しながら生み出す、子どものさまざまな学習・体験機会では、石巻圏域(33.5%)が高かった。

取組 15 「着実な学力向上と希望する進路の実現」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

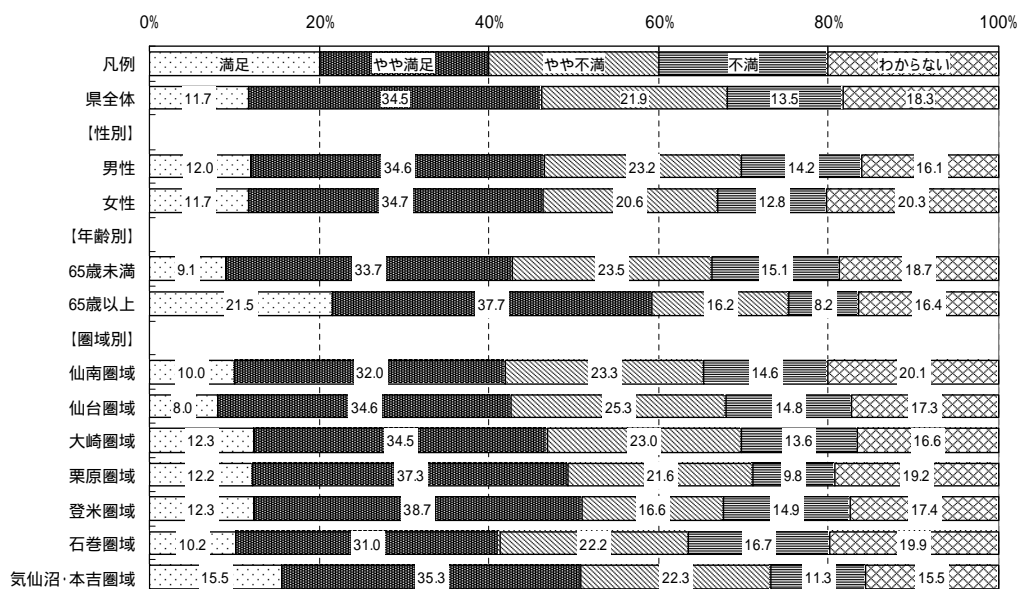
小・中学生の学力向上のため、学習内容の定着状況を把握し、教員の教科指導力を向上させ、家庭学習の習慣づくりを支援する取組を行っています。

高校生の基礎学力向上のため、みやぎ学力状況調査による基礎学力の定着状況等の把握や、普通教科の指導方法の改善に重点をおいた教員研修等を実施しました。

高校生の進学率向上等のため、各地域に進学指導拠点校を指定し、学習合宿や予備校を活用した教員研修など、進学指導充実のための特色ある取組などに支援しました。

高校3年生の就職決定に向け、就職ガイダンスや模擬面接指導など即効性のある支援を行いました。また、推進校を指定し、就職指導の系統的な方策の研究を支援しています。

中学生・高校生の英語力向上のため、英語担当教員に対する集中的な研修等を実施し授業力の向上に努めました。また、英語学習に取り組む意欲を向上させるため、宮城県版英語検定などを実施しました。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が46.2%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の35.4%を上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が56.6%、『不満』は43.4%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が46.6%に対し、女性は46.4%で、ほぼ同じ割合であった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が42.8%に対し65歳以上の『満足』が59.2%と、65歳以上の方が16.4ポイント高かった。

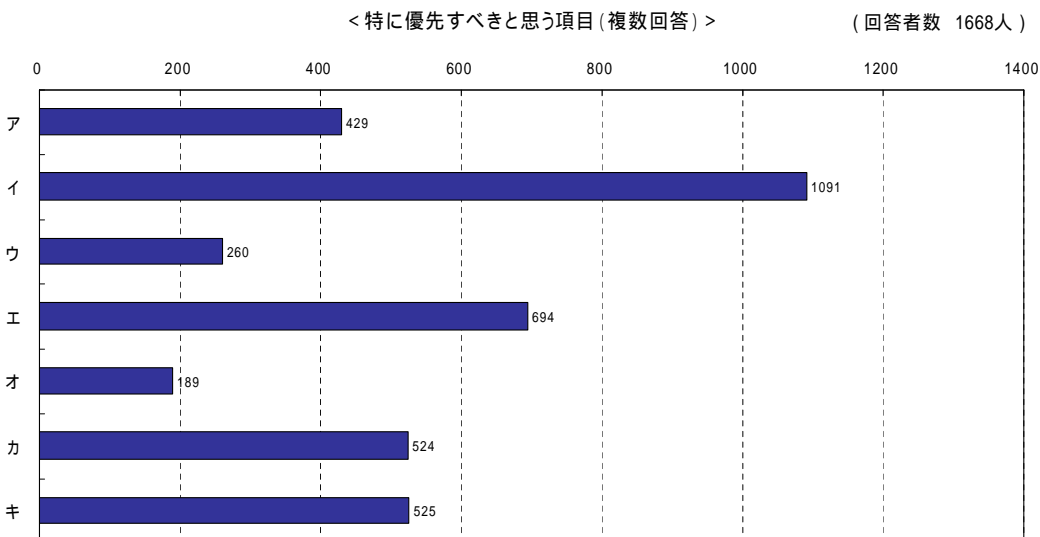
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、登米圏域(51.0%)、気仙沼・本吉圏域(50.8%)、栗原圏域(49.5%)であった。一方、『満足』の割合が比較的低いのは、石巻圏域(41.2%)、仙南圏域(42.0%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	198	582	369	228	309	1686	92	1778
	パーセント	11.1	32.7	20.8	12.8	17.4	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	11.7	34.5	21.9	13.5	18.3	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	14.4	42.3	26.8	16.6	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	98	282	189	116	131	816	44	860
	パーセント	11.4	32.8	22.0	13.5	15.2	94.9	5.1	100.0
	有効パーセント	12.0	34.6	23.2	14.2	16.1	100.0		
女性	度数	100	296	176	109	173	854	39	893
	パーセント	11.2	33.1	19.7	12.2	19.4	95.6	4.4	100.0
	有効パーセント	11.7	34.7	20.6	12.8	20.3	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	117	434	303	194	241	1289	47	1336
	パーセント	8.8	32.5	22.7	14.5	18.0	96.5	3.5	100.0
	有効パーセント	9.1	33.7	23.5	15.1	18.7	100.0		
65歳以上	度数	81	142	61	31	62	377	37	414
	パーセント	19.6	34.3	14.7	7.5	15.0	91.1	8.9	100.0
	有効パーセント	21.5	37.7	16.2	8.2	16.4	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	22	70	51	32	44	219	11	230
	パーセント	9.6	30.4	22.2	13.9	19.1	95.2	4.8	100.0
	有効パーセント	10.0	32.0	23.3	14.6	20.1	100.0		
仙台圏域	度数	19	82	60	35	41	237	11	248
	パーセント	7.7	33.1	24.2	14.1	16.5	95.6	4.4	100.0
	有効パーセント	8.0	34.6	25.3	14.8	17.3	100.0		
大崎圏域	度数	29	81	54	32	39	235	6	241
	パーセント	12.0	33.6	22.4	13.3	16.2	97.5	2.5	100.0
	有効パーセント	12.3	34.5	23.0	13.6	16.6	100.0		
栗原圏域	度数	31	95	55	25	49	255	19	274
	パーセント	11.3	34.7	20.1	9.1	17.9	93.1	6.9	100.0
	有効パーセント	12.2	37.3	21.6	9.8	19.2	100.0		
登米圏域	度数	29	91	39	35	41	235	16	251
	パーセント	11.6	36.3	15.5	13.9	16.3	93.6	6.4	100.0
	有効パーセント	12.3	38.7	16.6	14.9	17.4	100.0		
石巻圏域	度数	22	67	48	36	43	216	8	224
	パーセント	9.8	29.9	21.4	16.1	19.2	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	10.2	31.0	22.2	16.7	19.9	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	37	84	53	27	37	238	9	247
	パーセント	15.0	34.0	21.5	10.9	15.0	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	15.5	35.3	22.3	11.3	15.5	100.0		

【優先項目】

県が取組15に関し10年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

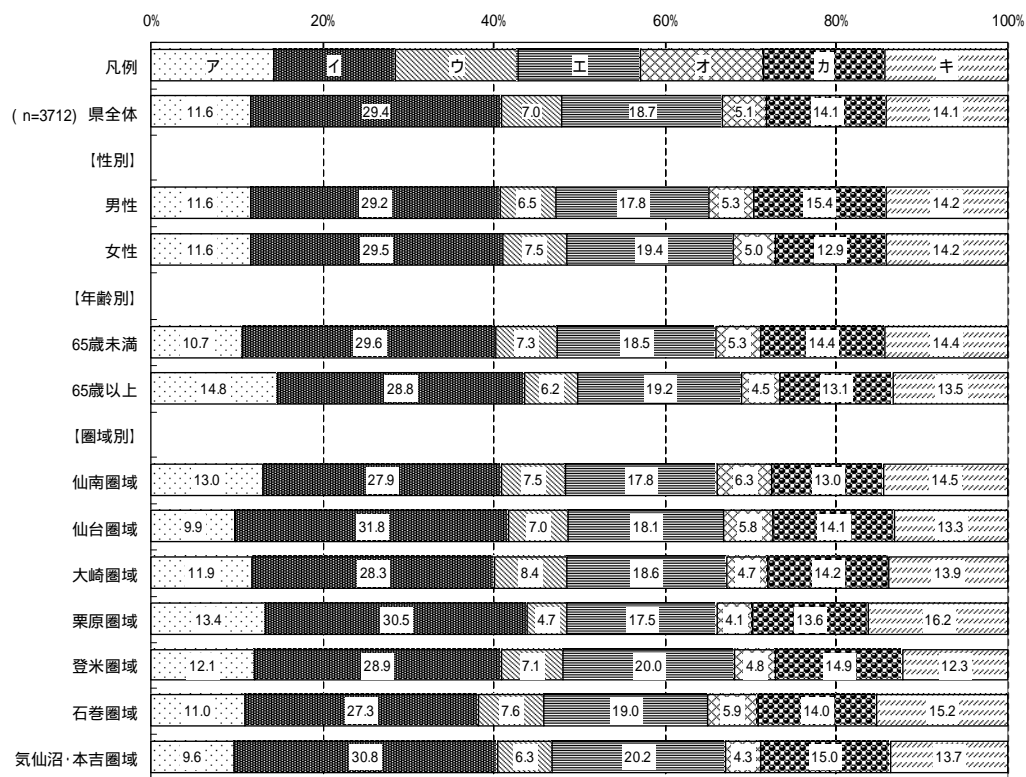
- ア 家庭学習に関する啓発や自習環境の整備など、児童生徒の学習習慣づけの取組
- イ 子どもたちの理解が進むような授業ができるよう、教員の教科指導力を上げたり、小学校・中学校・高校が連携を強化する取組
- ウ 学習状況調査などによる子どもたちの学力定着状況の把握・分析・公開
- エ 子どもたちの進路選択能力を育てるための指導体制の充実と教員が進路指導するための能力・技能の向上
- オ 地域の進学指導等の拠点となる高校での取組の充実とその成果の普及
- カ 産業界などと連携して行う、子どもたちの発達段階に応じた、一人一人の勤労観・職業観を育てる教育の充実
- キ 社会の変化に対応した教育（情報通信技術を活用した教育・国際化に対応した教育・環境教育など）



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3712度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、イの教員の教科指導力を上げたり、小学校・中学校・高校が連携を強化する取組で、1091度であった。

次に、エの子どもたちの進路選択能力を育てるための指導体制の充実と教員が進路指導するための能力・技能の向上が、694度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**カ**の産業界などと連携して行う、子どもたちの発達段階に応じた、一人一人の勤労観・職業観を育てる教育の充実が、男性15.4%に対し女性が12.9%と、男性の方が2.5ポイント高かった。

年齢別では、**ア**の児童生徒の学習習慣づけの取組が、65歳未満が10.7%に対し65歳以上は14.8%で、65歳以上の方が4.1ポイント高かった。

圏域別では、**イ**の教員の教科指導力を上げたり、小学校・中学校・高校が連携を強化する取組で、仙台圏域(31.8%)、気仙沼・本吉圏域(30.8%)、栗原圏域(30.5%)が高かった。

また、**エ**の子どもたちの進路選択能力を育てるための指導体制の充実と教員が進路指導するための能力・技能の向上では、気仙沼・本吉圏域(20.2%)、登米圏域(20.0%)が高かった。

取組 1 6 「豊かな心と健やかな体の育成」

【満足度】

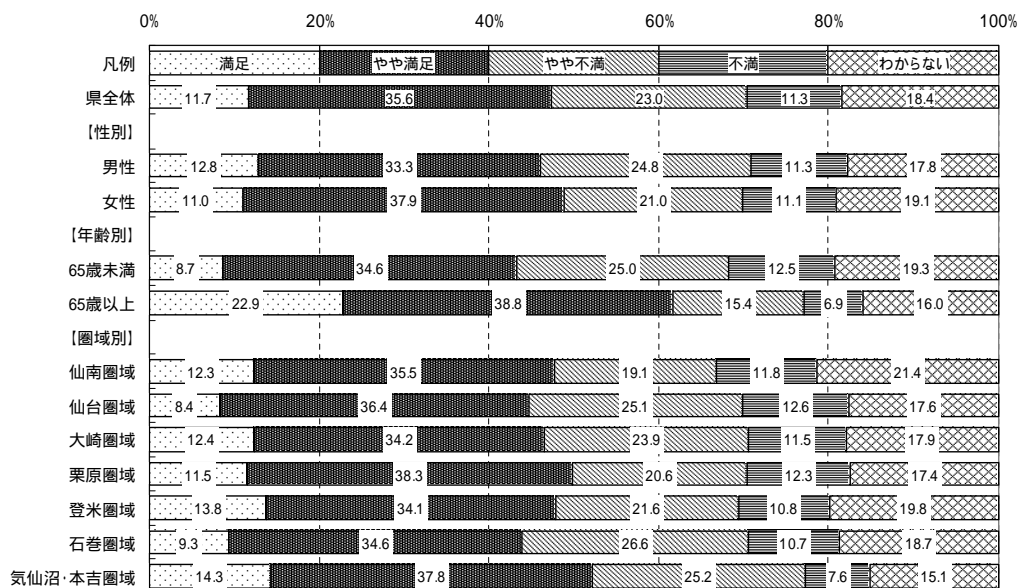
宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

各学校では心の教育の充実により児童生徒の思いやりや命を大切にすることなど豊かな人間性の育成を目指す一方、多様な相談・支援体制の整備拡充を行うことで、児童生徒のいじめ・不登校等の未然防止及び早期解決を図っています。

県内公立中学校の全 1 年生を対象に、思いやりの心や公共心、勤労観、自己達成感等の育成や、将来にわたり社会の中で生きていく力のかん養を図るため、奉仕体験や福祉体験、援農をはじめとする産業現場での支援、地域づくり活動への参加等に取り組んでいます。

他人を信頼し、思いやる心を育てる体験学習法であるアドベンチャープログラムを、学校教育の中で展開するための指導者の育成や研修、事例研究等を進めています。高校生の不登校や中退等の問題行動に対応するため、全県立高校に専門カウンセラーを配置し、生徒・保護者や教職員の相談に応じ、生徒の悩み等の解消を図っています。

県教育研修センターで、臨床心理士・精神科医等が児童生徒や保護者が抱えるいじめ、不登校、非行等のさまざまな問題について、電話や面接による教育相談を行っています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が47.3%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の34.3%を上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が58.0%、『不満』は42.0%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が46.1%に対し、女性は48.9%で、女性の方が2.8ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が43.3%に対し65歳以上の『満足』が61.7%と、65歳以上の方が18.4ポイント高かった。

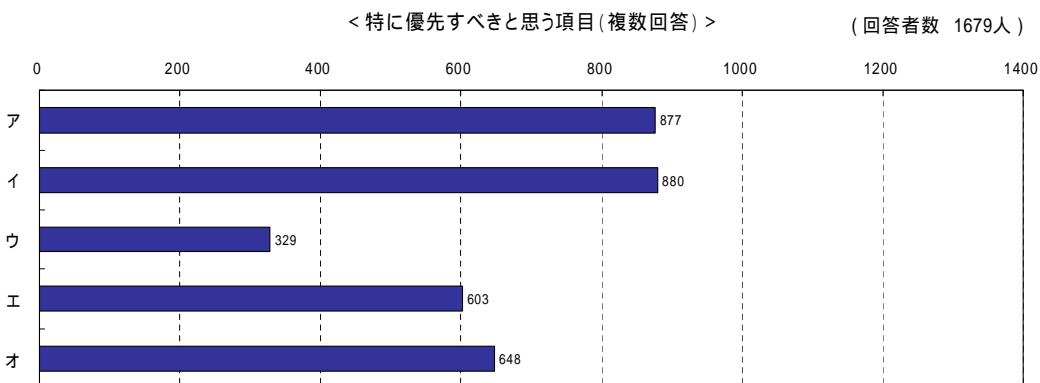
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、気仙沼・本吉圏域(52.1%)であった。一方、『満足』の割合が比較的低いのは、石巻圏域(43.9%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	197	597	386	189	309	1678	100	1778
	パーセント	11.1	33.6	21.7	10.6	17.4	94.4	5.6	100.0
	有効パーセント	11.7	35.6	23.0	11.3	18.4	100.0		
	有効パーセント 「わからない」を除く有効 パーセント	14.4	43.6	28.2	13.8	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	104	271	202	92	145	814	46	860
	パーセント	12.1	31.5	23.5	10.7	16.9	94.7	5.3	100.0
	有効パーセント	12.8	33.3	24.8	11.3	17.8	100.0		
女性	度数	93	322	178	94	162	849	44	893
	パーセント	10.4	36.1	19.9	10.5	18.1	95.1	4.9	100.0
	有効パーセント	11.0	37.9	21.0	11.1	19.1	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	111	444	321	160	247	1283	53	1336
	パーセント	8.3	33.2	24.0	12.0	18.5	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	8.7	34.6	25.0	12.5	19.3	100.0		
65歳以上	度数	86	146	58	26	60	376	38	414
	パーセント	20.8	35.3	14.0	6.3	14.5	90.8	9.2	100.0
	有効パーセント	22.9	38.8	15.4	6.9	16.0	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	27	78	42	26	47	220	10	230
	パーセント	11.7	33.9	18.3	11.3	20.4	95.7	4.3	100.0
	有効パーセント	12.3	35.5	19.1	11.8	21.4	100.0		
仙台圏域	度数	20	87	60	30	42	239	9	248
	パーセント	8.1	35.1	24.2	12.1	16.9	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	8.4	36.4	25.1	12.6	17.6	100.0		
大崎圏域	度数	29	80	56	27	42	234	7	241
	パーセント	12.0	33.2	23.2	11.2	17.4	97.1	2.9	100.0
	有効パーセント	12.4	34.2	23.9	11.5	17.9	100.0		
栗原圏域	度数	29	97	52	31	44	253	21	274
	パーセント	10.6	35.4	19.0	11.3	16.1	92.3	7.7	100.0
	有効パーセント	11.5	38.3	20.6	12.3	17.4	100.0		
登米圏域	度数	32	79	50	25	46	232	19	251
	パーセント	12.7	31.5	19.9	10.0	18.3	92.4	7.6	100.0
	有効パーセント	13.8	34.1	21.6	10.8	19.8	100.0		
石巻圏域	度数	20	74	57	23	40	214	10	224
	パーセント	8.9	33.0	25.4	10.3	17.9	95.5	4.5	100.0
	有効パーセント	9.3	34.6	26.6	10.7	18.7	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	34	90	60	18	36	238	9	247
	パーセント	13.8	36.4	24.3	7.3	14.6	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	14.3	37.8	25.2	7.6	15.1	100.0		

【優先項目】

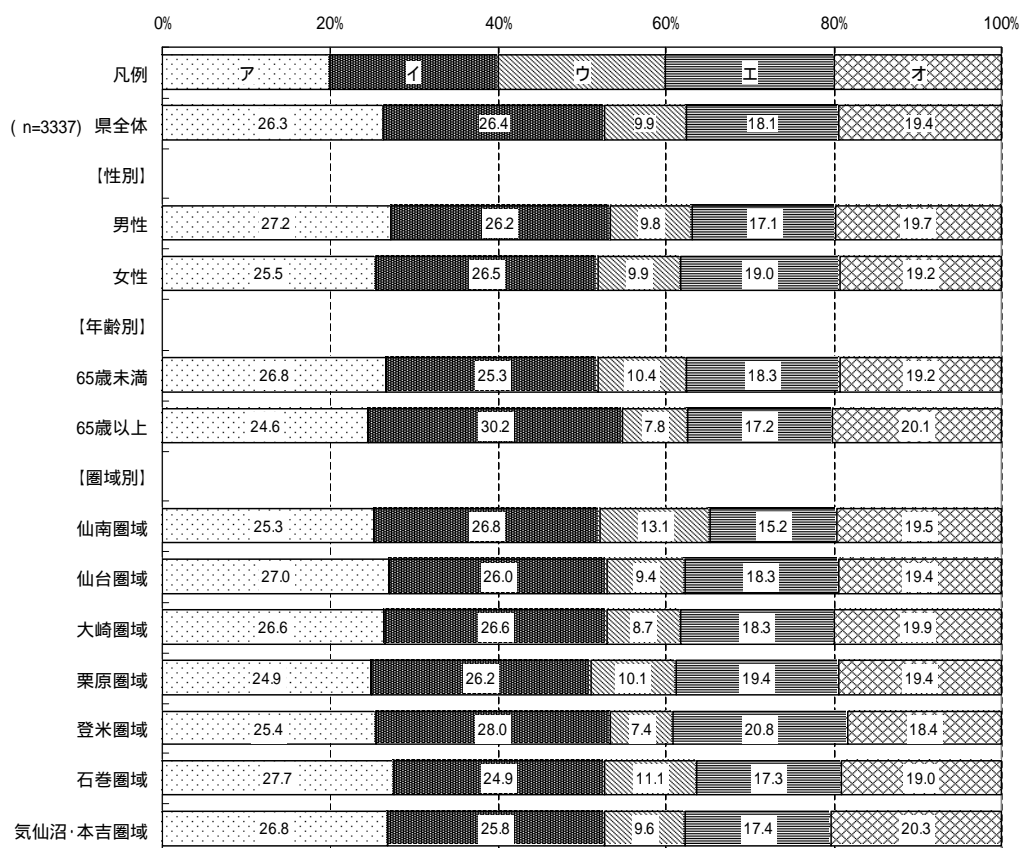
県が取組 16 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア さまざまな社会体験や自然体験など、体験活動の充実や学校教育活動全般を通じた心の教育に関する取組
- イ 家庭・地域が連携して行う、基本的な生活習慣を身につけることの大切さの普及啓発
- ウ みやぎアドベンチャープログラムの活用など、子どもたちの豊かな人間関係づくりのための取組
- エ スクールカウンセラー・相談員などの学校への配置、専門家・関係機関とが連携して行う教育相談体制の充実と不登校児童生徒への支援
- オ 小学校・中学校・高校までの体力・運動能力調査の継続的な実施など、子どもの体力・運動能力向上のための取組



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3337度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、イの家庭・地域が連携して行う、基本的な生活習慣を身につけることの大切さの普及啓発が、880度であった。次に、アの体験活動の充実や学校教育活動全般を通じた心の教育に関する取組が、877度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**ア**の体験活動の充実や学校教育活動全般を通じた心の教育に関する取組が、男性27.2%に対し女性が25.5と、男性の方が1.7ポイント高かった。一方、**エ**のスクールカウンセラー・相談員などの学校への配置、専門家・関係機関とが連携して行う教育相談体制の充実と不登校児童生徒への支援では、男性17.1%に対し女性が19.0と、女性の方が1.9ポイント高かった。

年齢別では、**イ**の家庭・地域が連携して行う、基本的な生活習慣を身につけることの大切さの普及啓発が、65歳未満が25.3%に対し65歳以上は30.2%で、65歳以上の方が4.9ポイント高かった。

圏域別では、**イ**の家庭・地域が連携して行う、基本的な生活習慣を身につけることの大切さの普及啓発で、登米圏域(28.0%)が高かった。

また、**ア**の体験活動の充実や学校教育活動全般を通じた心の教育に関する取組では、石巻圏域(27.7%)、仙台圏域(27.0%)が高かった。

取組 17 「児童生徒や地域のニーズに応じた特色のある教育環境づくり」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

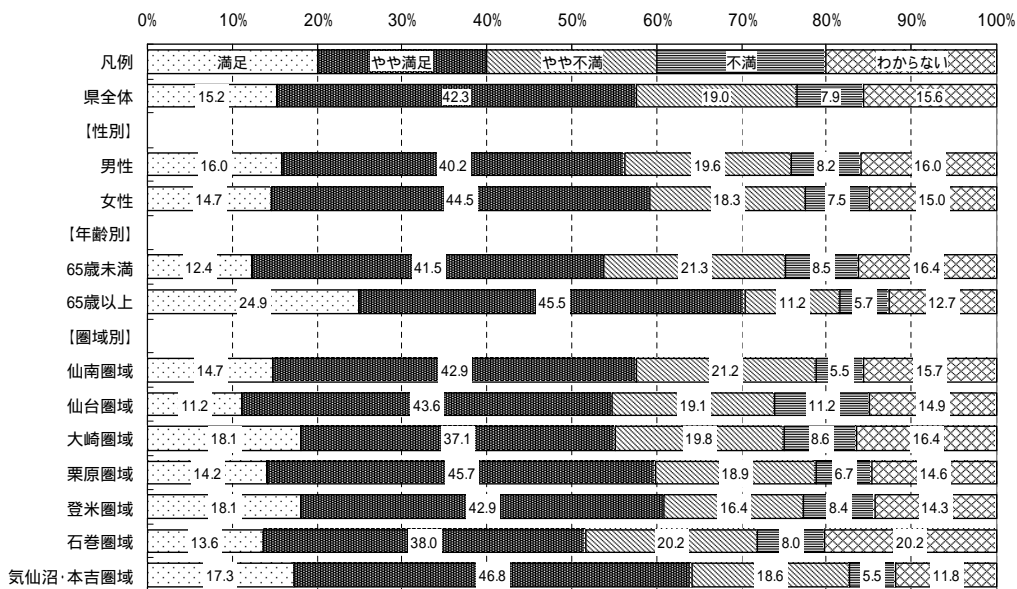
県内全ての小学校1年生及び2年生が、学校生活の基本となる学習習慣や生活習慣を着実に身につけられるよう、35人超学級の解消を進めており、児童一人一人に応じたきめ細かな教育活動を目指しています。

教育現場に専門的知識・技能を持つ優れた社会人を積極的に迎え入れ活用することで、学校教育の多様化に対応するとともに、教育の活性化を図っています。

生徒の興味・関心や進路意識等の多様化、今後の生徒数減少に対応するため、県立高校の再編統合や特色ある学科の設置、男女共学化を進めています。

障害のある子どもも障害のない子どもも共に学ぶことができるような教育を進めるため、モデル的な取組や特別支援学校の子どもたちが地域の学校で学習する取組を行っています。

特別支援学校が、地域の特別支援教育に関する支援センターとして、障害のある子どもたちがいる小・中学校を支援したり、研修会等を行うことで障害についての理解を進めています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が57.5%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の26.9%を大きく上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が68.1%、『不満』は31.9%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が56.2%に対し、女性は59.2%で、女性の方が3.0ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が53.9%に対し65歳以上の『満足』が70.4%と、65歳以上の方が16.5ポイント高かった。

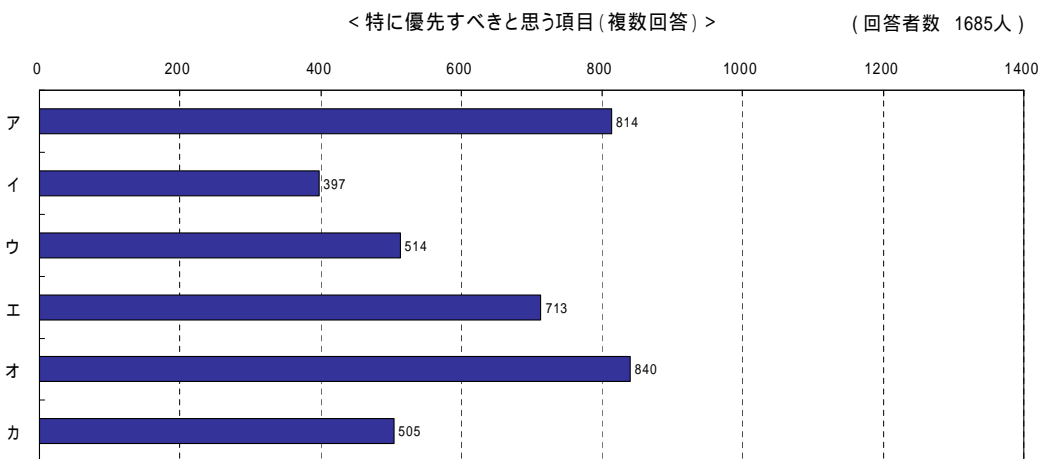
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、気仙沼・本吉圏域(64.1%)、登米圏域(61.0%)、栗原圏域(59.9%)であった。一方、『満足』の割合が低いのは、石巻圏域(51.6%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	256	710	319	133	262	1680	98	1778
	パーセント	14.4	39.9	17.9	7.5	14.7	94.5	5.5	100.0
	有効パーセント	15.2	42.3	19.0	7.9	15.6	100.0		
	有効パーセント (「わからない」を除く有効パーセント)	18.1	50.1	22.5	9.4	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	130	328	160	67	130	815	45	860
	パーセント	15.1	38.1	18.6	7.8	15.1	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	16.0	40.2	19.6	8.2	16.0	100.0		
女性	度数	125	379	156	64	128	852	41	893
	パーセント	14.0	42.4	17.5	7.2	14.3	95.4	4.6	100.0
	有効パーセント	14.7	44.5	18.3	7.5	15.0	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	158	530	272	109	209	1278	58	1336
	パーセント	11.8	39.7	20.4	8.2	15.6	95.7	4.3	100.0
	有効パーセント	12.4	41.5	21.3	8.5	16.4	100.0		
65歳以上	度数	96	175	43	22	49	385	29	414
	パーセント	23.2	42.3	10.4	5.3	11.8	93.0	7.0	100.0
	有効パーセント	24.9	45.5	11.2	5.7	12.7	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	32	93	46	12	34	217	13	230
	パーセント	13.9	40.4	20.0	5.2	14.8	94.3	5.7	100.0
	有効パーセント	14.7	42.9	21.2	5.5	15.7	100.0		
仙台圏域	度数	27	105	46	27	36	241	7	248
	パーセント	10.9	42.3	18.5	10.9	14.5	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	11.2	43.6	19.1	11.2	14.9	100.0		
大崎圏域	度数	42	86	46	20	38	232	9	241
	パーセント	17.4	35.7	19.1	8.3	15.8	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	18.1	37.1	19.8	8.6	16.4	100.0		
栗原圏域	度数	36	116	48	17	37	254	20	274
	パーセント	13.1	42.3	17.5	6.2	13.5	92.7	7.3	100.0
	有効パーセント	14.2	45.7	18.9	6.7	14.6	100.0		
登米圏域	度数	43	102	39	20	34	238	13	251
	パーセント	17.1	40.6	15.5	8.0	13.5	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	18.1	42.9	16.4	8.4	14.3	100.0		
石巻圏域	度数	29	81	43	17	43	213	11	224
	パーセント	12.9	36.2	19.2	7.6	19.2	95.1	4.9	100.0
	有効パーセント	13.6	38.0	20.2	8.0	20.2	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	41	111	44	13	28	237	10	247
	パーセント	16.6	44.9	17.8	5.3	11.3	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	17.3	46.8	18.6	5.5	11.8	100.0		

【優先項目】

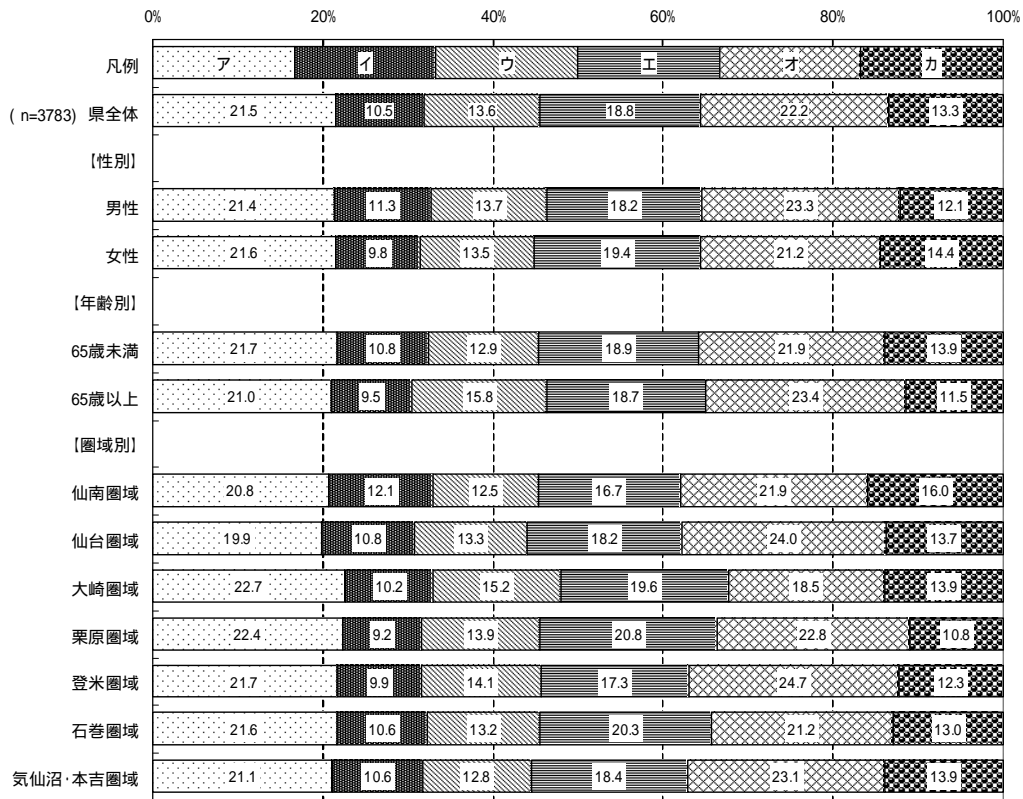
県が取組 17 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 少人数学級や少人数指導など、子どもたちの実情に応じたきめ細かな教育活動の充実
- イ 学校の再・改編や入学者選抜制度改善などによる、時代の要求や教育環境の変化、生徒の多様化・個性化などに応じた魅力ある高校づくり
- ウ 学校の自主性・主体性を生かした学校運営への支援や学校評価の充実などによる地域から信頼される学校づくり
- エ 障害のある子どもも障害のない子どもも、地域の小・中学校で共に学ぶことのできる学習環境づくり
- オ 優秀な教員の確保と、教員の資質向上・学校活性化のための適切な教員評価や教育研修の充実
- カ 学校の耐震化など、安全で快適な教育施設づくり



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3783度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**オ**の優秀な教員の確保と、教員の資質向上・学校活性化のための適切な教員評価や教育研修の充実で、840度であった。次に、**ア**の子どもたちの実情に応じたきめ細かな教育活動の充実が、814度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**オ**の優秀な教員の確保と、教員の資質向上・学校活性化のための適切な教員評価や教育研修の充実が、男性23.3%に対し女性が21.2%と、男性の方が2.1ポイント高かった。

年齢別では、**オ**の優秀な教員の確保と、教員の資質向上・学校活性化のための適切な教員評価や教育研修の充実が、65歳未満が21.9%に対し65歳以上は23.4%で65歳以上の方が1.5ポイント高かった。また、**ウ**の学校の自主性・主体性を生かした学校運営への支援や学校評価の充実などによる地域から信頼される学校づくりが、65歳未満が12.9%に対し65歳以上は15.8%で、65歳以上の方が2.9ポイント高かった。

圏域別では、**オ**の優秀な教員の確保と、教員の資質向上・学校活性化のための適切な教員評価や教育研修の充実で、登米圏域(24.7%)と仙台圏域(24.0%)が高かった。また、**ア**の子どもたちの実情に応じたきめ細かな教育活動の充実では、大崎圏域(22.7%)、栗原圏域(22.4%)が高かった。

取組 18 「多様な就業機会や就業環境の創出」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

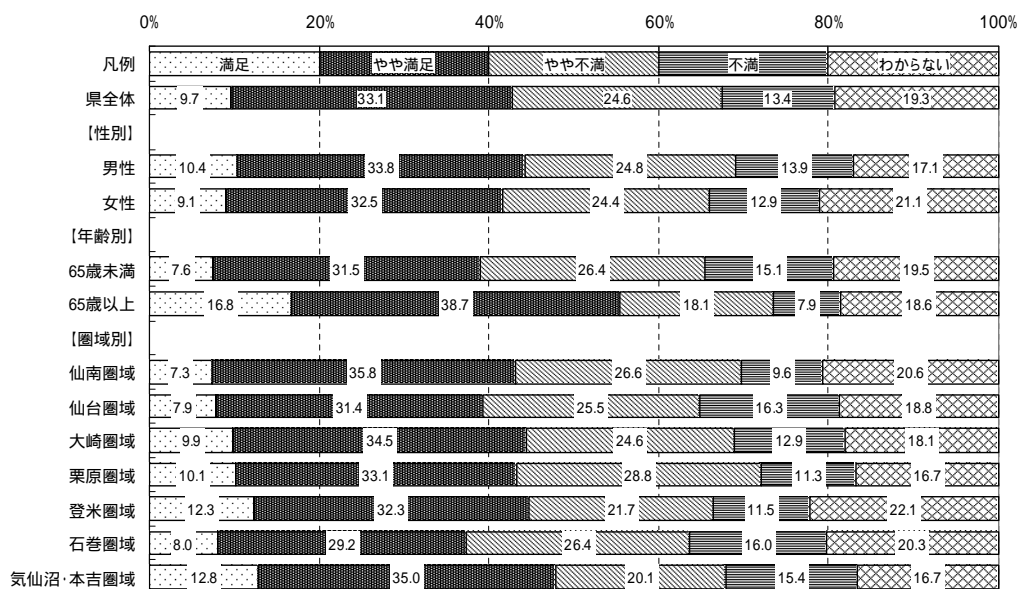
女性の積極的な登用のための措置を行っている企業を、県の入札参加登録審査を行う場合に加点の対象とするなど、男女共同参画社会の実現のための取組を率先して行っています。

学卒未就職者を生み出さない社会づくりを目指し、家庭、地域、学校及び産業界等と連携しながら、子どもの発達段階に応じた職業意識・勤労感の形成・促進を図っています。

概ね 30 歳未満の若年求職者、フリーター等を対象に、キャリアカウンセリングや就業訓練から職業紹介まで一貫した就職支援を行っています。

障害者の就労の促進のため、ホームヘルパーの資格取得の研修会の開催、職場への適応や定着の支援を行う障害者就労アドバイザーの派遣等を行っています。

情報通信技術（IT）を活用した障害者の就労等を支援するため、総合的なサービス提供の拠点として、みやぎITサポートセンターを設置・運営しています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が42.8%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の38.0%を上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が52.9%、『不満』は47.1%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が44.2%に対し、女性は41.6%で、男性の方が2.6ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が39.1%に対し65歳以上の『満足』が55.5%と、65歳以上の方が16.4ポイント高かった。

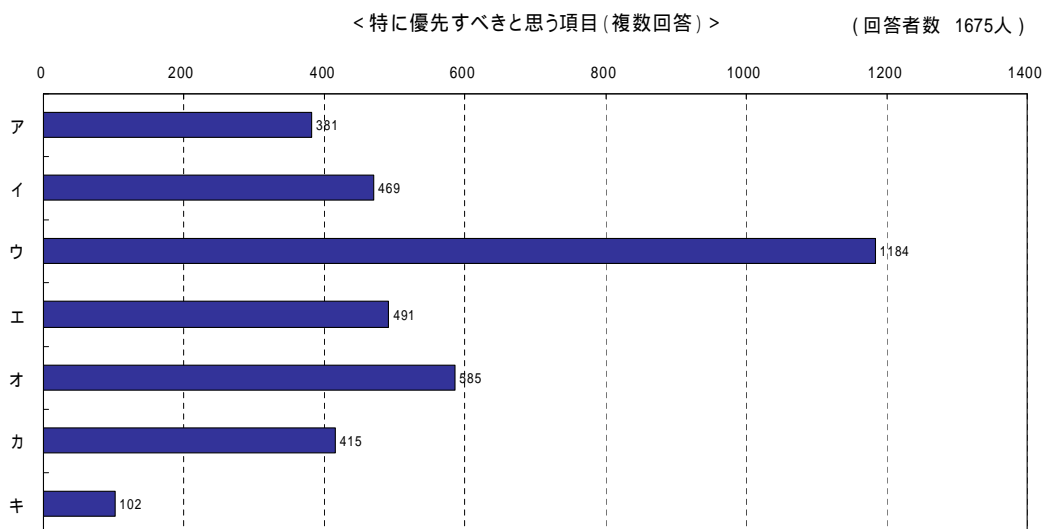
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、気仙沼・本吉圏域(47.8%)であった。一方、『満足』の割合が低いのは、石巻圏域(37.2%)であった。

		有効					欠損値		合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	合計		
県全体	度数	162	554	413	224	323	1676	102	1778
	パーセント	9.1	31.2	23.2	12.6	18.2	94.3	5.7	100.0
	有効パーセント	9.7	33.1	24.6	13.4	19.3	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	12.0	40.9	30.5	16.6	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	85	275	202	113	139	814	46	860
	パーセント	9.9	32.0	23.5	13.1	16.2	94.7	5.3	100.0
	有効パーセント	10.4	33.8	24.8	13.9	17.1	100.0		
女性	度数	77	275	207	109	179	847	46	893
	パーセント	8.6	30.8	23.2	12.2	20.0	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	9.1	32.5	24.4	12.9	21.1	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	97	401	337	192	248	1275	61	1336
	パーセント	7.3	30.0	25.2	14.4	18.6	95.4	4.6	100.0
	有効パーセント	7.6	31.5	26.4	15.1	19.5	100.0		
65歳以上	度数	64	148	69	30	71	382	32	414
	パーセント	15.5	35.7	16.7	7.2	17.1	92.3	7.7	100.0
	有効パーセント	16.8	38.7	18.1	7.9	18.6	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	16	78	58	21	45	218	12	230
	パーセント	7.0	33.9	25.2	9.1	19.6	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	7.3	35.8	26.6	9.6	20.6	100.0		
仙台圏域	度数	19	75	61	39	45	239	9	248
	パーセント	7.7	30.2	24.6	15.7	18.1	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	7.9	31.4	25.5	16.3	18.8	100.0		
大崎圏域	度数	23	80	57	30	42	232	9	241
	パーセント	9.5	33.2	23.7	12.4	17.4	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	9.9	34.5	24.6	12.9	18.1	100.0		
栗原圏域	度数	26	85	74	29	43	257	17	274
	パーセント	9.5	31.0	27.0	10.6	15.7	93.8	6.2	100.0
	有効パーセント	10.1	33.1	28.8	11.3	16.7	100.0		
登米圏域	度数	29	76	51	27	52	235	16	251
	パーセント	11.6	30.3	20.3	10.8	20.7	93.6	6.4	100.0
	有効パーセント	12.3	32.3	21.7	11.5	22.1	100.0		
石巻圏域	度数	17	62	56	34	43	212	12	224
	パーセント	7.6	27.7	25.0	15.2	19.2	94.6	5.4	100.0
	有効パーセント	8.0	29.2	26.4	16.0	20.3	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	30	82	47	36	39	234	13	247
	パーセント	12.1	33.2	19.0	14.6	15.8	94.7	5.3	100.0
	有効パーセント	12.8	35.0	20.1	15.4	16.7	100.0		

【優先項目】

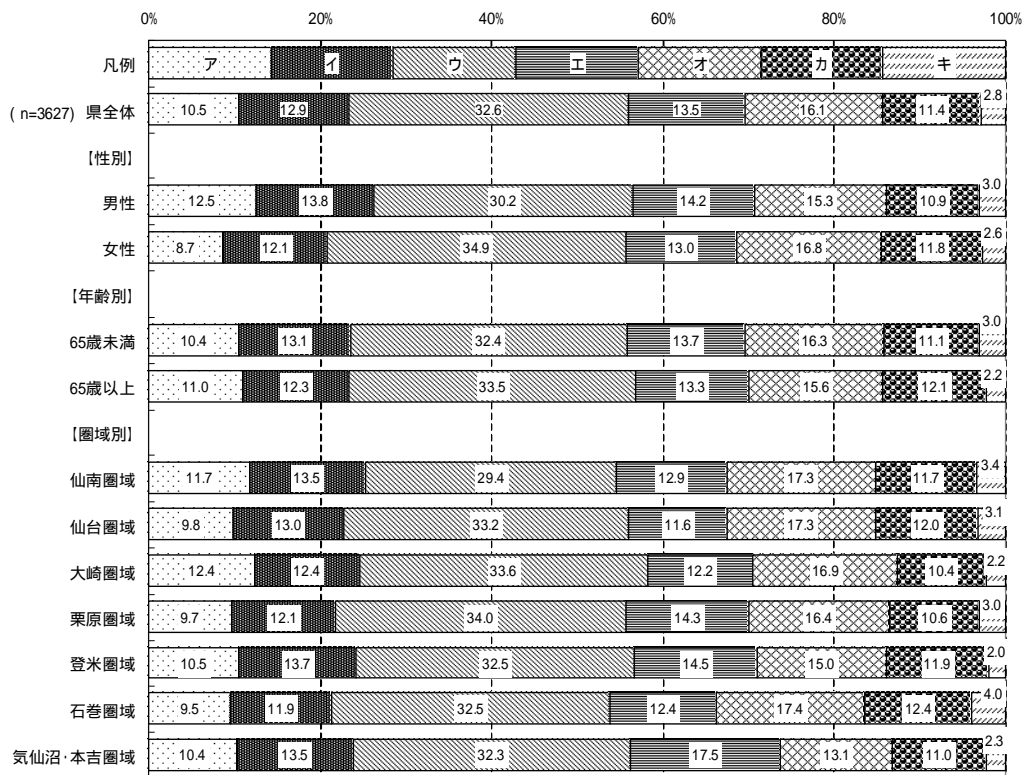
県が取組 18 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 就業形態の変化に応じた、産学官の各種機関が行うさまざまな就業能力開発の機会の提供
- イ 関係機関と連携して行う、非自発的離職者の再挑戦に向けた就業支援
- ウ 働く意欲のある女性や高齢者の、それぞれの経験や能力に応じた就業・雇用環境づくりや能力開発
- エ 相談体制の充実や職業選択機会の提供など、若年者に対する総合的な就業環境づくり
- オ 働く意欲のある障害者等の就職活動を支える能力開発の場の確保や相談・指導体制の充実
- カ 障害者雇用率制度など、障害者も含めた様々な就業環境づくりのための事業者への啓発
- キ 外国人の雇用機会の確保に必要となる指導・助言



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3627度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、ウの働く意欲のある女性や高齢者の就業・雇用環境づくりや能力開発で、1184度であった。次に、オの働く意欲の有る障害者等の就職活動を支える能力開発の場の確保や相談・指導体制の充実が、585度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**ウ**の働く意欲のある女性や高齢者の就業・雇用環境づくりや能力開発が、男性30.2%に対し女性が34.9と、女性の方が4.7ポイント高かった。

一方、**ア**の就業形態の変化に応じた、産学官の各種機関が行うさまざまな就業能力開発の機会の提供では、男性12.5%に対し女性が8.7と、男性の方が3.8ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満と65歳以上とでほとんど差は見られなかった。

圏域別では、**ウ**の働く意欲のある女性や高齢者の就業・雇用環境づくりや能力開発で、栗原圏域(34.0%)、大崎圏域(33.6%)、及び仙台圏域(33.2%)が高かった。また、**オ**の働く意欲の有る障害者等の就職活動を支える能力開発の場の確保や相談・指導体制の充実では、石巻圏域(17.4%)、仙台圏域(17.3%)、仙南圏域(17.3%)が高かった。

取組 19 「安心できる地域医療の充実」

【満足度】

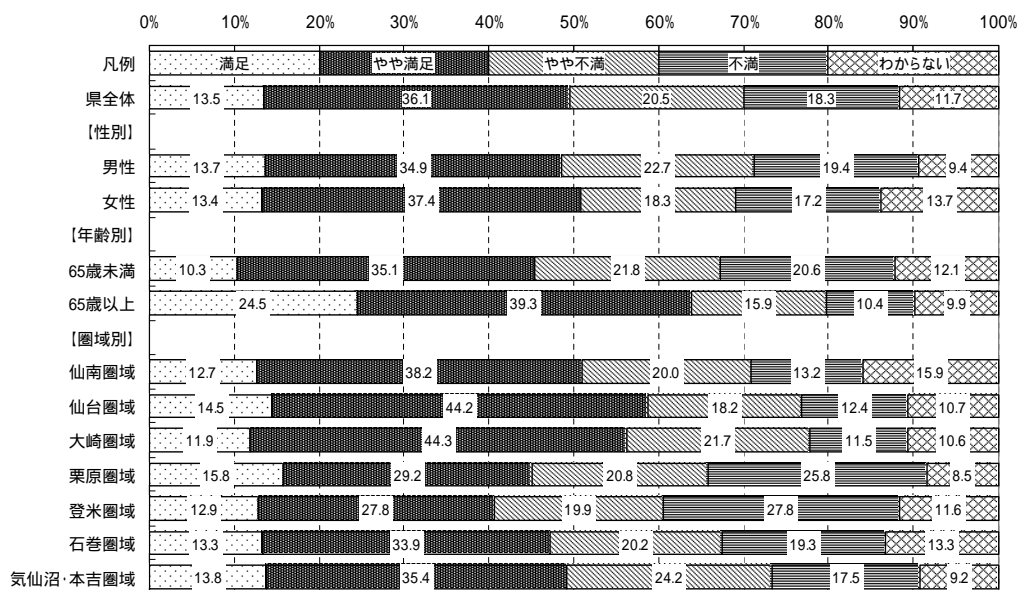
宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

県が、全国から県内自治体病院（診療所含む）に勤務を希望する医師を募集し、県職員として採用後、県内自治体病院に派遣・配置しています。

平成 18 年 10 月に開設した東北大学病院高度救命救急センターの機能・人的資源・知識技術を最大限に活用し、救急科専門医の養成や本県の救急医療全般に関する課題の分析等の調査・研究を委託しています。

全県的かつ専門的な技術支援等を行うリハビリテーション支援センターの設置・運営やリハビリテーション医療、訪問リハビリテーション等を充実させるための支援を行っています。

質の高いがん医療の提供体制を確立するため、がん診療連携拠点病院でのがん専門医等の研修、相談支援体制や情報提供体制の整備を行っています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が49.6%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の38.8%を上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が56.1%、『不満』は43.9%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が48.6%に対し、女性は50.8%で、女性の方が2.2ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が45.4%に対し65歳以上の『満足』が63.8%と、65歳以上の方が18.4ポイント高かった。

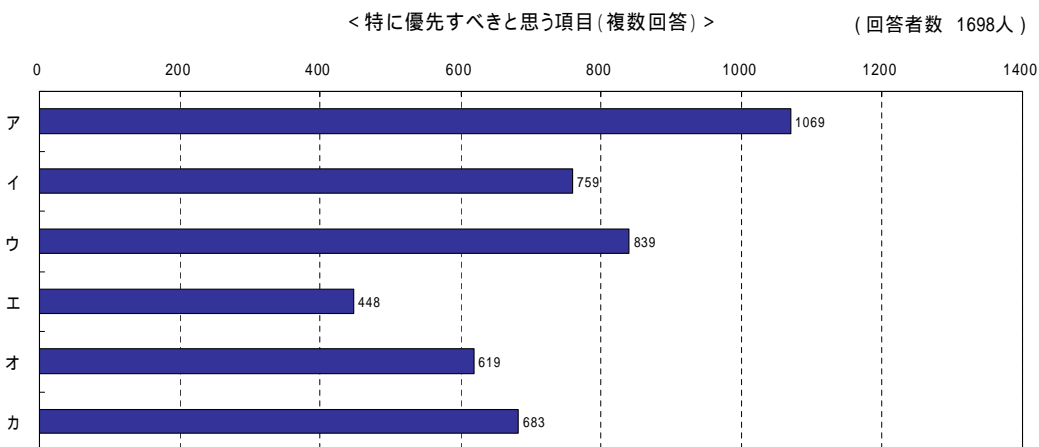
圏域別では『満足』の割合が高いのは、仙台圏域(58.7%)、大崎圏域(56.2%)であった。一方、『満足』の割合が低いのは、登米圏域(40.7%)、栗原圏域(45.0%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	230	616	350	312	199	1707	71	1778
	パーセント	12.9	34.6	19.7	17.5	11.2	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	13.5	36.1	20.5	18.3	11.7	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	15.3	40.8	23.2	20.7	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	114	290	189	161	78	832	28	860
	パーセント	13.3	33.7	22.0	18.7	9.1	96.7	3.3	100.0
	有効パーセント	13.7	34.9	22.7	19.4	9.4	100.0		
女性	度数	115	321	157	148	118	859	34	893
	パーセント	12.9	35.9	17.6	16.6	13.2	96.2	3.8	100.0
	有効パーセント	13.4	37.4	18.3	17.2	13.7	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	134	458	284	269	158	1303	33	1336
	パーセント	10.0	34.3	21.3	20.1	11.8	97.5	2.5	100.0
	有効パーセント	10.3	35.1	21.8	20.6	12.1	100.0		
65歳以上	度数	94	151	61	40	38	384	30	414
	パーセント	22.7	36.5	14.7	9.7	9.2	92.8	7.2	100.0
	有効パーセント	24.5	39.3	15.9	10.4	9.9	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	28	84	44	29	35	220	10	230
	パーセント	12.2	36.5	19.1	12.6	15.2	95.7	4.3	100.0
	有効パーセント	12.7	38.2	20.0	13.2	15.9	100.0		
仙台圏域	度数	35	107	44	30	26	242	6	248
	パーセント	14.1	43.1	17.7	12.1	10.5	97.6	2.4	100.0
	有効パーセント	14.5	44.2	18.2	12.4	10.7	100.0		
大崎圏域	度数	28	104	51	27	25	235	6	241
	パーセント	11.6	43.2	21.2	11.2	10.4	97.5	2.5	100.0
	有効パーセント	11.9	44.3	21.7	11.5	10.6	100.0		
栗原圏域	度数	41	76	54	67	22	260	14	274
	パーセント	15.0	27.7	19.7	24.5	8.0	94.9	5.1	100.0
	有効パーセント	15.8	29.2	20.8	25.8	8.5	100.0		
登米圏域	度数	31	67	48	67	28	241	10	251
	パーセント	12.4	26.7	19.1	26.7	11.2	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	12.9	27.8	19.9	27.8	11.6	100.0		
石巻圏域	度数	29	74	44	42	29	218	6	224
	パーセント	12.9	33.0	19.6	18.8	12.9	97.3	2.7	100.0
	有効パーセント	13.3	33.9	20.2	19.3	13.3	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	33	85	58	42	22	240	7	247
	パーセント	13.4	34.4	23.5	17.0	8.9	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	13.8	35.4	24.2	17.5	9.2	100.0		

【優先項目】

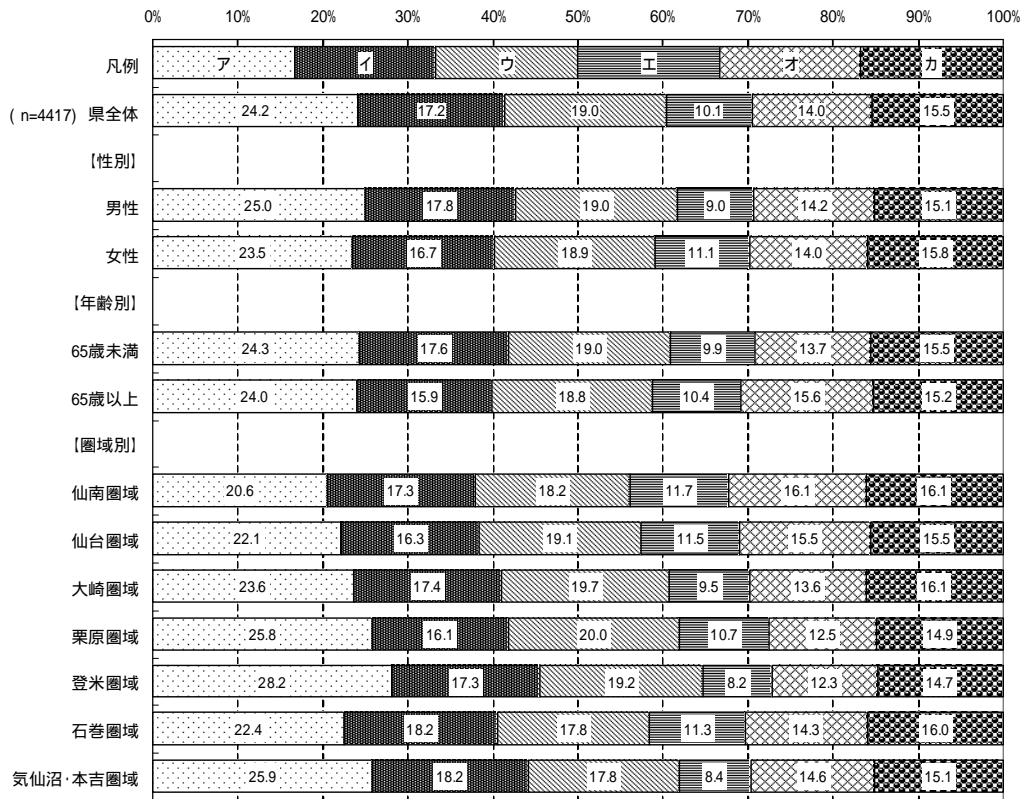
県が取組 19 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 全国から県内の自治体病院での勤務を希望する医師を募集・配置するなど、地域医療を充実させるための医師確保
- イ 県内の各地域ごとの拠点となる病院の整備への支援と、各地域の病院、診療所間の連携・機能分担の促進
- ウ 救急医療を担う人材の育成・確保と、救急医療情報システムの活用により各地域内で救急医療を完結できる体制づくり
- エ 総合的なりハビリテーションが提供できる体制づくりと、県リハビリテーション支援センターの充実
- オ より高度で専門的ながん医療提供のため、県立がんセンターなどがん診療の拠点となる病院の機能強化や在宅緩和ケアの体制づくりなど、総合的ながん対策
- カ 看護職員の確実な確保とその資質向上のために必要となる養成施設などへの支援



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、4417度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**ア**の地域医療を充実させるための医師確保で、1069度であった。次いで、**ウ**の救急医療を担う人材の育成・確保と、救急医療情報システムの活用により各地域内で救急医療を完結できる体制づくりが、839度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、エの総合的なリハビリテーションが提供できる体制づくりと、県リハビリテーション支援センターの充実が、男性9.0%に対し女性が11.1%と、女性の方が2.1ポイント高かった。

年齢別では、イの県内の各地域ごとの拠点となる病院の整備への支援と、各地域の病院、診療所間の連携・機能分担の促進が、65歳未満が17.6%に対し65歳以上は15.9%で、65歳未満の方が1.7ポイント高かった。また、オのより高度で専門的ながん医療提供のため、県立がんセンターなどががん診療の拠点となる病院の機能強化や在宅緩和ケアの体制づくりなど、総合的ながん対策が、65歳未満が13.7%に対し65歳以上は15.6%で、65歳以上の方が1.9ポイント高かった。

圏域別では、アの地域医療を充実させるための医師確保で、登米圏域(28.2%)、気仙沼・本吉圏域(25.9%)及び栗原圏域(25.8%)が高かった。

また、ウの救急医療を担う人材の育成・確保と、救急医療情報システムの活用により各地域内で救急医療を完結できる体制づくりでは、栗原圏域(20.0%)、大崎圏域(19.7%)、登米圏域(19.2%)が高かった。

取組 2 0 「生涯を豊かに暮らすための健康づくり」

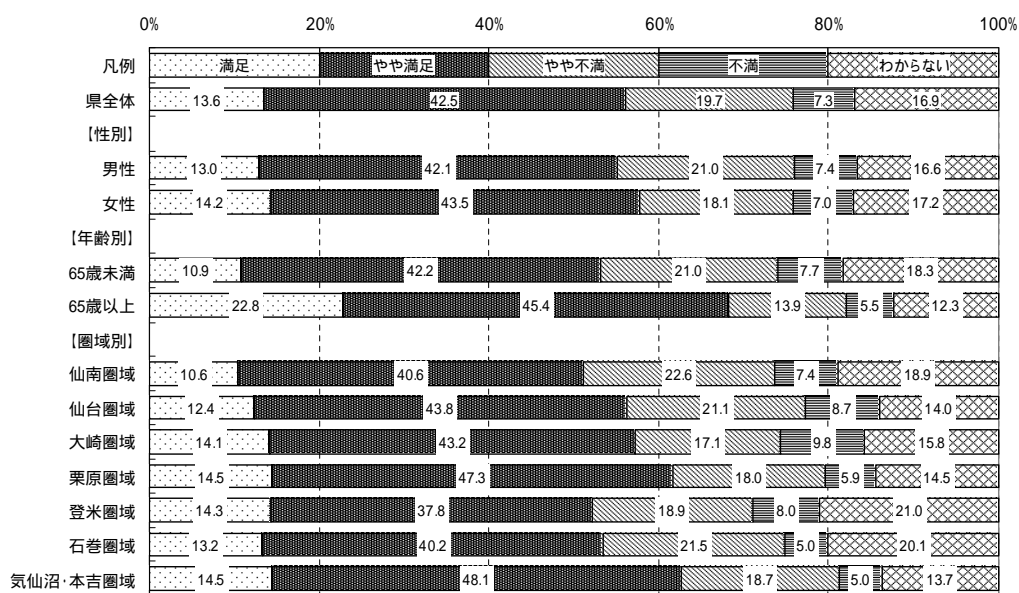
【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

県民の健康づくりを支援するため、総合的な健康づくりの指針である「みやぎ 21 健康プラン」を推進し、望ましい食生活、運動、たばこ対策など県民への普及啓発を行っています。

宮城県の特性を生かした食育を推進するため、「宮城県食育推進プラン」を策定し、関係団体等と連携して「食育」への関心を高めるための普及啓発などを行っています。

新型インフルエンザの発生に備え、抗インフルエンザウイルス（タミフル）の備蓄等を進めるとともに、研修会を開催するなど、感染症対策を進めています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が56.1%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の27.0%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が67.5%、『不満』は32.5%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が55.1%に対し、女性は57.7%で、女性の方が2.6ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が53.1%に対し65歳以上の『満足』が68.2%と、65歳以上の方が15.1ポイント高かった。

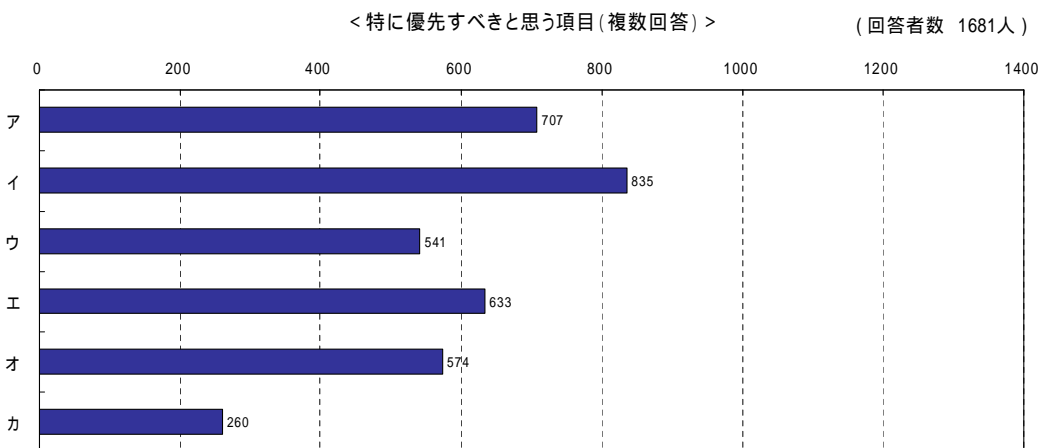
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、気仙沼・本吉圏域(62.6%)、栗原圏域(61.8%)であった。一方、『満足』の割合が比較的低いのは、仙南圏域(51.2%)、登米圏域(52.1%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	230	722	334	124	287	1697	81	1778
	パーセント	12.9	40.6	18.8	7.0	16.1	95.4	4.6	100.0
	有効パーセント	13.6	42.5	19.7	7.3	16.9	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	16.3	51.2	23.7	8.8	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	107	347	173	61	137	825	35	860
	パーセント	12.4	40.3	20.1	7.1	15.9	95.9	4.1	100.0
	有効パーセント	13.0	42.1	21.0	7.4	16.6	100.0		
女性	度数	122	373	155	60	147	857	36	893
	パーセント	13.7	41.8	17.4	6.7	16.5	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	14.2	43.5	18.1	7.0	17.2	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	141	547	272	100	237	1297	39	1336
	パーセント	10.6	40.9	20.4	7.5	17.7	97.1	2.9	100.0
	有効パーセント	10.9	42.2	21.0	7.7	18.3	100.0		
65歳以上	度数	87	173	53	21	47	381	33	414
	パーセント	21.0	41.8	12.8	5.1	11.4	92.0	8.0	100.0
	有効パーセント	22.8	45.4	13.9	5.5	12.3	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	23	88	49	16	41	217	13	230
	パーセント	10.0	38.3	21.3	7.0	17.8	94.3	5.7	100.0
	有効パーセント	10.6	40.6	22.6	7.4	18.9	100.0		
仙台圏域	度数	30	106	51	21	34	242	6	248
	パーセント	12.1	42.7	20.6	8.5	13.7	97.6	2.4	100.0
	有効パーセント	12.4	43.8	21.1	8.7	14.0	100.0		
大崎圏域	度数	33	101	40	23	37	234	7	241
	パーセント	13.7	41.9	16.6	9.5	15.4	97.1	2.9	100.0
	有効パーセント	14.1	43.2	17.1	9.8	15.8	100.0		
栗原圏域	度数	37	121	46	15	37	256	18	274
	パーセント	13.5	44.2	16.8	5.5	13.5	93.4	6.6	100.0
	有効パーセント	14.5	47.3	18.0	5.9	14.5	100.0		
登米圏域	度数	34	90	45	19	50	238	13	251
	パーセント	13.5	35.9	17.9	7.6	19.9	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	14.3	37.8	18.9	8.0	21.0	100.0		
石巻圏域	度数	29	88	47	11	44	219	5	224
	パーセント	12.9	39.3	21.0	4.9	19.6	97.8	2.2	100.0
	有効パーセント	13.2	40.2	21.5	5.0	20.1	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	35	116	45	12	33	241	6	247
	パーセント	14.2	47.0	18.2	4.9	13.4	97.6	2.4	100.0
	有効パーセント	14.5	48.1	18.7	5.0	13.7	100.0		

【優先項目】

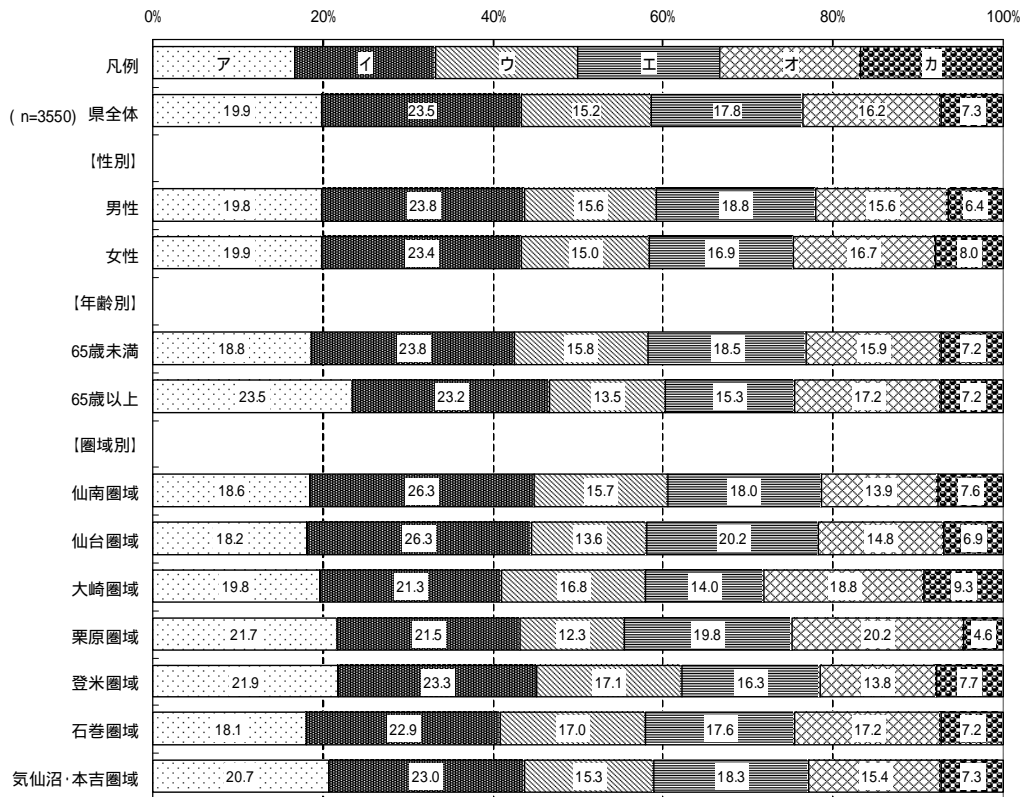
県が取組 20 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 「みやぎ 21 健康プラン」にもとづく、バランスの取れた食生活・食習慣の実現や運動習慣の普及・定着など、県民の健康づくり
- イ がん予防のための普及啓発、マンモグラフィ検診など効果的で質の高いがん検診の普及
- ウ 地域や学校、家庭、職場などが連携・協力して行う、宮城の特性を生かした総合な食育
- エ 保健所や衛生研究所、医療機関などが連携した防疫、医療提供、情報提供などの体制づくりと、感染症集団発生に備えた隣県等を含めた広域的な連携体制づくり
- オ 乳幼児期から高齢期まで、一人ひとりの人生の段階に応じた心の健康づくりのための相談、指導体制づくり
- カ 乳幼児に対するフッ化物の活用の推進やそれぞれの年代や地域の実情に応じた歯科保健体制づくり



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3550度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、イの効果的で質の高いがん検診の普及で、835度であった。次いで、アの「みやぎ 21 健康プラン」にもとづく、バランスの取れた食生活・食習慣の実現や運動習慣の普及・定着など、県民の健康づくりが、707度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、エの保健所や衛生研究所、医療機関などが連携した防疫、医療提供、情報提供などの体制づくりと、感染症集団発生に備えた隣県等を含めた広域的な連携体制づくりが、男性18.8%に対し女性が16.9%と、男性の方が1.9ポイント高かった。

年齢別では、アの「みやぎ21健康プラン」にもとづく、バランスの取れた食生活・食習慣の実現や運動習慣の普及・定着など、県民の健康づくりが、65歳未満が18.8%に対し65歳以上は23.5%で、65歳以上の方が4.7ポイント高かった。

圏域別では、イの効果的で質の高いがん検診の普及で、仙南圏域(26.3%)、仙台圏域(26.3%)が高かった。

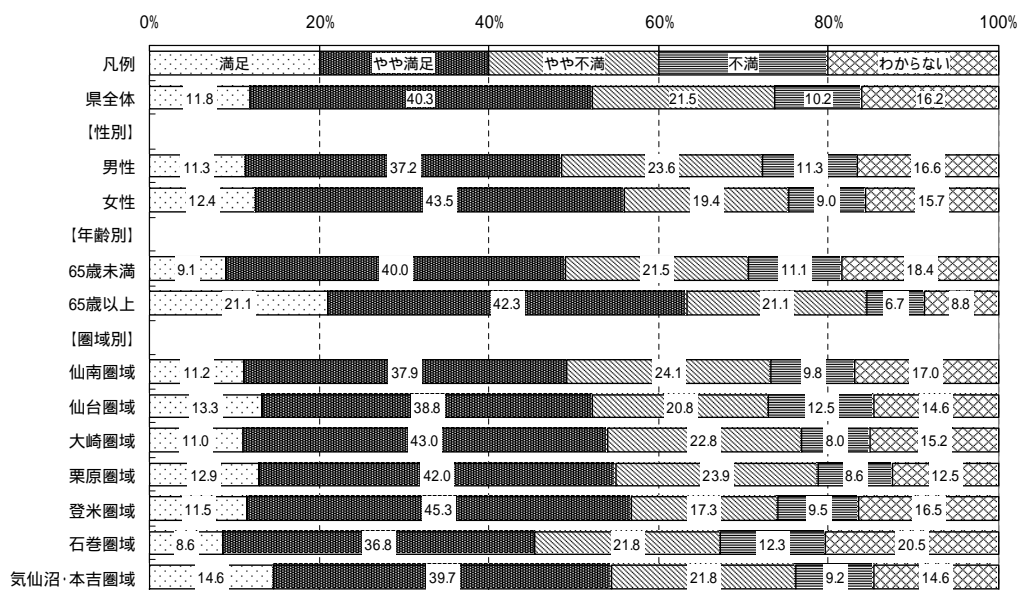
また、アの「みやぎ21健康プラン」にもとづく、バランスの取れた食生活・食習慣の実現や運動習慣の普及・定着など、県民の健康づくりでは、登米圏域(21.9%)、栗原圏域(21.7%)が高かった。

取組 2 1 「高齢者が元気に安心して暮らせる環境づくり」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

体系的な学習を通し、元気な高齢者の生きがいと健康、仲間づくりを図りながら、地域活動の高齢者リーダーを育成するために宮城いきいき学園を運営しています。介護の必要な高齢者に対して、日常生活上のお世話、機能訓練、健康管理及び療養上のサービスを行う特別養護老人ホーム建設への助成を行っています。要介護高齢者がサービスを適切に利用できるように支援する介護支援専門員（ケアマネージャー）の養成を行ったり、介護支援専門員がより質の高い支援ができるよう、研修を行っています。市町村などの高齢者虐待への対応を支援するため、相談機関を設置し、研修会を実施しています。また、講演会やシンポジウムを開催して高齢者の権利擁護意識の啓発を進めています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が52.1%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の31.7%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が62.2%、『不満』は37.8%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が48.5%に対し、女性は55.9%で、女性の方が7.4ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が49.1%に対し65歳以上の『満足』が63.4%と、65歳以上の方が14.3ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、登米圏域(56.8%)、栗原圏域(54.9%)、気仙沼・本吉圏域(54.3%)、大崎圏域(54.0%)であった。

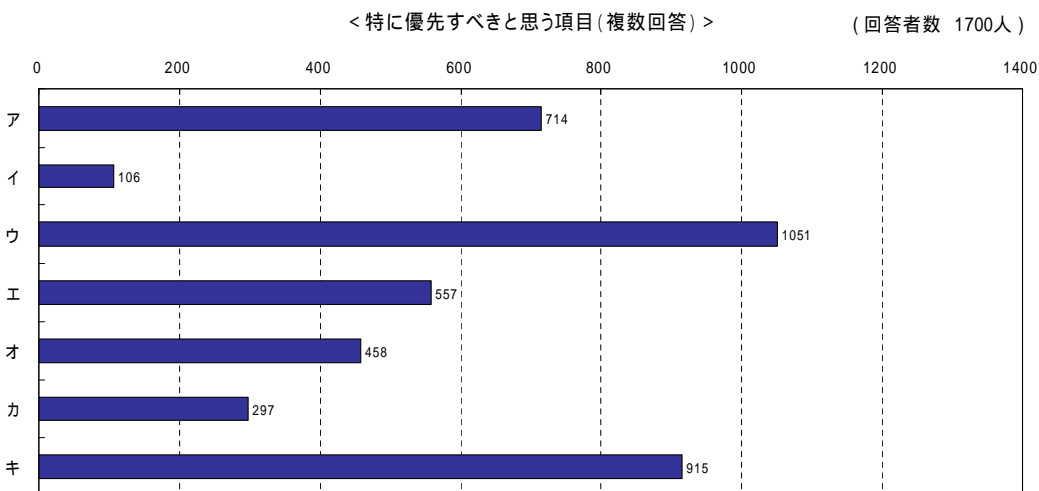
一方、『満足』の割合が低いのは、石巻圏域(45.4%)であった。

	有効					合計	欠損値	合計	
	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない				
県全体	度数	202	688	366	174	276	1706	72	1778
	パーセント	11.4	38.7	20.6	9.8	15.5	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	11.8	40.3	21.5	10.2	16.2	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	14.1	48.1	25.6	12.2	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	94	310	197	94	138	833	27	860
	パーセント	10.9	36.0	22.9	10.9	16.0	96.9	3.1	100.0
	有効パーセント	11.3	37.2	23.6	11.3	16.6	100.0		
女性	度数	107	374	167	77	135	860	33	893
	パーセント	12.0	41.9	18.7	8.6	15.1	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	12.4	43.5	19.4	9.0	15.7	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	118	520	280	144	239	1301	35	1336
	パーセント	8.8	38.9	21.0	10.8	17.9	97.4	2.6	100.0
	有効パーセント	9.1	40.0	21.5	11.1	18.4	100.0		
65歳以上	度数	82	164	82	26	34	388	26	414
	パーセント	19.8	39.6	19.8	6.3	8.2	93.7	6.3	100.0
	有効パーセント	21.1	42.3	21.1	6.7	8.8	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	25	85	54	22	38	224	6	230
	パーセント	10.9	37.0	23.5	9.6	16.5	97.4	2.6	100.0
	有効パーセント	11.2	37.9	24.1	9.8	17.0	100.0		
仙台圏域	度数	32	93	50	30	35	240	8	248
	パーセント	12.9	37.5	20.2	12.1	14.1	96.8	3.2	100.0
	有効パーセント	13.3	38.8	20.8	12.5	14.6	100.0		
大崎圏域	度数	26	102	54	19	36	237	4	241
	パーセント	10.8	42.3	22.4	7.9	14.9	98.3	1.7	100.0
	有効パーセント	11.0	43.0	22.8	8.0	15.2	100.0		
栗原圏域	度数	33	107	61	22	32	255	19	274
	パーセント	12.0	39.1	22.3	8.0	11.7	93.1	6.9	100.0
	有効パーセント	12.9	42.0	23.9	8.6	12.5	100.0		
登米圏域	度数	28	110	42	23	40	243	8	251
	パーセント	11.2	43.8	16.7	9.2	15.9	96.8	3.2	100.0
	有効パーセント	11.5	45.3	17.3	9.5	16.5	100.0		
石巻圏域	度数	19	81	48	27	45	220	4	224
	パーセント	8.5	36.2	21.4	12.1	20.1	98.2	1.8	100.0
	有効パーセント	8.6	36.8	21.8	12.3	20.5	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	35	95	52	22	35	239	8	247
	パーセント	14.2	38.5	21.1	8.9	14.2	96.8	3.2	100.0
	有効パーセント	14.6	39.7	21.8	9.2	14.6	100.0		

【優先項目】

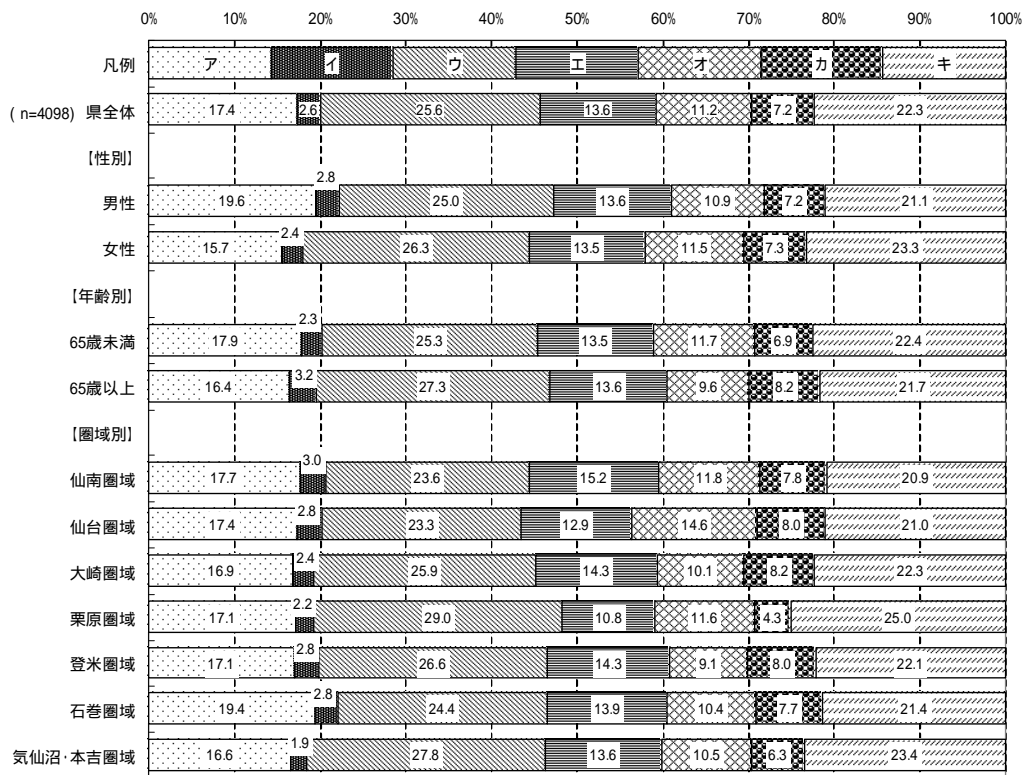
県が取組 2 1 に関し 1 0 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 高齢者の知識や経験を生かした地域活動への参加促進と、地域活動で中心となって活躍する人材の養成・確保
- イ 仙台市との共催で行う「ねんりんピック（全国健康福祉祭）」
- ウ 介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心した生活を送るための基盤づくりや地域でともに助け合い支え合うしくみづくり
- エ 専門的知識を持ちながら、介護サービス利用者の立場に立ったサービスを提供できる質の高い人材の養成・確保
- オ 介護予防サービスの提供や、自立した生活を送るための介護予防ケアマネジメント体制づくり
- カ 高齢者などの権利をまもるための体制づくりと県民意識の啓発
- キ 認知症への正しい理解の促進や、かかりつけ医等による認知症の早期発見・早期対応の体制づくりなど、認知症高齢者やその介護家族を支える総合的な支援



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、4 0 9 8 度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、ウの介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心した生活を送るための基盤づくりや地域でともに助け合い支え合うしくみづくりで、1 0 5 1 度であった。次いで、キの認知症高齢者やその介護家族を支える総合的な支援が9 1 5 度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**ア**の高齢者の知識や経験を生かした地域活動への参加促進と、地域活動で中心となって活躍する人材の養成・確保が、男性19.6%に対し女性が15.7%と、男性の方が3.9ポイント高かった。一方、**キ**の認知症高齢者やその介護家族を支える総合的な支援が、男性21.1%に対し女性が23.3%と、女性の方が2.2ポイント高かった。

年齢別では、**ウ**の介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心した生活を送るための基盤づくりや地域でともに助け合い支え合うしくみづくりが、65歳未満が25.3%に対し65歳以上は27.3%で、65歳以上の方が2.0ポイント高かった。

圏域別では、**ウ**の介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心した生活を送るための基盤づくりや地域でともに助け合い支え合うしくみづくりで、栗原圏域(29.0%)、気仙沼・本吉圏域(27.8%)が高かった。

また、**キ**の認知症高齢者やその介護家族を支える総合的な支援では、栗原圏域(25.0%)、気仙沼・本吉圏域(23.4%)が高かった。

取組 2 「障害があっても安心して生活できる地域社会の実現」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

地域での住まいの場の確保のため、社会福祉法人等が行う知的障害者グループホーム（ケアホーム）のバリアフリー化等の住宅改修・備品購入の経費への補助を行っています。

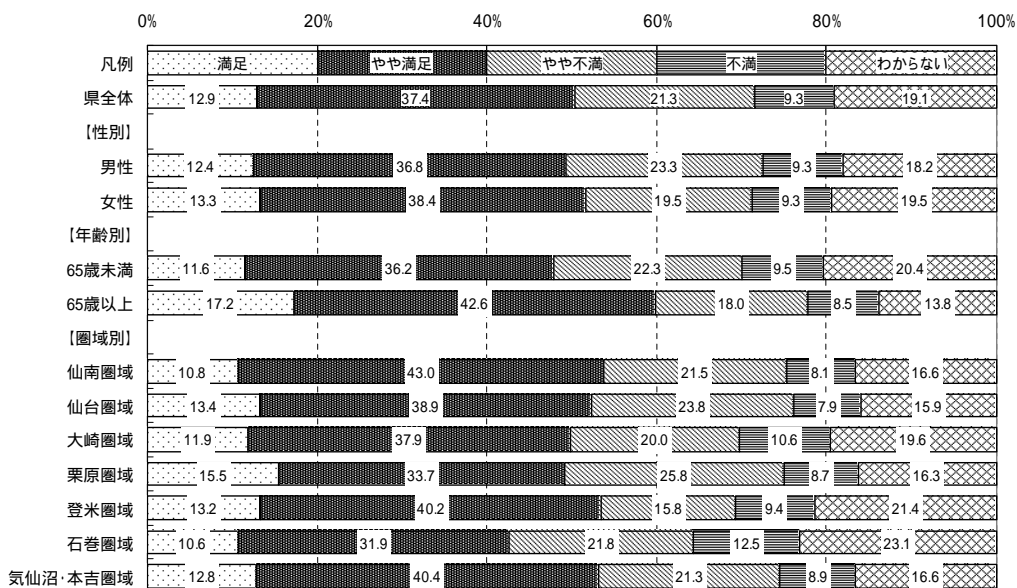
福祉のまちづくり条例の基準に適合した公共施設等に適合証を交付したり、小学生向けの読本を配布するなど、バリアフリー社会実現のためのハード・ソフト両面の取組を進めています。

市町村が鉄道駅等に車いす対応エレベーターを設置するバリアフリーへの取組を支援しています。

障害者の働く場の確保から職場定着に至るまでの援助を一貫して行う、障害者就業・生活サポートセンターの運営を支援し、障害者の雇用促進と職業生活の安定を図っています。

宮城県難病相談支援センターを運営し、難病患者やその家族の悩みや不安の解消のため、相談事業や医療講演会の開催などを行っています。

神経難病患者を対象とした、医療相談、緊急時等の入院施設確保、介護する家族の休憩を確保するための介助人派遣などを行っています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が50.3%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の30.6%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が62.3%、『不満』は37.7%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が49.2%に対し、女性は51.7%で、女性の方が2.5ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が47.8%に対し65歳以上の『満足』が59.8%と、65歳以上の方が12.0ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、仙南圏域(53.8%)、登米圏域(53.4%)、気仙沼・本吉圏域(53.2%)であった。

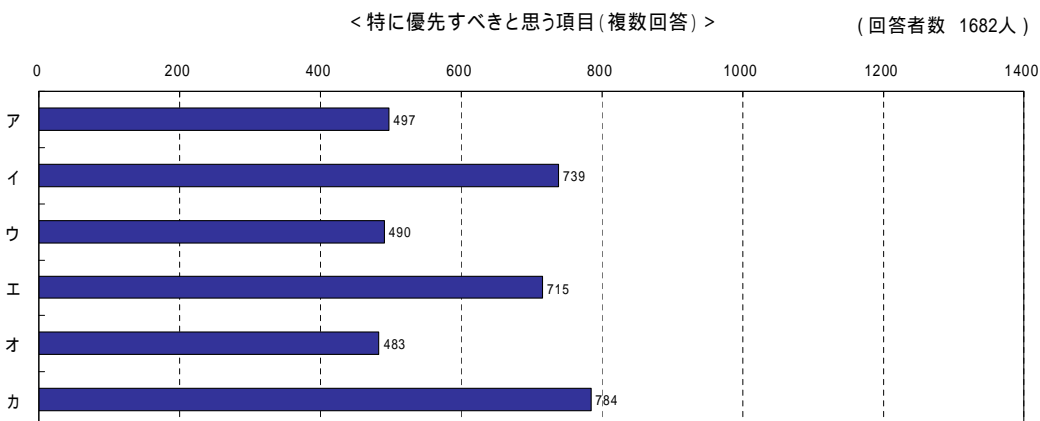
一方、『満足』の割合が低いのは、石巻圏域(42.5%)であった。

		有効					欠損値 合計	合計	
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	217	629	357	156	321	1680	98	1778
	パーセント	12.2	35.4	20.1	8.8	18.1	94.5	5.5	100.0
	有効パーセント	12.9	37.4	21.3	9.3	19.1	100.0		
	有効パーセント 「わからない」を除く有効 パーセント	16.0	46.3	26.3	11.5	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	102	302	191	76	149	820	40	860
	パーセント	11.9	35.1	22.2	8.8	17.3	95.3	4.7	100.0
	有効パーセント	12.4	36.8	23.3	9.3	18.2	100.0		
女性	度数	113	325	165	79	165	847	46	893
	パーセント	12.7	36.4	18.5	8.8	18.5	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	13.3	38.4	19.5	9.3	19.5	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	149	465	287	122	262	1285	51	1336
	パーセント	11.2	34.8	21.5	9.1	19.6	96.2	3.8	100.0
	有効パーセント	11.6	36.2	22.3	9.5	20.4	100.0		
65歳以上	度数	65	161	68	32	52	378	36	414
	パーセント	15.7	38.9	16.4	7.7	12.6	91.3	8.7	100.0
	有効パーセント	17.2	42.6	18.0	8.5	13.8	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	24	96	48	18	37	223	7	230
	パーセント	10.4	41.7	20.9	7.8	16.1	97.0	3.0	100.0
	有効パーセント	10.8	43.0	21.5	8.1	16.6	100.0		
仙台圏域	度数	32	93	57	19	38	239	9	248
	パーセント	12.9	37.5	23.0	7.7	15.3	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	13.4	38.9	23.8	7.9	15.9	100.0		
大崎圏域	度数	28	89	47	25	46	235	6	241
	パーセント	11.6	36.9	19.5	10.4	19.1	97.5	2.5	100.0
	有効パーセント	11.9	37.9	20.0	10.6	19.6	100.0		
栗原圏域	度数	39	85	65	22	41	252	22	274
	パーセント	14.2	31.0	23.7	8.0	15.0	92.0	8.0	100.0
	有効パーセント	15.5	33.7	25.8	8.7	16.3	100.0		
登米圏域	度数	31	94	37	22	50	234	17	251
	パーセント	12.4	37.5	14.7	8.8	19.9	93.2	6.8	100.0
	有効パーセント	13.2	40.2	15.8	9.4	21.4	100.0		
石巻圏域	度数	23	69	47	27	50	216	8	224
	パーセント	10.3	30.8	21.0	12.1	22.3	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	10.6	31.9	21.8	12.5	23.1	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	30	95	50	21	39	235	12	247
	パーセント	12.1	38.5	20.2	8.5	15.8	95.1	4.9	100.0
	有効パーセント	12.8	40.4	21.3	8.9	16.6	100.0		

【優先項目】

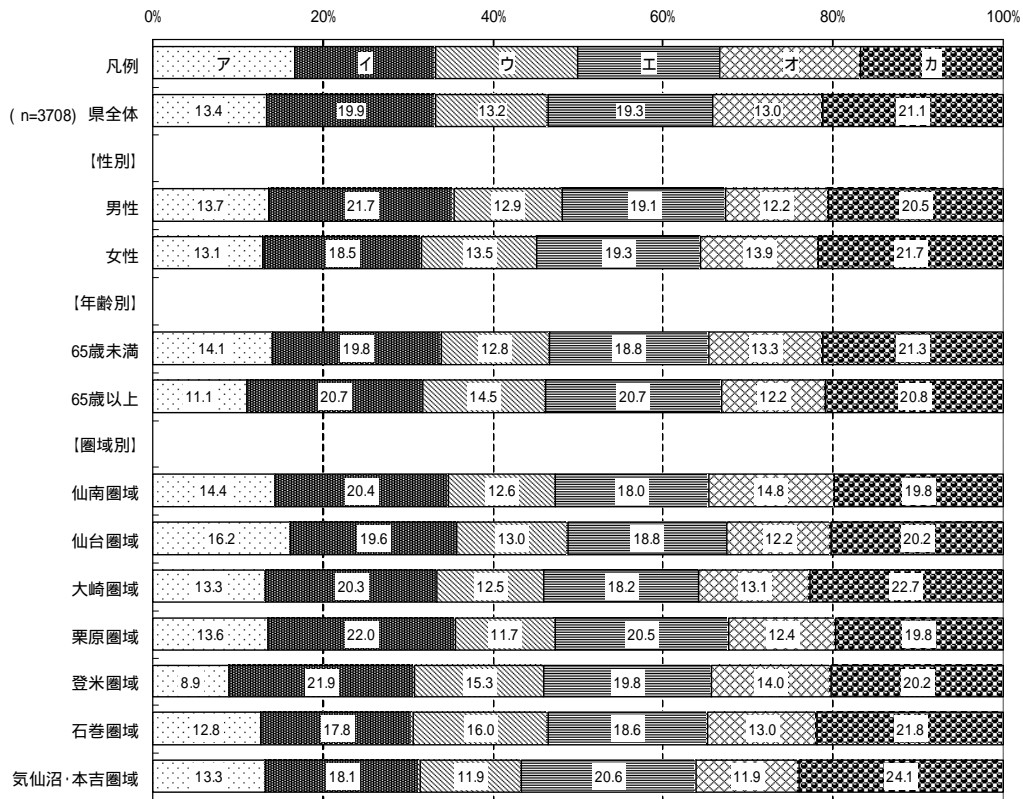
県が取組 2 2 に関し 1 0 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア バリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方の普及や、それに配慮した施設づくり
- イ 働く意欲のある障害者等の就職活動を支える能力開発の場の確保や相談・指導体制の充実
- ウ 障害者の地域生活を支える相談支援体制づくり
- エ 障害の有無や年齢にとられない、利用者の要望に応じた福祉サービスの提供や地域での支え合いへの支援
- オ グループホームなど、身近な地域での住まいや日中活動の場などの生活基盤づくり
- カ 難病患者やその家族への、日常生活についての相談支援体制づくりや地域交流活動の促進など、在宅で安心して療養生活を送れるようにするための環境づくり



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3708度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、カの難病患者やその家族への、日常生活についての相談支援体制づくりや地域交流活動の促進など、在宅で安心して療養生活を送れるようにするための環境づくりで、784度であった。次いで、イの働く意欲のある障害者等の就職活動を支える能力開発の場の確保や相談・指導体制の充実が、739度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、イの働く意欲のある障害者等の就職活動を支える能力開発の場の確保や相談・指導体制の充実が、男性21.7%に対し女性が18.5%と、男性の方が3.2ポイント高かった。

年齢別では、アのバリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方の普及や、それに配慮した施設づくりが、65歳未満が14.1%に対し65歳以上は11.1%で、65歳未満の方が3.0ポイント高かった。

圏域別では、カの在宅で安心して療養生活を送れるようにするための環境づくりで、気仙沼・本吉圏域(24.1%)、大崎圏域(22.7%)が高かった。

また、イの働く意欲のある障害者等の就職活動を支える能力開発の場の確保や相談・指導体制の充実では、栗原圏域(22.0%)、登米圏域(21.9%)が高かった。

取組 2 3 「生涯学習社会の確立とスポーツ・文化芸術の振興」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

県民の多様な学習ニーズに応えるため、学校や社会教育施設等と連携して行う各種開放講座と、生涯学習を推進する人材を育成するための支援者養成講座を行っています。

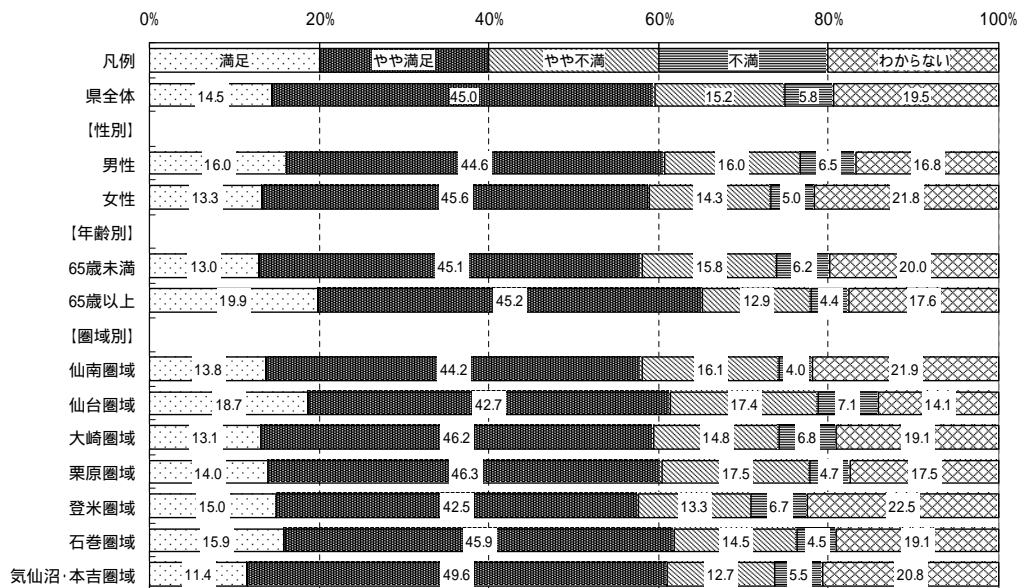
県民が十分な図書館サービスを受けられるよう、市町村図書館職員の研修を行ったり、図書の相互貸借や蔵書検索を可能にする図書館ネットワークシステムを運用しています。

競技団体・高体連・中体連・ジュニア選手の育成強化に努めています。

地域スポーツクラブの創設や育成支援を行っています。

演劇公演、コンサート、展覧会などを開催し、優れた文化芸術を県民に紹介している。体験教室も開いています。

芸術文化の鑑賞機会の少ない地域や児童、生徒への文化・芸術鑑賞の機会を作るとともに、県民の積極的な文化・芸術の活動を支援しています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が59.5%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の21.0%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が73.9%、『不満』は26.1%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が60.6%に対し、女性は58.9%で、男性の方が1.7ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が58.1%に対し65歳以上の『満足』が65.1%と、65歳以上の方が7.0ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、石巻圏域(61.8%)、仙台圏域(61.4%)、気仙沼・本吉圏域(61.0%)であった。

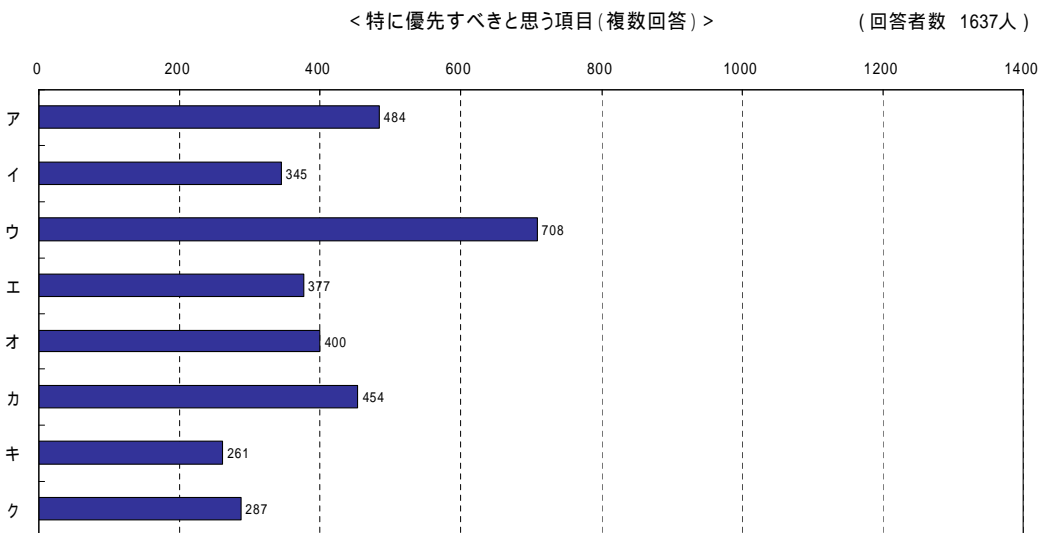
一方、『満足』の割合が低いのは、登米圏域(57.5%)、仙南圏域(58.0%)であった。

		有効					欠損値		合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	合計		
県全体	度数	247	766	259	98	331	1701	77	1778
	パーセント	13.9	43.1	14.6	5.5	18.6	95.7	4.3	100.0
	有効パーセント	14.5	45.0	15.2	5.8	19.5	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	18.0	55.9	18.9	7.2	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	133	370	133	54	139	829	31	860
	パーセント	15.5	43.0	15.5	6.3	16.2	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	16.0	44.6	16.0	6.5	16.8	100.0		
女性	度数	114	392	123	43	187	859	34	893
	パーセント	12.8	43.9	13.8	4.8	20.9	96.2	3.8	100.0
	有効パーセント	13.3	45.6	14.3	5.0	21.8	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	168	585	205	80	259	1297	39	1336
	パーセント	12.6	43.8	15.3	6.0	19.4	97.1	2.9	100.0
	有効パーセント	13.0	45.1	15.8	6.2	20.0	100.0		
65歳以上	度数	77	175	50	17	68	387	27	414
	パーセント	18.6	42.3	12.1	4.1	16.4	93.5	6.5	100.0
	有効パーセント	19.9	45.2	12.9	4.4	17.6	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	31	99	36	9	49	224	6	230
	パーセント	13.5	43.0	15.7	3.9	21.3	97.4	2.6	100.0
	有効パーセント	13.8	44.2	16.1	4.0	21.9	100.0		
仙台圏域	度数	45	103	42	17	34	241	7	248
	パーセント	18.1	41.5	16.9	6.9	13.7	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	18.7	42.7	17.4	7.1	14.1	100.0		
大崎圏域	度数	31	109	35	16	45	236	5	241
	パーセント	12.9	45.2	14.5	6.6	18.7	97.9	2.1	100.0
	有効パーセント	13.1	46.2	14.8	6.8	19.1	100.0		
栗原圏域	度数	36	119	45	12	45	257	17	274
	パーセント	13.1	43.4	16.4	4.4	16.4	93.8	6.2	100.0
	有効パーセント	14.0	46.3	17.5	4.7	17.5	100.0		
登米圏域	度数	36	102	32	16	54	240	11	251
	パーセント	14.3	40.6	12.7	6.4	21.5	95.6	4.4	100.0
	有効パーセント	15.0	42.5	13.3	6.7	22.5	100.0		
石巻圏域	度数	35	101	32	10	42	220	4	224
	パーセント	15.6	45.1	14.3	4.5	18.8	98.2	1.8	100.0
	有効パーセント	15.9	45.9	14.5	4.5	19.1	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	27	117	30	13	49	236	11	247
	パーセント	10.9	47.4	12.1	5.3	19.8	95.5	4.5	100.0
	有効パーセント	11.4	49.6	12.7	5.5	20.8	100.0		

【優先項目】

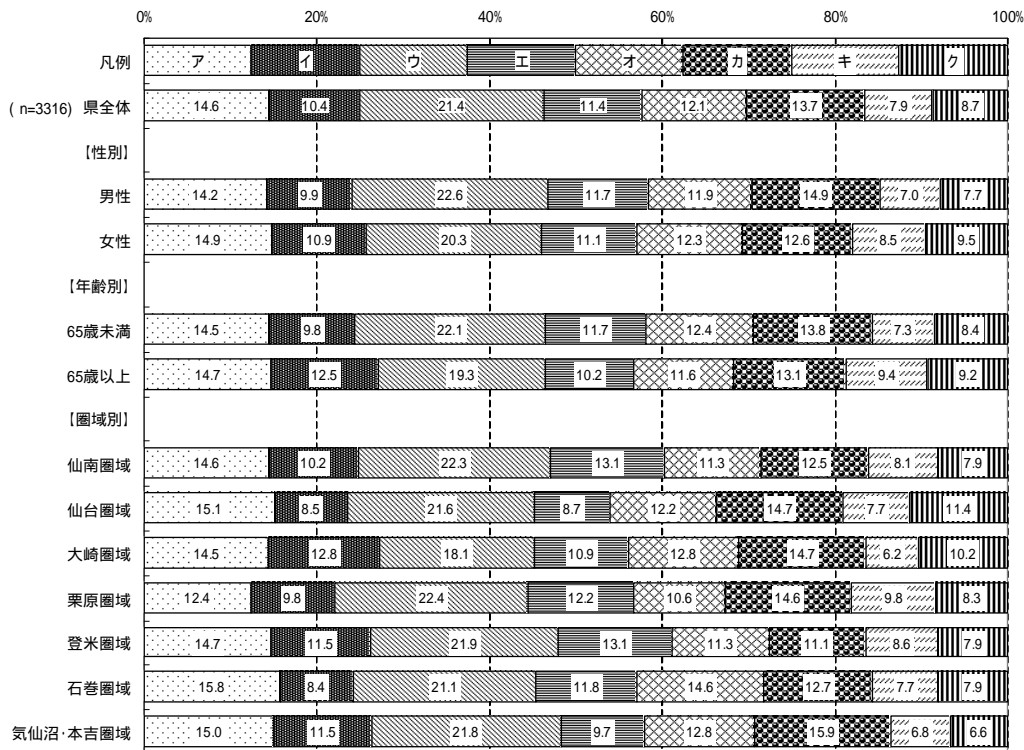
県が取組 2 3 に関し 1 0 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア より充実した生涯学習の環境づくりと、学習機関同士の結びつきなどによる県民の自主的な学習活動の支援
- イ みやぎ県民大学の実施など、社会的に求められている学習機会の確保や、地域のさまざまな生涯学習活動を支援する指導者の育成
- ウ 地域に根ざした自主運営型・複合型スポーツクラブの育成・支援など、生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくり
- エ 競技スポーツでの、生徒から学生、社会人までの一貫指導体制づくりや指導者育成対策、競技力向上のための環境の充実
- オ 県民が文化芸術に触れる機会の充実など、文化芸術活動の振興
- カ 地域文化の継承・振興のための取組支援と文化財の保存・活用
- キ 県民の文化芸術活動を生かした地域づくりや交流の推進
- ク 宮城県図書館・美術館・東北歴史博物館等の拠点の充実と、関係機関との組織づくり



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3 3 1 6 度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、ウの生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくりで、7 0 8 度であった。次いで、アの県民の自主的な学習活動の支援が、4 8 4 度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、ウの生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくりが、男性22.6%に対し女性が20.3%と、男性の方が2.3ポイント高かった。また、カの地域文化の継承・振興のための取組支援と文化財の保存・活用が、男性14.9%に対し女性が12.6%と、男性の方が2.3ポイント高かった。

年齢別では、ウの生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくりが、65歳未満が22.1%に対し65歳以上は19.3%で、65歳未満の方が2.8ポイント高かった。一方、イの社会的に求められている学習機会の確保や、地域のさまざまな生涯学習活動を支援する指導者の育成では、65歳未満が9.8%に対し65歳以上は12.5%で、65歳以上の方が2.7ポイント高かった。

圏域別では、ウの生涯を通じてスポーツに親しめる環境づくりで、栗原圏域(22.4%)、仙南圏域(22.3%)が高かった。

また、アの県民の自主的な学習活動の支援では、石巻圏域(15.8%)、仙台圏域(15.1%)、及び気仙沼・本吉圏域(15.0%)が高かった。

取組 2 4 「コンパクトで機能的なまちづくりと地域生活の充実」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

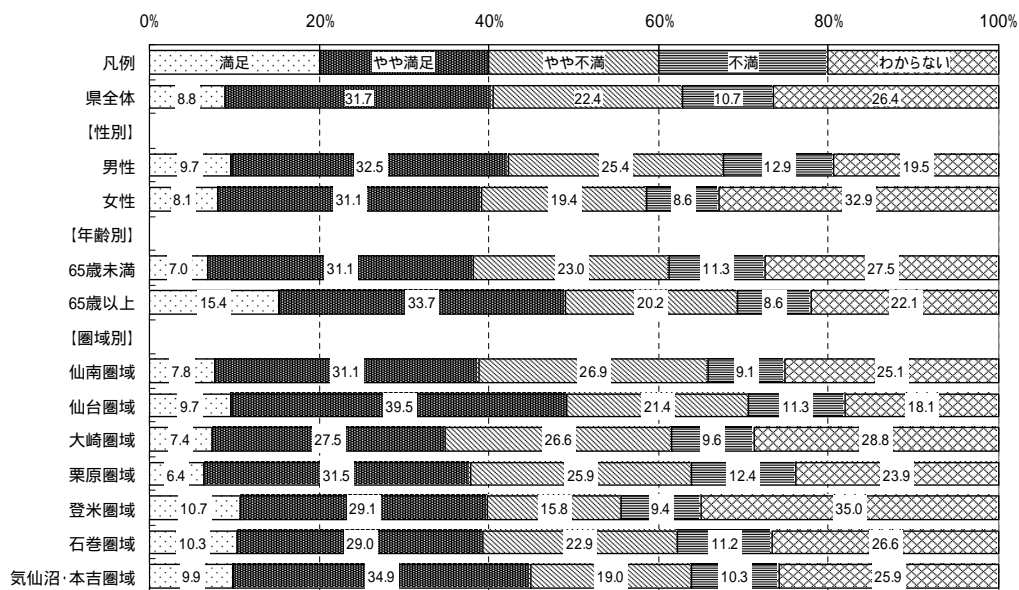
既成の市街地で、土地の合理的な高度利用と都市機能の更新のため、敷地の統合や不燃化された共同建築物への建替えと併せて、道路や公園等の公共施設の整備を行う事業者、市町村と連携して補助金を交付しています。

踏切による交通渋滞や中心市街地の分断を解消するため、多賀城駅付近約 1.8km の区間で JR 仙石線の高架化を進めています。

中心市街地における中小商業の活性化のため、TMO（タウンマネジメント機関）等が行う関係者の合意形成や商店街の活性化を図る事業に対して支援しています。

県民の日常生活を支える公共交通を維持するため、第三セクター鉄道、バス会社や市町村などが運行する地方生活路線バス、離島航路の運営などを支援しています。

県内在住の公共交通利用者をモニターとして委嘱し、公共交通の課題・問題点等を報告してもらい、結果を事業者等に通知することで、公共交通のサービス改善につなげています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が 40.5%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の 33.1%を上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が 55.1%、『不満』は 44.9%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が42.2%に対し、女性は39.2%で、男性の方が3.0ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が38.1%に対し65歳以上の『満足』が49.1%と、65歳以上の方が11.0ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が高いのは、仙台圏域(49.2%)、気仙沼・本吉圏域(44.8%)であった。

一方、『満足』の割合が比較的低いのは、大崎圏域(34.9%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	147	527	372	178	440	1664	114	1778
	パーセント	8.3	29.6	20.9	10.0	24.7	93.6	6.4	100.0
	有効パーセント	8.8	31.7	22.4	10.7	26.4	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	12.0	43.1	30.4	14.5	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	79	264	206	105	158	812	48	860
	パーセント	9.2	30.7	24.0	12.2	18.4	94.4	5.6	100.0
	有効パーセント	9.7	32.5	25.4	12.9	19.5	100.0		
女性	度数	68	261	163	72	276	840	53	893
	パーセント	7.6	29.2	18.3	8.1	30.9	94.1	5.9	100.0
	有効パーセント	8.1	31.1	19.4	8.6	32.9	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	89	398	294	145	352	1278	58	1336
	パーセント	6.7	29.8	22.0	10.9	26.3	95.7	4.3	100.0
	有効パーセント	7.0	31.1	23.0	11.3	27.5	100.0		
65歳以上	度数	57	125	75	32	82	371	43	414
	パーセント	13.8	30.2	18.1	7.7	19.8	89.6	10.4	100.0
	有効パーセント	15.4	33.7	20.2	8.6	22.1	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	17	68	59	20	55	219	11	230
	パーセント	7.4	29.6	25.7	8.7	23.9	95.2	4.8	100.0
	有効パーセント	7.8	31.1	26.9	9.1	25.1	100.0		
仙台圏域	度数	23	94	51	27	43	238	10	248
	パーセント	9.3	37.9	20.6	10.9	17.3	96.0	4.0	100.0
	有効パーセント	9.7	39.5	21.4	11.3	18.1	100.0		
大崎圏域	度数	17	63	61	22	66	229	12	241
	パーセント	7.1	26.1	25.3	9.1	27.4	95.0	5.0	100.0
	有効パーセント	7.4	27.5	26.6	9.6	28.8	100.0		
栗原圏域	度数	16	79	65	31	60	251	23	274
	パーセント	5.8	28.8	23.7	11.3	21.9	91.6	8.4	100.0
	有効パーセント	6.4	31.5	25.9	12.4	23.9	100.0		
登米圏域	度数	25	68	37	22	82	234	17	251
	パーセント	10.0	27.1	14.7	8.8	32.7	93.2	6.8	100.0
	有効パーセント	10.7	29.1	15.8	9.4	35.0	100.0		
石巻圏域	度数	22	62	49	24	57	214	10	224
	パーセント	9.8	27.7	21.9	10.7	25.4	95.5	4.5	100.0
	有効パーセント	10.3	29.0	22.9	11.2	26.6	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	23	81	44	24	60	232	15	247
	パーセント	9.3	32.8	17.8	9.7	24.3	93.9	6.1	100.0
	有効パーセント	9.9	34.9	19.0	10.3	25.9	100.0		

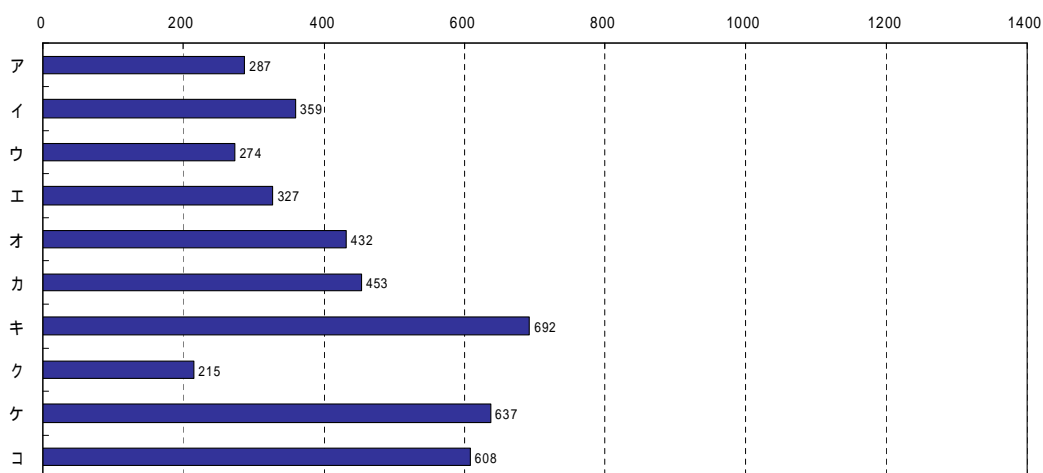
【優先項目】

県が取組 2 4 に関し 1 0 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 施設の配置場所、市街地開発など、都市計画の方針を明らかにする都市計画区域マスタープランに基づく良好な市街地づくり
- イ 都市計画を定めることによる適切な土地利用の誘導や公共公益施設の適切な配置
- ウ 鉄道沿線などの市街地整備や既存市街地の再開発
- エ バリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方の普及や、それに配慮した施設づくり
- オ 地域住民や公共サービスと連携した地域商業の活性化支援
- カ 豊かな自然環境や独自の伝統文化などを生かした集客交流や産業振興
- キ 全国から県内の自治体病院での勤務を希望する医師を募集・配置するなど、地域医療を充実させるための医師確保
- ク それぞれの地域での教育に関連した取組への支援や生涯学習の促進
- ケ 地域の日常生活を支えるバス路線など、公共交通の維持支援
- コ 住む場所の違いにより、手に入る情報に差が生じないような情報通信の基盤づくり

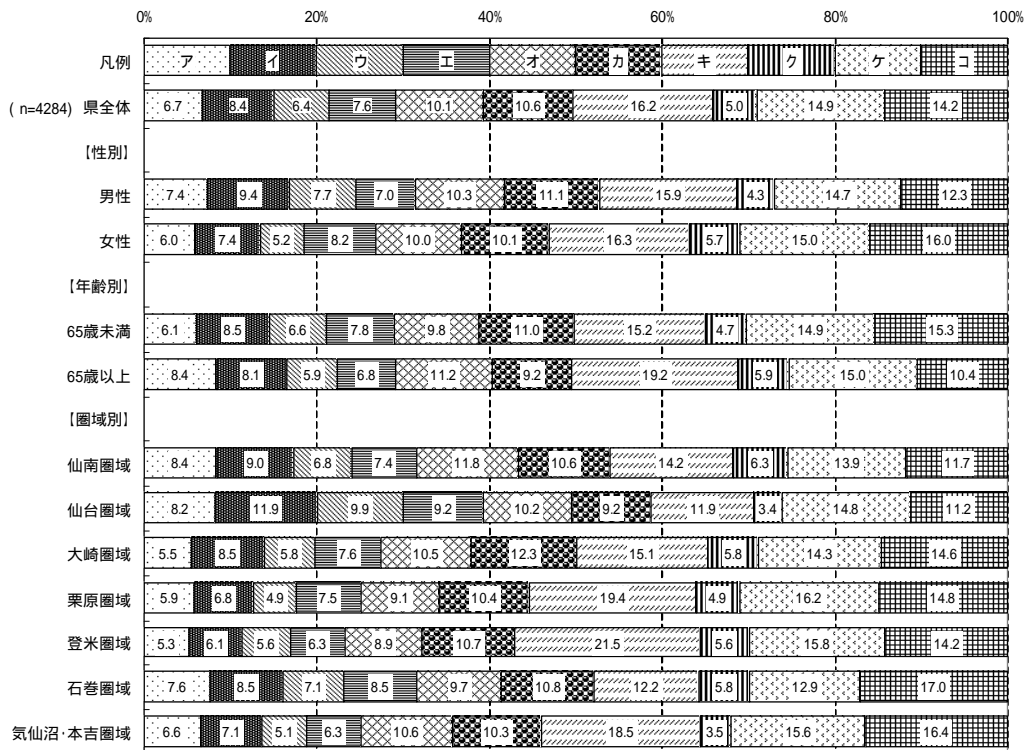
< 特に優先すべきと思う項目 (複数回答) >

(回答者数 1672人)



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、4 2 8 4 度であった (複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**キ**の地域医療を充実させるための医師確保で 6 9 2 度であった。次に、**ケ**の地域の日常生活を支えるバス路線など、公共交通の維持支援が 6 3 7 度、**コ**の住む場所の違いにより、手に入る情報に差が生じないような情報通信の基盤づくりが、6 0 8 度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、ウの鉄道沿線などの市街地整備や既存市街地の再開発が、男性7.7%に対し女性が5.2%と、男性の方が2.5ポイント高かった。一方、コの住む場所の違いにより、手に入る情報に差が生じないような情報通信の基盤づくりが、男性12.3%に対し女性が16.0%と、女性の方が3.7ポイント高かった。

年齢別では、キの地域医療を充実させるための医師確保が、65歳未満が15.2%に対し65歳以上は19.2%で、65歳以上の方が4.0ポイント高かった。一方、コの住む場所の違いにより、手に入る情報に差が生じないような情報通信の基盤づくりでは、65歳未満が15.3%に対し65歳以上は10.4%で、65歳未満の方が4.9ポイント高かった。

圏域別では、キの地域医療を充実させるための医師確保で、登米圏域(21.5%)、栗原圏域(19.4%)及び気仙沼・本吉圏域(18.5%)が高かった。

また、ケの地域の日常生活を支えるバス路線など、公共交通の維持支援では、栗原圏域(16.2%)、登米圏域(15.8%)及び気仙沼・本吉圏域(15.6%)が高かった。

取組 2 5 「安全で安心なまちづくり」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

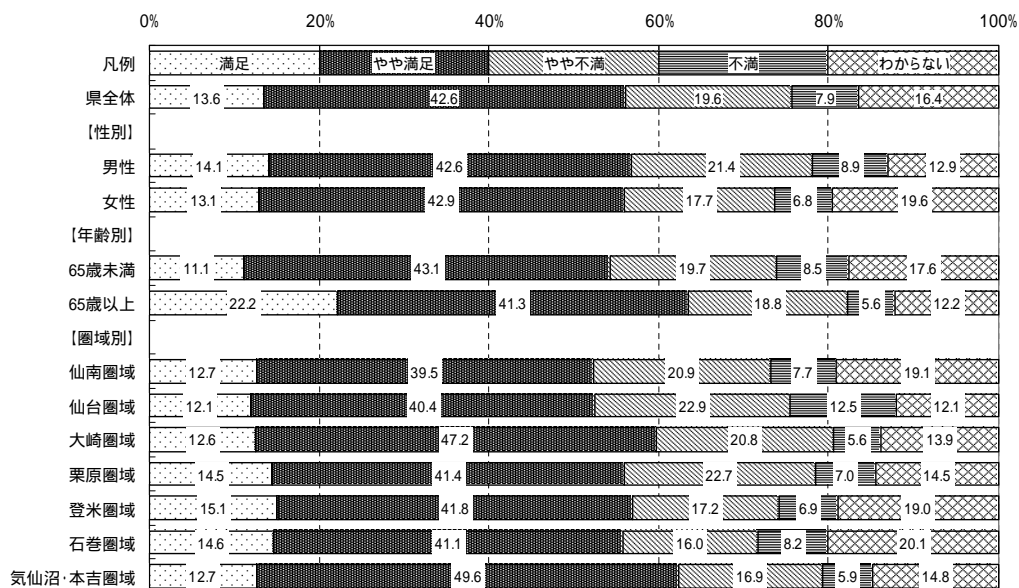
安全・安心なまちづくりを県民運動として推進するための基本計画を策定しました。また、安全・安心まちづくりの広報・啓発のため、講演会、シンポジウム、パネル展等を開催しています。

増え続ける県民からのさまざまな相談等に的確に対応し、身近な不安を解消するとともに、地域の安全を守るため、警察官の街頭での活動時間を確保できる対策を行っています。

配偶者や恋人など近親者から受ける暴力である、ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害者の自立に必要な経費への支援を行っています。また、DV防止を県民に広く周知することによって、暴力の防止に努めています。

交通事故を減らすため、関係機関・団体と連携し、飲酒運転根絶など、県民総参加の交通安全活動(マナーアップみやぎ運動)を行っています。

消費者被害を未然に防止するため、消費生活講座や消費生活展を開催したり、ホームページやリーフレットなどにより、消費生活に関する情報提供、啓発を行っています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が56.2%で、「やや不満」「不

満」を合わせた『不満』の27.5%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が67.2%、『不満』は32.8%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が56.7%に対し、女性は56.0%で、ほぼ同じ割合であった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が54.2%に対し65歳以上の『満足』が63.5%と、65歳以上の方が9.3ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が高いのは、気仙沼・本吉圏域(62.3%)、大崎圏域(59.8%)であった。

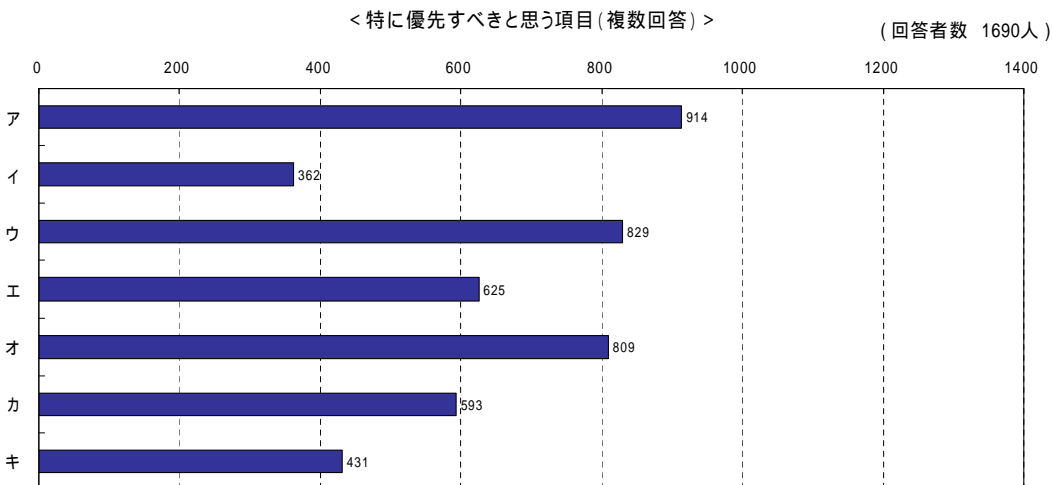
一方、『満足』の割合が比較的低いのは、仙南圏域(52.2%)、仙台圏域(52.5%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	228	716	329	132	276	1681	97	1778
	パーセント	12.8	40.3	18.5	7.4	15.5	94.5	5.5	100.0
	有効パーセント	13.6	42.6	19.6	7.9	16.4	100.0		
	有効パーセント (「わからない」を除く有効パーセント)	16.2	51.0	23.4	9.4	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	117	352	177	74	107	827	33	860
	パーセント	13.6	40.9	20.6	8.6	12.4	96.2	3.8	100.0
	有効パーセント	14.1	42.6	21.4	8.9	12.9	100.0		
女性	度数	110	361	149	57	165	842	51	893
	パーセント	12.3	40.4	16.7	6.4	18.5	94.3	5.7	100.0
	有効パーセント	13.1	42.9	17.7	6.8	19.6	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	143	555	253	110	226	1287	49	1336
	パーセント	10.7	41.5	18.9	8.2	16.9	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	11.1	43.1	19.7	8.5	17.6	100.0		
65歳以上	度数	84	156	71	21	46	378	36	414
	パーセント	20.3	37.7	17.1	5.1	11.1	91.3	8.7	100.0
	有効パーセント	22.2	41.3	18.8	5.6	12.2	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	28	87	46	17	42	220	10	230
	パーセント	12.2	37.8	20.0	7.4	18.3	95.7	4.3	100.0
	有効パーセント	12.7	39.5	20.9	7.7	19.1	100.0		
仙台圏域	度数	29	97	55	30	29	240	8	248
	パーセント	11.7	39.1	22.2	12.1	11.7	96.8	3.2	100.0
	有効パーセント	12.1	40.4	22.9	12.5	12.1	100.0		
大崎圏域	度数	29	109	48	13	32	231	10	241
	パーセント	12.0	45.2	19.9	5.4	13.3	95.9	4.1	100.0
	有効パーセント	12.6	47.2	20.8	5.6	13.9	100.0		
栗原圏域	度数	37	106	58	18	37	256	18	274
	パーセント	13.5	38.7	21.2	6.6	13.5	93.4	6.6	100.0
	有効パーセント	14.5	41.4	22.7	7.0	14.5	100.0		
登米圏域	度数	35	97	40	16	44	232	19	251
	パーセント	13.9	38.6	15.9	6.4	17.5	92.4	7.6	100.0
	有効パーセント	15.1	41.8	17.2	6.9	19.0	100.0		
石巻圏域	度数	32	90	35	18	44	219	5	224
	パーセント	14.3	40.2	15.6	8.0	19.6	97.8	2.2	100.0
	有効パーセント	14.6	41.1	16.0	8.2	20.1	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	30	117	40	14	35	236	11	247
	パーセント	12.1	47.4	16.2	5.7	14.2	95.5	4.5	100.0
	有効パーセント	12.7	49.6	16.9	5.9	14.8	100.0		

【優先項目】

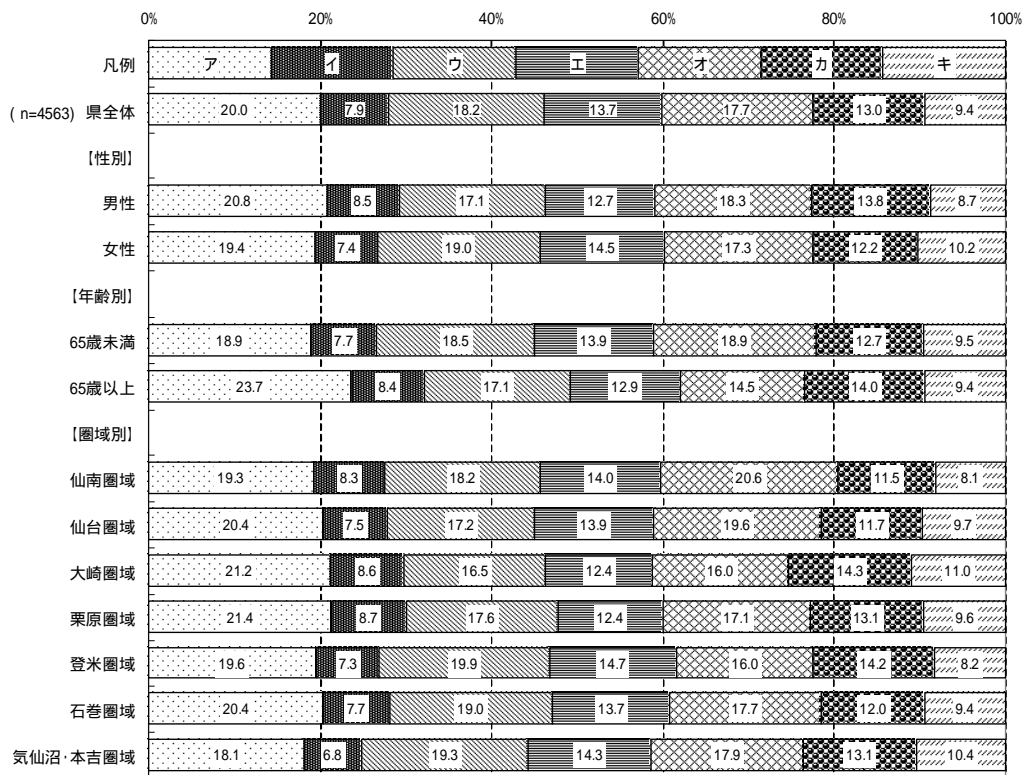
県が取組 25 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 「犯罪のない安全・安心まちづくり」のために行政、地域、事業者等が連携して行う県民運動
- イ 住民による自主的な防犯活動を活発にするための啓発活動
- ウ 学校、通学路等の安全対策を進めるなど、子どもを犯罪から守るための環境づくりと安全教育の充実
- エ 子どもや女性、高齢者、障害者、外国人など、防犯の面で特に配慮が必要な人々に対する安全対策の充実
- オ 犯罪の起こしにくい、発生しにくい安全な道路、公園、駐車場などの普及
- カ 飲酒運転撲滅に向けた県民運動など、官民が連携して行う交通事故防止対策
- キ 消費者被害を未然に防ぐための情報提供や啓発活動の充実など、消費生活の安全性の確保



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、4563度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**ア**の「犯罪のない安全・安心まちづくり」のために行政、地域、事業者等が連携して行う県民運動で914度であった。次に、**ウ**の子どもを犯罪から守るための環境づくりと安全教育の充実が829度、**オ**の犯罪の起こしにくい、発生しにくい安全な道路、公園、駐車場などの普及が、809度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、ウの子どもを犯罪から守るための環境づくりと安全教育の充実が、男性17.1%に対し女性が19.0%と、女性の方が1.9ポイント高かった。また、エの防犯の面で特に配慮が必要な人々に対する安全対策の充実が、男性12.7%に対し女性が14.5%と、女性の方が1.8ポイント高かった。

年齢別では、アの「犯罪のない安全・安心まちづくり」のために行政、地域、事業者等が連携して行う県民運動が、65歳未満が18.9%に対し65歳以上は23.7%で、65歳以上の方が4.8ポイント高かった。一方、オの犯罪の起こしにくい、発生しにくい安全な道路、公園、駐車場などの普及では、65歳未満が18.9%に対し65歳以上は14.5%で、65歳未満の方が4.4ポイント高かった。

圏域別では、アの「犯罪のない安全・安心まちづくり」のために行政、地域、事業者等が連携して行う県民運動で、栗原圏域(21.4%)、大崎圏域(21.2%)が高かった。

また、ウの子どもを犯罪から守るための環境づくりと安全教育の充実では、登米圏域(19.9%)、気仙沼・本吉圏域(19.3%)が高かった。

取組 2 6 「外国人も活躍できる地域づくり」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

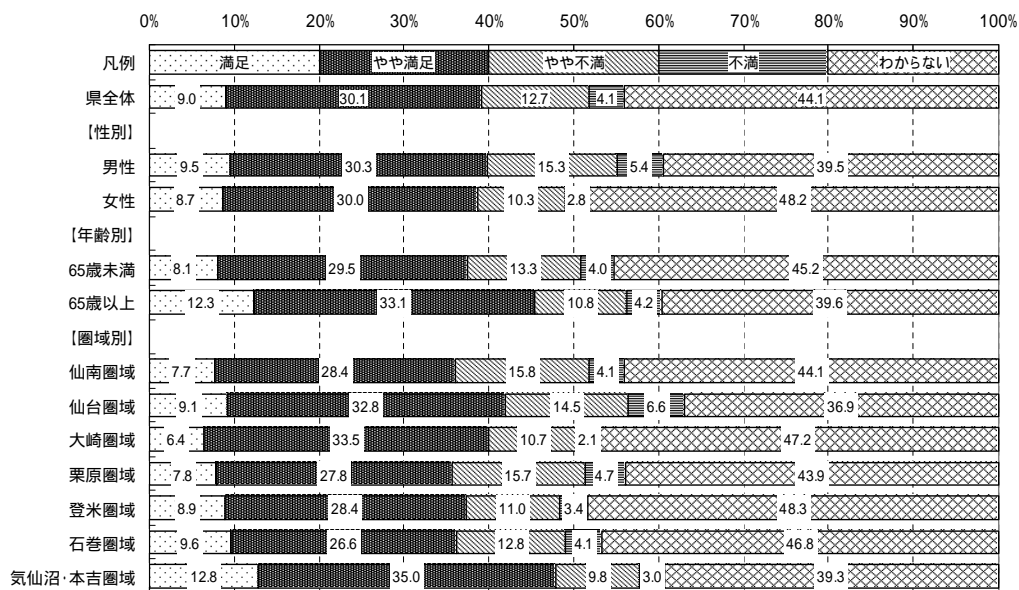
保健・医療・福祉、教育、労働環境など県内で暮らす外国人の生活を支援し、地域社会への参画を促すため、さまざまな取組の基準となる条例の制定に取り組みました。

県内で暮らす外国人の困り事に対し、英・中・韓・ポルトガル語で適切なアドバイスを行う相談センターを設けました。また、外国人相談員と行政書士等のチームによる巡回相談を県内7ヶ所で行いました。

言葉の壁などで災害弱者となる外国人を支援するため、通訳ボランティアを募集、15言語83人の体制とし、研修会などを行いました。

災害情報や気象警報などを、自動的に多言語に翻訳してメールを送ったり、ホームページで伝えたりするシステムの開発に取り組みました。

県民の国際理解や国際認識の喚起・増進を図るため、姉妹省州県（吉林省・デラウェア州・ローマ県）とさまざまな交流事業を行っています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が39.1%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の16.8%を上回った。

なお、「わからない」が44.1%あり、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が69.9%、『不満』は30.1%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が39.8%に対し、女性は38.7%で、男性の方が1.1ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が37.6%に対し65歳以上の『満足』が45.4%と、65歳以上の方が7.8ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が高いのは、気仙沼・本吉圏域(47.8%)、仙台圏域(41.9%)であった。

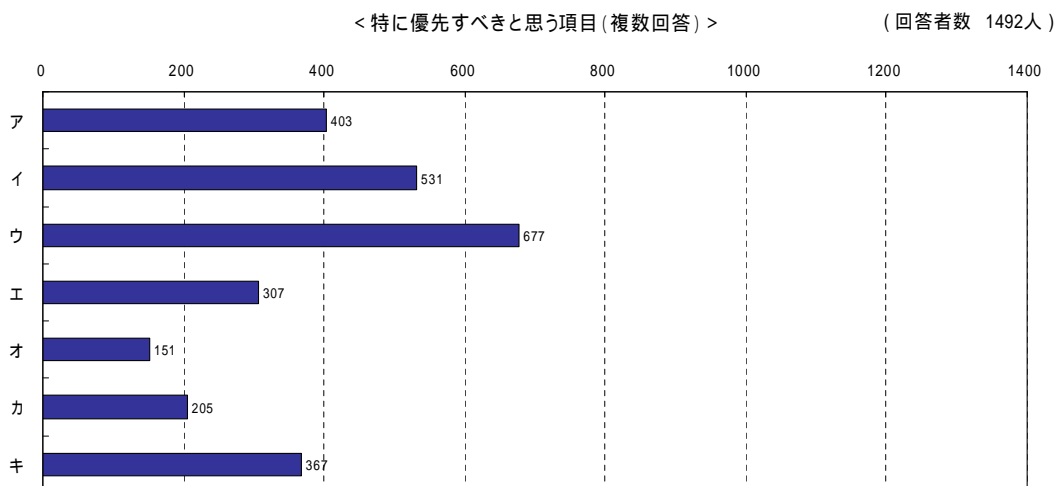
一方、『満足』の割合が比較的低いのは、石巻圏域(36.2%)、栗原圏域(35.6%)であった。

		有効					欠損値		合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	合計		
県全体	度数	152	507	215	69	744	1687	91	1778
	パーセント	8.5	28.5	12.1	3.9	41.8	94.9	5.1	100.0
	有効パーセント	9.0	30.1	12.7	4.1	44.1	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	16.1	53.8	22.8	7.3	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	78	249	126	44	324	821	39	860
	パーセント	9.1	29.0	14.7	5.1	37.7	95.5	4.5	100.0
	有効パーセント	9.5	30.3	15.3	5.4	39.5	100.0		
女性	度数	74	256	88	24	411	853	40	893
	パーセント	8.3	28.7	9.9	2.7	46.0	95.5	4.5	100.0
	有効パーセント	8.7	30.0	10.3	2.8	48.2	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	104	380	171	52	582	1289	47	1336
	パーセント	7.8	28.4	12.8	3.9	43.6	96.5	3.5	100.0
	有効パーセント	8.1	29.5	13.3	4.0	45.2	100.0		
65歳以上	度数	47	126	41	16	151	381	33	414
	パーセント	11.4	30.4	9.9	3.9	36.5	92.0	8.0	100.0
	有効パーセント	12.3	33.1	10.8	4.2	39.6	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	17	63	35	9	98	222	8	230
	パーセント	7.4	27.4	15.2	3.9	42.6	96.5	3.5	100.0
	有効パーセント	7.7	28.4	15.8	4.1	44.1	100.0		
仙台圏域	度数	22	79	35	16	89	241	7	248
	パーセント	8.9	31.9	14.1	6.5	35.9	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	9.1	32.8	14.5	6.6	36.9	100.0		
大崎圏域	度数	15	78	25	5	110	233	8	241
	パーセント	6.2	32.4	10.4	2.1	45.6	96.7	3.3	100.0
	有効パーセント	6.4	33.5	10.7	2.1	47.2	100.0		
栗原圏域	度数	20	71	40	12	112	255	19	274
	パーセント	7.3	25.9	14.6	4.4	40.9	93.1	6.9	100.0
	有効パーセント	7.8	27.8	15.7	4.7	43.9	100.0		
登米圏域	度数	21	67	26	8	114	236	15	251
	パーセント	8.4	26.7	10.4	3.2	45.4	94.0	6.0	100.0
	有効パーセント	8.9	28.4	11.0	3.4	48.3	100.0		
石巻圏域	度数	21	58	28	9	102	218	6	224
	パーセント	9.4	25.9	12.5	4.0	45.5	97.3	2.7	100.0
	有効パーセント	9.6	26.6	12.8	4.1	46.8	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	30	82	23	7	92	234	13	247
	パーセント	12.1	33.2	9.3	2.8	37.2	94.7	5.3	100.0
	有効パーセント	12.8	35.0	9.8	3.0	39.3	100.0		

【優先項目】

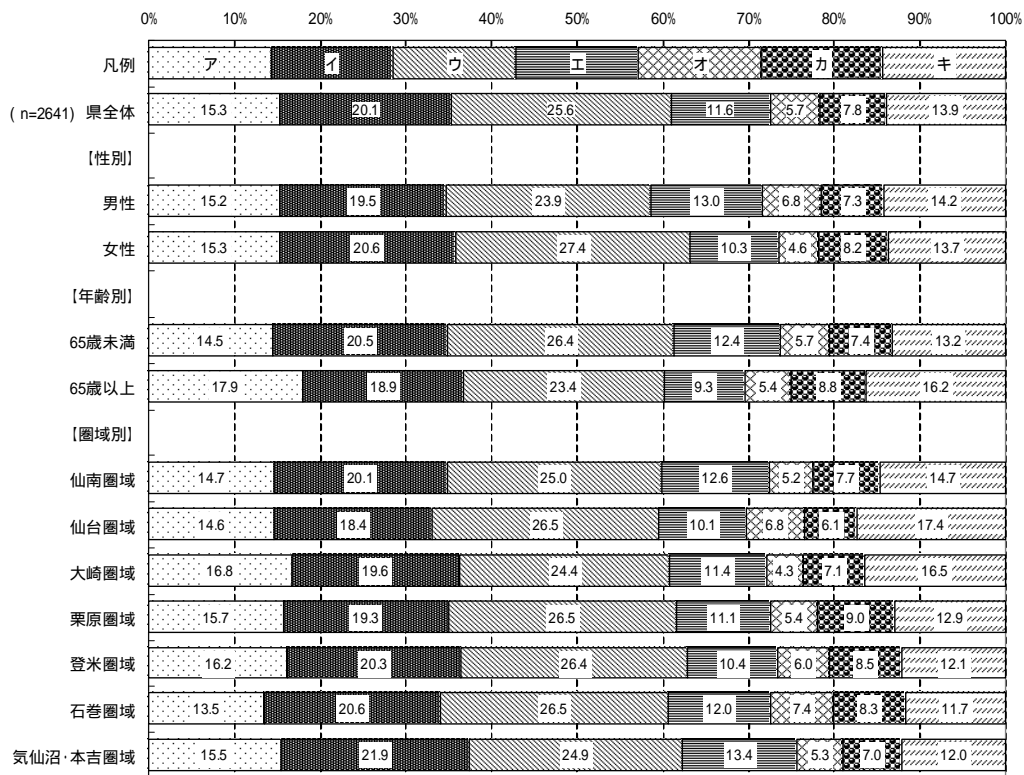
県が取組 26 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 多文化共生を進めるための条例・推進プランづくりや、国際交流協会など関係団体と連携した推進体制づくり
- イ 情報を多言語で発信したり日本語学習を支援するなど、外国人が地域の中でコミュニケーションを取りやすくするための支援
- ウ 保健・医療・福祉、防災、労働環境、教育、居住など、外国人の基本的な生活面への支援
- エ 地域社会への意識啓発や外国人の社会参画など、多文化共生の地域づくりの支援
- オ イタリア・ローマ県など友好地域との交流など、県民・民間団体が主体となった国際交流の促進・支援
- カ 県内で J E T プログラムや海外技術研修などを経験し、母国へ戻った外国人を通じた、国際化を進めるためのネットワークづくり
- キ 県内大学への留学生をはじめとする、高度な専門知識や技術力を持つ外国人の卒業後の県内企業や研究機関への就業促進



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、2641度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、ウの外国人の基本的な生活面への支援で677度であった。次に、イの外国人が地域の中でコミュニケーションを取りやすくするための支援が、531度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、ウの外国人の基本的な生活面への支援が、男性23.9%に対し女性が27.4%と、女性の方が3.5ポイント高かった。一方、エの多文化共生の地域づくりの支援では、男性13.0%に対し女性が10.3%と、男性の方が2.7ポイント高かった。

年齢別では、ウの外国人の基本的な生活面への支援が、65歳未満が26.4%に対し65歳以上は23.4%で、65歳未満の方が3.0ポイント高かった。一方、アの多文化共生を進めるための条例・推進プランづくりや、国際交流協会など関係団体と連携した推進体制づくりでは、65歳未満が14.5%に対し65歳以上は17.9%で、65歳以上の方が3.4ポイント高かった。

圏域別では、ウの外国人の基本的な生活面への支援では、仙台圏域(26.5%)、栗原圏域(26.5%)、石巻圏域(26.5%)及び登米圏域(26.4%)が高かった。

また、イの外国人が地域の中でコミュニケーションを取りやすくするための支援では、気仙沼・本吉圏域(21.9%)が高かった。

取組 2 7 「環境に配慮した社会経済システムの構築と地球環境保全への貢献」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

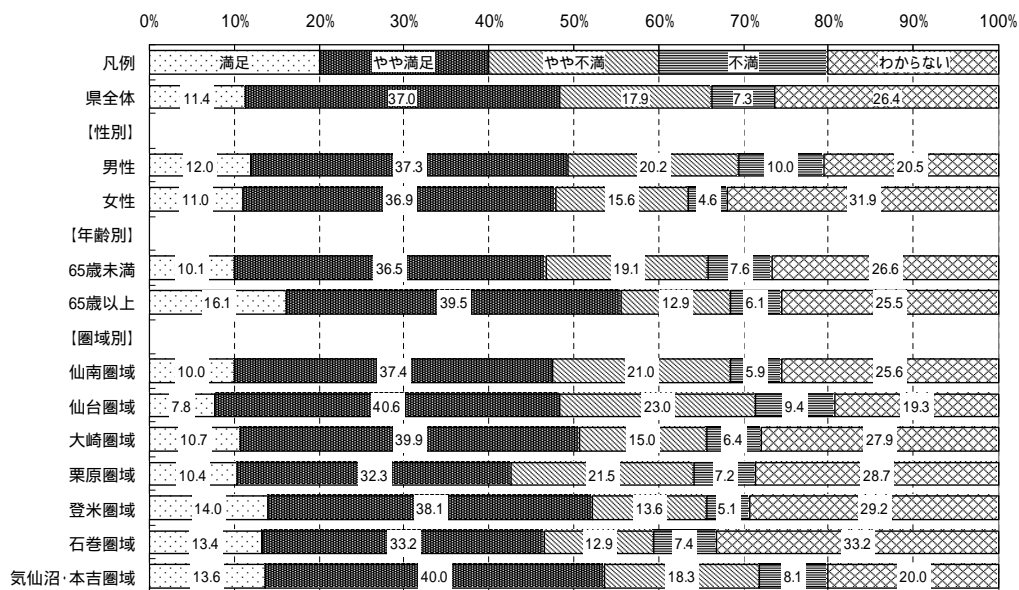
多くの事業所が集中する「温泉街」「商店街」「流通工業団地」を対象に、温室効果ガスの削減に向けたモデル事業を進めています。

グリーン購入（環境配慮型製品の購入や環境への配慮に勤めている事業者の選択）を普及するため、グリーン購入シンポジウム・セミナーの開催や、グリーン購入の優れた取組に対する表彰を行っています。

車社会の進展に伴う大気汚染やCO₂（二酸化炭素）排出量の増加を防ぐため、エコドライブ（環境に配慮した運転）の実践をラジオ放送や街頭大型ビジョンを媒体として県民に広く呼びかけています。

太陽光発電などを県の施設に積極的に導入するほか、県民・企業の先進的取組に対する表彰制度や住宅展示場等での県民への情報提供活動を行っています。

地域に存在するさまざまな再生可能エネルギーを地域で有効活用する地産地消のエネルギー利用モデルを、東北大学等と連携して創出する取組を進めています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が48.4%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の25.2%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が65.8%、『不満』は34.2%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が49.3%に対し、女性は47.9%で、男性の方が1.4ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が46.6%に対し65歳以上の『満足』が55.6%と、65歳以上の方が9.0ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、気仙沼・本吉圏域(53.6%)、登米圏域(52.1%)であった。

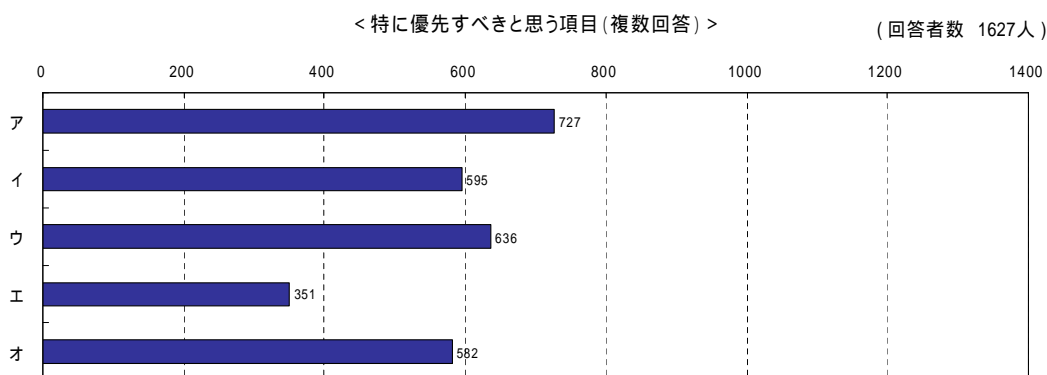
一方、『満足』の割合が低いのは、栗原圏域(42.7%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	192	622	301	123	443	1681	97	1778
	パーセント	10.8	35.0	16.9	6.9	24.9	94.5	5.5	100.0
	有効パーセント	11.4	37.0	17.9	7.3	26.4	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	15.5	50.2	24.3	9.9	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	98	305	165	82	168	818	42	860
	パーセント	11.4	35.5	19.2	9.5	19.5	95.1	4.9	100.0
	有効パーセント	12.0	37.3	20.2	10.0	20.5	100.0		
女性	度数	94	314	133	39	272	852	41	893
	パーセント	10.5	35.2	14.9	4.4	30.5	95.4	4.6	100.0
	有効パーセント	11.0	36.9	15.6	4.6	31.9	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	130	470	246	98	342	1286	50	1336
	パーセント	9.7	35.2	18.4	7.3	25.6	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	10.1	36.5	19.1	7.6	26.6	100.0		
65歳以上	度数	61	150	49	23	97	380	34	414
	パーセント	14.7	36.2	11.8	5.6	23.4	91.8	8.2	100.0
	有効パーセント	16.1	39.5	12.9	6.1	25.5	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	22	82	46	13	56	219	11	230
	パーセント	9.6	35.7	20.0	5.7	24.3	95.2	4.8	100.0
	有効パーセント	10.0	37.4	21.0	5.9	25.6	100.0		
仙台圏域	度数	19	99	56	23	47	244	4	248
	パーセント	7.7	39.9	22.6	9.3	19.0	98.4	1.6	100.0
	有効パーセント	7.8	40.6	23.0	9.4	19.3	100.0		
大崎圏域	度数	25	93	35	15	65	233	8	241
	パーセント	10.4	38.6	14.5	6.2	27.0	96.7	3.3	100.0
	有効パーセント	10.7	39.9	15.0	6.4	27.9	100.0		
栗原圏域	度数	26	81	54	18	72	251	23	274
	パーセント	9.5	29.6	19.7	6.6	26.3	91.6	8.4	100.0
	有効パーセント	10.4	32.3	21.5	7.2	28.7	100.0		
登米圏域	度数	33	90	32	12	69	236	15	251
	パーセント	13.1	35.9	12.7	4.8	27.5	94.0	6.0	100.0
	有効パーセント	14.0	38.1	13.6	5.1	29.2	100.0		
石巻圏域	度数	29	72	28	16	72	217	7	224
	パーセント	12.9	32.1	12.5	7.1	32.1	96.9	3.1	100.0
	有効パーセント	13.4	33.2	12.9	7.4	33.2	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	32	94	43	19	47	235	12	247
	パーセント	13.0	38.1	17.4	7.7	19.0	95.1	4.9	100.0
	有効パーセント	13.6	40.0	18.3	8.1	20.0	100.0		

【優先項目】

県が取組 27 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

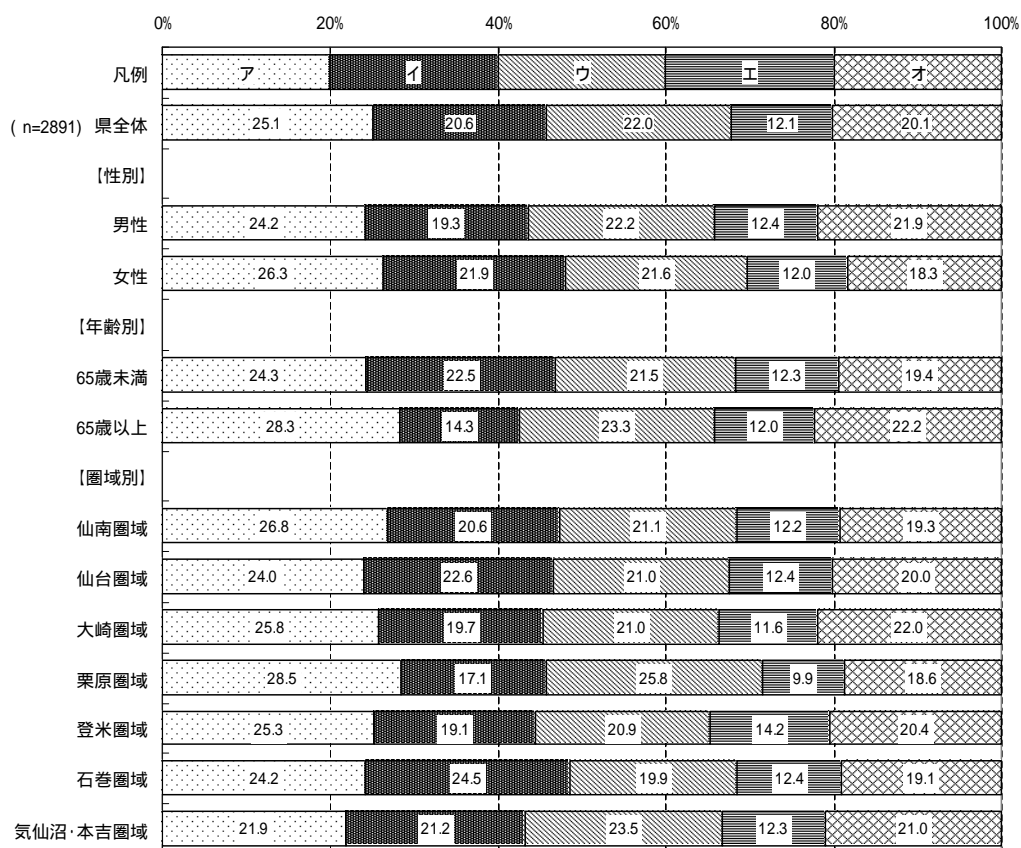
- ア 環境に関する情報の発信と、家庭、学校、地域社会や職場などで環境について学ぶ機会の充実
- イ グリーン購入やエコドライブなど、社会で活動するものすべてが、日常的に、当たり前前に環境に配慮して行動できるようにするための普及啓発
- ウ バイオマスエネルギーなど我が県の地域特性を生かした自然エネルギーの地産地消費、県民や事業者が一体となった省エネルギー活動などの地球温暖化対策
- エ 県が事業を行う場合の物品購入や入札で、環境に配慮した活動を行う企業や製品を優遇するなどの率先行動
- オ 環境新技術の開発支援や、自然環境の保全や水源かん養など農林産業の多面的機能に注目した取組支援など、環境に配慮した産業活動の支援



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、2891度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**ア**の環境に関する情報の発信と、家庭、学校、地域社会や職場などで環境について学ぶ機会の充実で、727度であった。

次いで、**ウ**の我が県の地域特性を生かした自然エネルギーの地産地消費、県民や事業者が一体となった省エネルギー活動などの地球温暖化対策が、636度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**ア**の環境に関する情報の発信と、家庭、学校、地域社会や職場などで環境について学ぶ機会の充実が、男性24.3%に対し女性が26.3%と、女性の方が2.0ポイント高かった。一方、**オ**の環境に配慮した産業活動の支援では、男性21.9%に対し女性が18.3%と、男性の方が3.6ポイント高かった。

年齢別では、**ア**の環境に関する情報の発信と、家庭、学校、地域社会や職場などで環境について学ぶ機会の充実が、65歳未満が24.3%に対し65歳以上は28.3%で、65歳以上の方が4.0ポイント高かった。一方、**イ**のグリーン購入やエコドライブなど、社会で活動するものすべてが、日常的に、当たり前環境に配慮して行動できるようにするための普及啓発では、65歳未満が22.5%に対し65歳以上は14.3%で、65歳未満の方が8.2ポイント高かった。

圏域別では、**ア**の環境に関する情報の発信と、家庭、学校、地域社会や職場などで環境について学ぶ機会の充実で、栗原圏域(28.5%)、仙南圏域(26.8%)が高かった。

取組 2 8 「廃棄物等の 3R（発生抑制・再使用・再生利用）と適正処理の推進」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

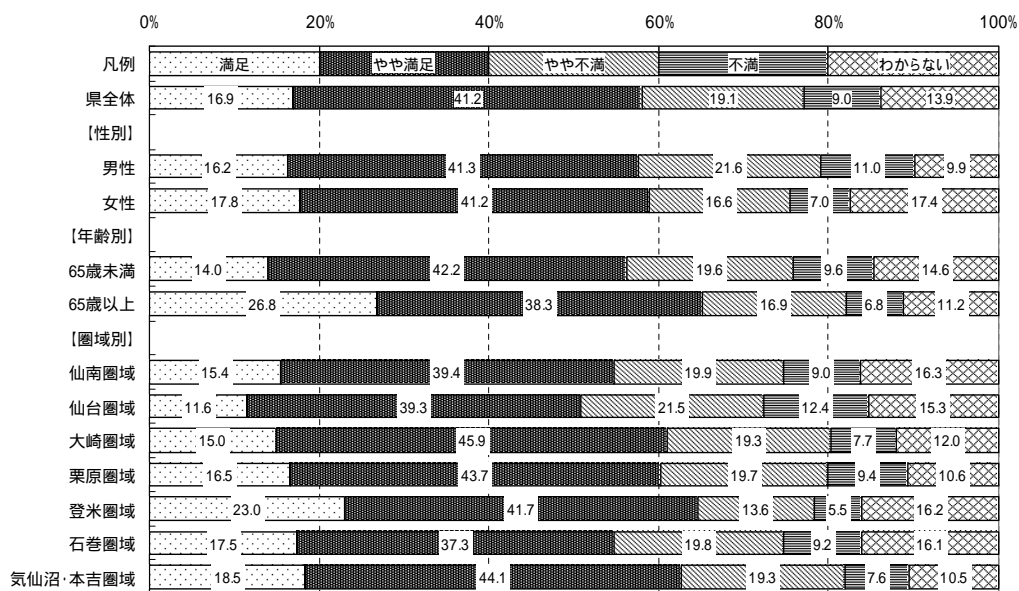
次代を担う子どもたちに、ゴミの現状やリサイクルの大切さを理解してもらうため、「リサイクル夢シアター」(演劇)の公演を県内の小学校で行っています。

環境産業コーディネーターを企業に派遣し、廃棄物処理をはじめとする環境関連の取組に関する情報の収集・提供、助言等を行っています。

ビニールハウスや肥料袋など農業で使用されたプラスチック類を回収・再生処理するため、県内各地域の協議会など通じて、ポスターや啓発資料の配布などを行っています。

環境・リサイクル関連企業の立地を促すため、みやぎエコファクトリー（環境・リサイクル産業が立地するモデル団地）に立地する企業に対して奨励金を交付しています。

産廃処理施設・業者に対する監視指導や産廃Gメンによるパトロールを強化しており、悪質な者には許可取消等、厳しく対処しています。また、産廃処理ルールの周知徹底など不適正処理の未然防止にも努めています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が58.1%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の28.1%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が67.4%、『不満』は32.6%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が57.5%に対し、女性は59.0%で、女性の方が1.5ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が56.2%に対し65歳以上の『満足』が65.1%と、65歳以上の方が8.9ポイント高かった。

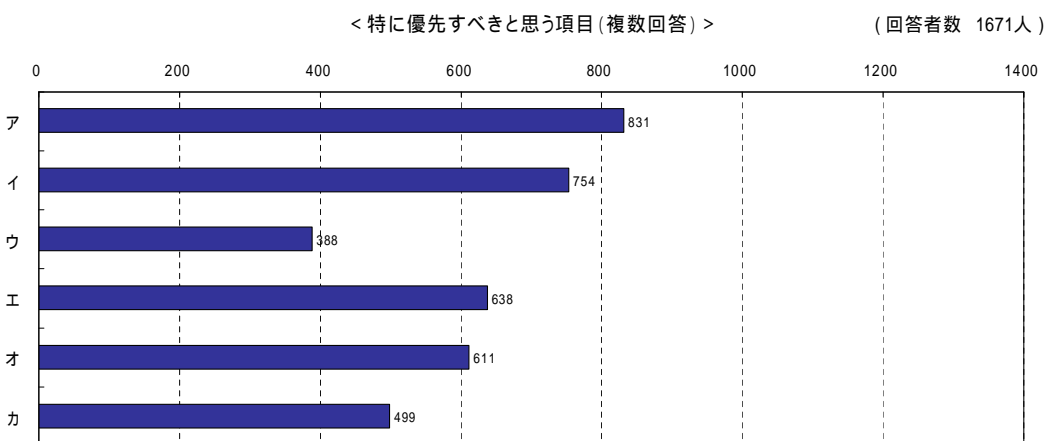
圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、登米圏域(64.7%)、気仙沼・本吉圏域(62.6%)であった。一方、『満足』の割合が低いのは、仙台圏域(50.9%)であった。

		有効					欠損値		合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	合計		
県全体	度数	285	695	322	151	234	1687	91	1778
	パーセント	16.0	39.1	18.1	8.5	13.2	94.9	5.1	100.0
	有効パーセント	16.9	41.2	19.1	9.0	13.9	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	19.6	47.8	22.2	10.4	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	133	339	177	90	81	820	40	860
	パーセント	15.5	39.4	20.6	10.5	9.4	95.3	4.7	100.0
	有効パーセント	16.2	41.3	21.6	11.0	9.9	100.0		
女性	度数	152	352	142	60	149	855	38	893
	パーセント	17.0	39.4	15.9	6.7	16.7	95.7	4.3	100.0
	有効パーセント	17.8	41.2	16.6	7.0	17.4	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	180	543	252	124	188	1287	49	1336
	パーセント	13.5	40.6	18.9	9.3	14.1	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	14.0	42.2	19.6	9.6	14.6	100.0		
65歳以上	度数	103	147	65	26	43	384	30	414
	パーセント	24.9	35.5	15.7	6.3	10.4	92.8	7.2	100.0
	有効パーセント	26.8	38.3	16.9	6.8	11.2	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	34	87	44	20	36	221	9	230
	パーセント	14.8	37.8	19.1	8.7	15.7	96.1	3.9	100.0
	有効パーセント	15.4	39.4	19.9	9.0	16.3	100.0		
仙台圏域	度数	28	95	52	30	37	242	6	248
	パーセント	11.3	38.3	21.0	12.1	14.9	97.6	2.4	100.0
	有効パーセント	11.6	39.3	21.5	12.4	15.3	100.0		
大崎圏域	度数	35	107	45	18	28	233	8	241
	パーセント	14.5	44.4	18.7	7.5	11.6	96.7	3.3	100.0
	有効パーセント	15.0	45.9	19.3	7.7	12.0	100.0		
栗原圏域	度数	42	111	50	24	27	254	20	274
	パーセント	15.3	40.5	18.2	8.8	9.9	92.7	7.3	100.0
	有効パーセント	16.5	43.7	19.7	9.4	10.6	100.0		
登米圏域	度数	54	98	32	13	38	235	16	251
	パーセント	21.5	39.0	12.7	5.2	15.1	93.6	6.4	100.0
	有効パーセント	23.0	41.7	13.6	5.5	16.2	100.0		
石巻圏域	度数	38	81	43	20	35	217	7	224
	パーセント	17.0	36.2	19.2	8.9	15.6	96.9	3.1	100.0
	有効パーセント	17.5	37.3	19.8	9.2	16.1	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	44	105	46	18	25	238	9	247
	パーセント	17.8	42.5	18.6	7.3	10.1	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	18.5	44.1	19.3	7.6	10.5	100.0		

【優先項目】

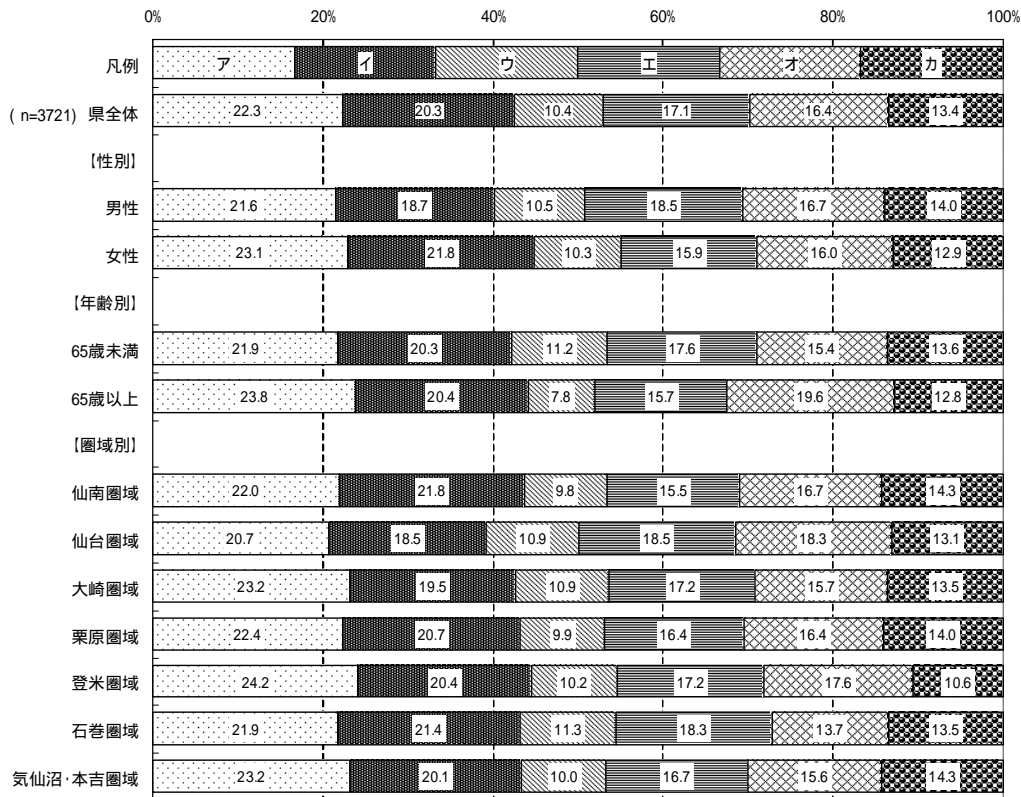
県が取組 28 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア さまざまな場面での 3R 活動（ごみを出さない、再使用する、再生利用するなどの取組）を進めるための、県民・事業者・市町村等への啓発活動
- イ 日常生活や事業活動での廃棄物の発生を抑えたり、資源として再利用する取組の推進
- ウ 製品の製造、流通から廃棄までの各段階や、サービスの提供に伴う環境負担の軽減
- エ リサイクル施設の整備など 3R を支える社会的基盤の充実とリサイクル関連新技術開発
- オ 廃棄物の適正処理を進めるため、廃棄物を出す者の責任意識や県民の理解協力の促進と、不法投棄等不適正処理の根絶に向けた監視指導の強化
- カ 廃棄物処理に関する情報公開を進めることによる透明性の確保と廃棄物処理に必要な施設の維持確保



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3721度であった（複数回答）。

このうち、最も多く選ばれた項目は、アのさまざまな場面での 3R 活動を進めるための、県民・事業者・市町村等への啓発活動で、631度であった。次に、イの日常生活や事業活動での廃棄物の発生を抑えたり、資源として再利用する取組の推進が、754度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、イの日常生活や事業活動での廃棄物の発生を抑えたり、資源として再利用する取組の推進が、男性18.7%に対し女性が21.8%と、女性の方が3.1ポイント高かった。一方、エの3Rを支える社会的基盤の充実とリサイクル関連新技術開発では、男性18.5%に対し女性が15.9%と、男性の方が2.6ポイント高かった。

年齢別では、オの廃棄物の適正処理を進めるため、廃棄物を出す者の責任意識や県民の理解協力の促進と、不法投棄等不適正処理の根絶に向けた監視指導の強化が、65歳未満が15.4%に対し65歳以上は19.6%で、65歳以上の方が4.2ポイント高かった。一方、ウの製品の製造、流通から廃棄までの各段階や、サービスの提供に伴う環境負担の軽減では、65歳未満が11.2%に対し65歳以上は7.8%で、65歳未満の方が3.4ポイント高かった。

圏域別では、アのさまざまな場面での3R活動を進めるための、県民・事業者・市町村等への啓発活動で、登米圏域(24.2%)が高かった。また、イの日常生活や事業活動での廃棄物の発生を抑えたり、資源として再利用する取組の推進では、仙南圏域(21.8%)、石巻圏域(21.4%)が高かった。

取組 2 9 「豊かな自然環境、生活環境の保全」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

金華山島において、自然景観保全に向けた森林群復元の各種取組を実施しています。また、蔵王芝草平や栗駒山雪田地域において、高山性植生群落の保護に向けた取組を行っています。

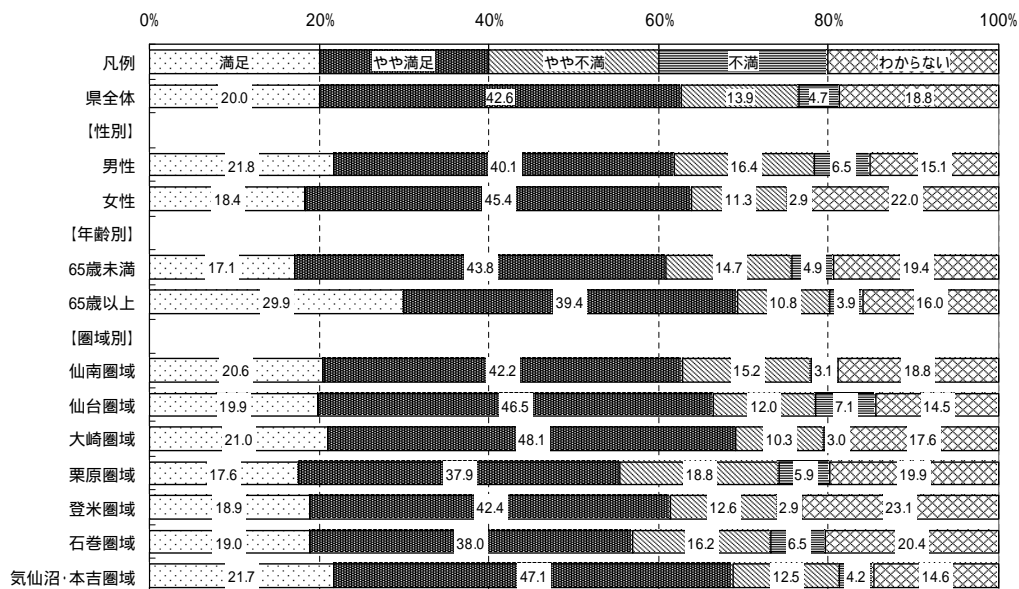
通報などにより、傷ついた野生鳥獣を保護し、救護機関による治療の実施や、治療後に一時的にボランティア（アニマルレスキュー）が飼養し、野生復帰までの手助けを行っています。

県内の企業から苗木の提供を受け、県民の森をはじめとした県内各地に緑の少年団や協賛団体等とともにバットの原木となるアオダモなどの広葉樹を植樹しています。

海藻（アカモク）藻場を造成して、窒素やリンなど水質悪化の原因となる物質を吸収させ、水質の浄化を図るとともに、多様な生態系の保全にもつなげ、さらには、新たな食材としてのアカモクの利用を推進しています。

美しい景観を作り、自然や生活の環境を守る大切な松林を保全するため、松枯れを起す松くい虫被害の防除を進めています。

水源のかん養、県土の保全、豊かな自然環境の形成など、森林や水田が持つ多面的な機能を高めるため、健全で多様な森林の整備や農林業・農山村の振興を進めています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が62.6%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の18.6%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が77.1%、『不満』は22.9%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が61.9%に対し、女性は63.8%で、女性の方が1.9ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が60.9%に対し65歳以上の『満足』が69.3%と、65歳以上の方が8.4ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、大崎圏域(69.1%)、気仙沼・本吉圏域(68.8%)、仙台圏域(66.4%)であった。

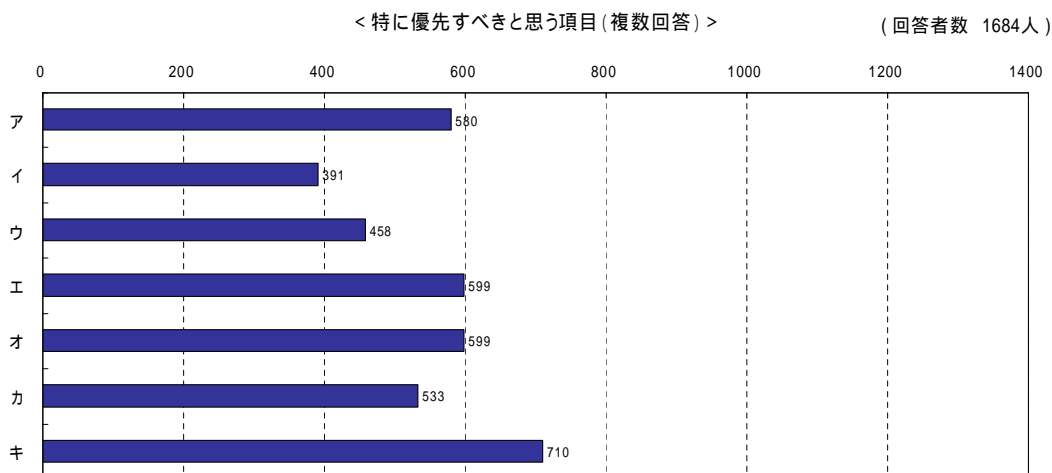
一方、『満足』の割合が低いのは、栗原圏域(55.5%)、石巻圏域(57.0%)であった。

		有効					欠損値 合計	合計	
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	339	723	236	79	319	1696	82	1778
	パーセント	19.1	40.7	13.3	4.4	17.9	95.4	4.6	100.0
	有効パーセント	20.0	42.6	13.9	4.7	18.8	100.0		
	有効パーセント 「わからない」を除く有効パーセント	24.6	52.5	17.1	5.7	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	180	332	136	54	125	827	33	860
	パーセント	20.9	38.6	15.8	6.3	14.5	96.2	3.8	100.0
	有効パーセント	21.8	40.1	16.4	6.5	15.1	100.0		
女性	度数	157	388	97	25	188	855	38	893
	パーセント	17.6	43.4	10.9	2.8	21.1	95.7	4.3	100.0
	有効パーセント	18.4	45.4	11.3	2.9	22.0	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	222	568	191	64	252	1297	39	1336
	パーセント	16.6	42.5	14.3	4.8	18.9	97.1	2.9	100.0
	有効パーセント	17.1	43.8	14.7	4.9	19.4	100.0		
65歳以上	度数	114	150	41	15	61	381	33	414
	パーセント	27.5	36.2	9.9	3.6	14.7	92.0	8.0	100.0
	有効パーセント	29.9	39.4	10.8	3.9	16.0	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	46	94	34	7	42	223	7	230
	パーセント	20.0	40.9	14.8	3.0	18.3	97.0	3.0	100.0
	有効パーセント	20.6	42.2	15.2	3.1	18.8	100.0		
仙台圏域	度数	48	112	29	17	35	241	7	248
	パーセント	19.4	45.2	11.7	6.9	14.1	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	19.9	46.5	12.0	7.1	14.5	100.0		
大崎圏域	度数	49	112	24	7	41	233	8	241
	パーセント	20.3	46.5	10.0	2.9	17.0	96.7	3.3	100.0
	有効パーセント	21.0	48.1	10.3	3.0	17.6	100.0		
栗原圏域	度数	45	97	48	15	51	256	18	274
	パーセント	16.4	35.4	17.5	5.5	18.6	93.4	6.6	100.0
	有効パーセント	17.6	37.9	18.8	5.9	19.9	100.0		
登米圏域	度数	45	101	30	7	55	238	13	251
	パーセント	17.9	40.2	12.0	2.8	21.9	94.8	5.2	100.0
	有効パーセント	18.9	42.4	12.6	2.9	23.1	100.0		
石巻圏域	度数	41	82	35	14	44	216	8	224
	パーセント	18.3	36.6	15.6	6.3	19.6	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	19.0	38.0	16.2	6.5	20.4	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	52	113	30	10	35	240	7	247
	パーセント	21.1	45.7	12.1	4.0	14.2	97.2	2.8	100.0
	有効パーセント	21.7	47.1	12.5	4.2	14.6	100.0		

【優先項目】

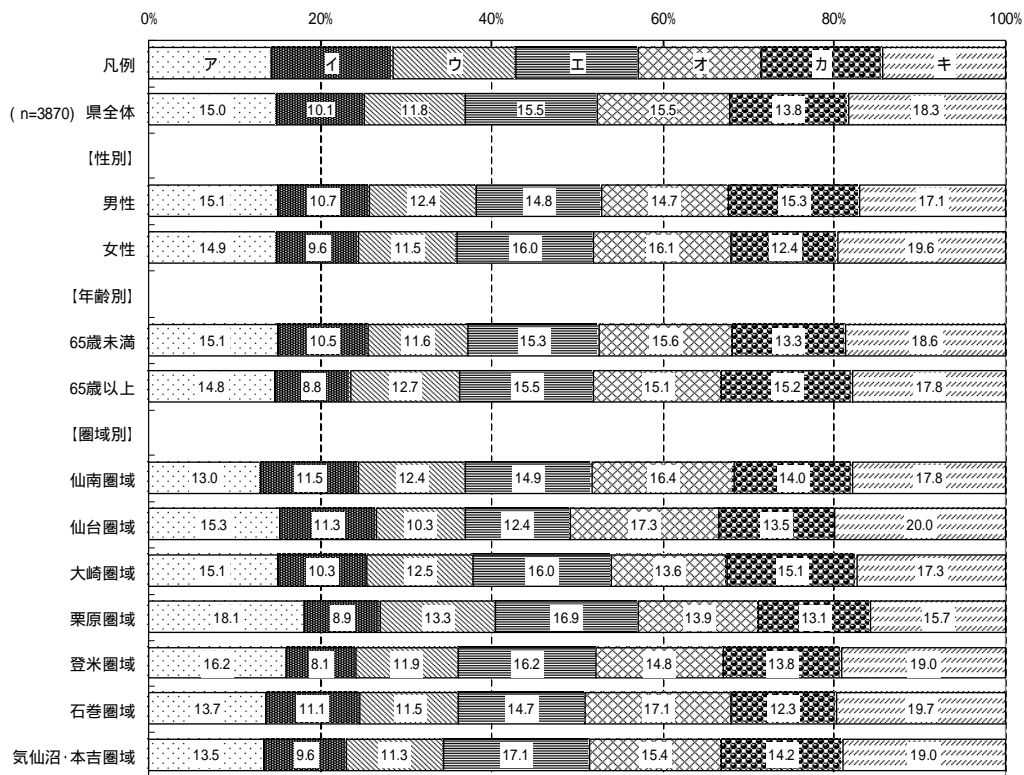
県が取組 29 に関し 10 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 国定公園やラムサール条約湿地など、宮城の自然環境の保全・再生
- イ 多様な野生生物の保護管理
- ウ 住民と民間団体、事業者、行政などが、自然環境に関する情報を共有できる体制づくり
- エ 豊かな自然環境をまもりながら、自然のもたらすやすらぎと潤いを楽しめるエコ・ツーリズムなど、自然環境の賢明な活用
- オ 身近にあるみどり豊かな空間の保全と、自然環境保全意識の醸成
- カ 上流から下流まで流域全体が協力・連携して行う、各流域の特性を生かした水にまつわる環境の保全
- キ 大気汚染や水質汚濁などの改善に向けた、公害に対する調査研究・技術開発



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3870度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**キ**の大気汚染や水質汚濁などの改善に向けた、公害に対する調査研究・技術開発で、710度であった。次いで、**エ**の自然環境の賢明な活用、及び**オ**の身近にあるみどり豊かな空間の保全と、自然環境保全意識の醸成が、ともに599度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**キ**の大気汚染や水質汚濁などの改善に向けた、公害に対する調査研究・技術開発が、男性17.1%に対し女性が19.6%と、女性の方が2.5ポイント高かった。一方、**カ**の上流から下流まで流域全体が協力・連携して行う、各流域の特性を生かした水にまつわる環境の保全では、男性15.3%に対し女性が12.4%と、男性の方が2.9ポイント高かった。

年齢別では、**カ**の上流から下流まで流域全体が協力・連携して行う、各流域の特性を生かした水にまつわる環境の保全で、65歳未満が13.3%に対し65歳以上は15.2%で、65歳以上の方が1.9ポイント高かった。

圏域別では、**キ**の大気汚染や水質汚濁などの改善に向けた、公害に対する調査研究・技術開発で、仙台圏域(20.0%)、石巻圏域(19.7%)が高かった。また、**エ**の自然環境の賢明な活用では、気仙沼・本吉圏域(17.1%)、栗原圏域(16.9%)が高く、**オ**の身近にあるみどり豊かな空間の保全と、自然環境保全意識の醸成では、仙台圏域(17.3%)、石巻圏域(17.1%)が高かった。

取組 3 0 「住民参画型の社会資本整備や良好な景観の形成」

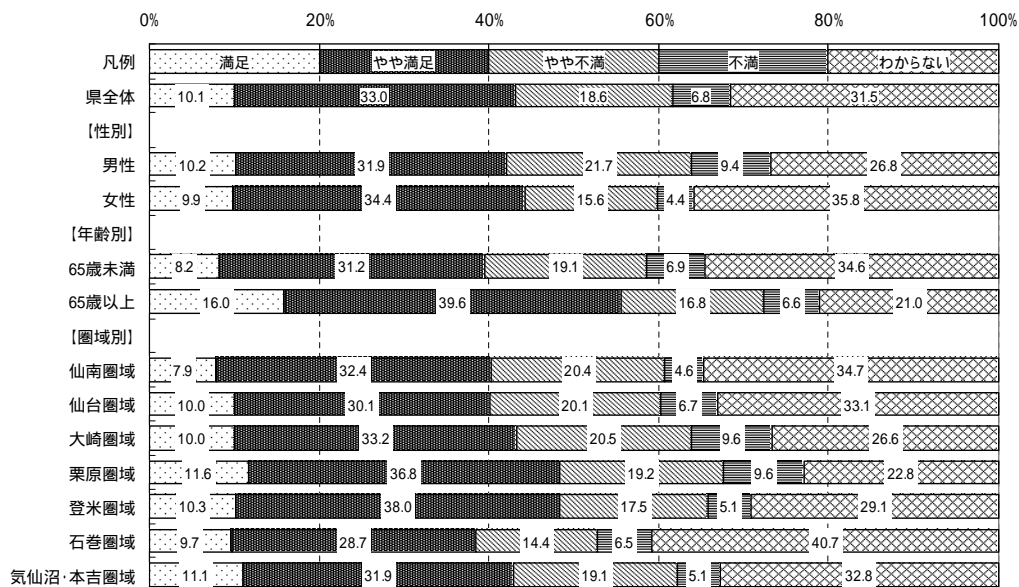
【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

道路や河川等の清掃や緑化に自発的に取り組む個人・団体を、アドプトプログラム（アドプト＝養子縁組のこと。身近な道路や河川を、我が子に愛情を注ぐように面倒を見るという意味合い）の実施団体として認定し、地元市町村と連携しながら活動の支援を行っています。

農業・農村が持つ快適性・教育・文化に関する役割や機能を積極的に評価するとともに、農家、自治会、地域住民等多様な主体の参画のもと、農地等の適正管理を支援する取組を行っています。

景観法の趣旨を踏まえ、平成 10 年 3 月に策定した「宮城県景観形成指針」を見直し、これからの地域づくりの指針としていただくとともに、景観に関する県民意識の高揚を図るため景観シンポジウムを開催しています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が43.1%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の25.4%を上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が62.8%、『不満』は37.2%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が42.1%に対し、女性は44.3%で、女性の方が2.2ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が39.4%に対し65歳以上の『満足』が55.6%と、65歳以上の方が16.2ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、栗原圏域(48.4%)、登米圏域(48.3%)であった。

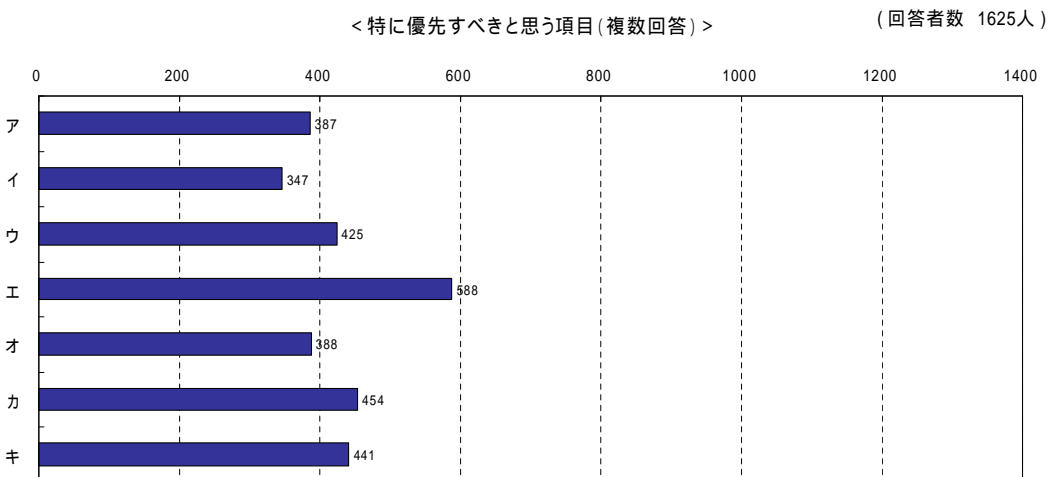
一方、『満足』の割合が比較的低いのは、石巻圏域(38.4%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	168	549	310	114	525	1666	112	1778
	パーセント	9.4	30.9	17.4	6.4	29.5	93.7	6.3	100.0
	有効パーセント	10.1	33.0	18.6	6.8	31.5	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	14.7	48.1	27.2	10.0	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	83	259	176	76	218	812	48	860
	パーセント	9.7	30.1	20.5	8.8	25.3	94.4	5.6	100.0
	有効パーセント	10.2	31.9	21.7	9.4	26.8	100.0		
女性	度数	83	289	131	37	301	841	52	893
	パーセント	9.3	32.4	14.7	4.1	33.7	94.2	5.8	100.0
	有効パーセント	9.9	34.4	15.6	4.4	35.8	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	105	397	243	88	440	1273	63	1336
	パーセント	7.9	29.7	18.2	6.6	32.9	95.3	4.7	100.0
	有効パーセント	8.2	31.2	19.1	6.9	34.6	100.0		
65歳以上	度数	60	149	63	25	79	376	38	414
	パーセント	14.5	36.0	15.2	6.0	19.1	90.8	9.2	100.0
	有効パーセント	16.0	39.6	16.8	6.6	21.0	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	17	70	44	10	75	216	14	230
	パーセント	7.4	30.4	19.1	4.3	32.6	93.9	6.1	100.0
	有効パーセント	7.9	32.4	20.4	4.6	34.7	100.0		
仙台圏域	度数	24	72	48	16	79	239	9	248
	パーセント	9.7	29.0	19.4	6.5	31.9	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	10.0	30.1	20.1	6.7	33.1	100.0		
大崎圏域	度数	23	76	47	22	61	229	12	241
	パーセント	9.5	31.5	19.5	9.1	25.3	95.0	5.0	100.0
	有効パーセント	10.0	33.2	20.5	9.6	26.6	100.0		
栗原圏域	度数	29	92	48	24	57	250	24	274
	パーセント	10.6	33.6	17.5	8.8	20.8	91.2	8.8	100.0
	有効パーセント	11.6	36.8	19.2	9.6	22.8	100.0		
登米圏域	度数	24	89	41	12	68	234	17	251
	パーセント	9.6	35.5	16.3	4.8	27.1	93.2	6.8	100.0
	有効パーセント	10.3	38.0	17.5	5.1	29.1	100.0		
石巻圏域	度数	21	62	31	14	88	216	8	224
	パーセント	9.4	27.7	13.8	6.3	39.3	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	9.7	28.7	14.4	6.5	40.7	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	26	75	45	12	77	235	12	247
	パーセント	10.5	30.4	18.2	4.9	31.2	95.1	4.9	100.0
	有効パーセント	11.1	31.9	19.1	5.1	32.8	100.0		

【優先項目】

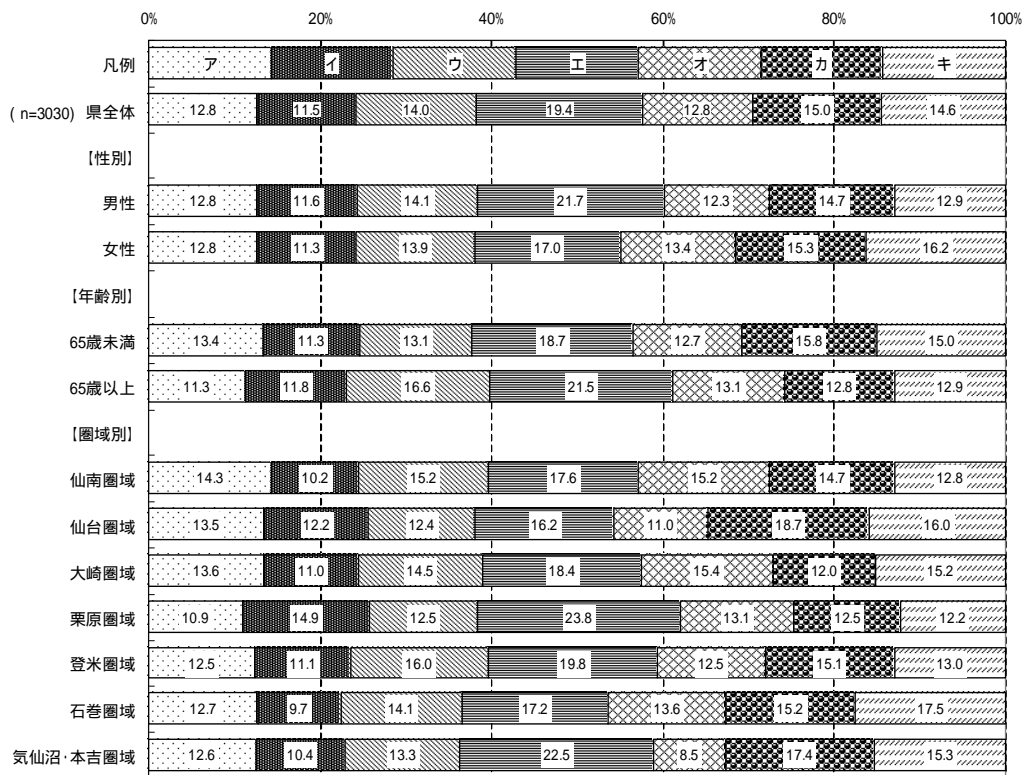
県が取組30に関し10年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 長期的な視点に立った社会資本の新設・保全・更新のしくみづくり
- イ 社会資本の整備計画づくりや完成後の管理に住民意識を取り入れるための体制づくり
- ウ みやぎスマイルロードプログラムなど、道路や河川清掃などへの住民や企業の参画促進
- エ 地域が協働して行う農業水利施設のような地域資源の保全活動や、農山漁村のもつ魅力を生かした都市住民との交流や定住の促進
- オ 全県的な景観形成の方向性の提示と市町村の景観形成への支援
- カ 景観に配慮した公共施設づくりと、規制などによる良好な景観づくりへの誘導
- キ みやぎの良好な景観の選定など、良好な景観づくりのための普及啓発



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3030度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**エ**の地域が協働して行う農業水利施設のような地域資源の保全活動や、農山漁村のもつ魅力を生かした都市住民との交流や定住の促進で、588度であった。次いで、**カ**の景観に配慮した公共施設づくりと、規制などによる良好な景観づくりへの誘導が、454度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**エ**の地域が協働して行う農業水利施設のような地域資源の保全活動や、農山漁村のもつ魅力を生かした都市住民との交流や定住の促進が、男性21.7%に対し女性が17.0%と、男性の方が4.7ポイント高かった。一方、**キ**の良好な景観づくりのための普及啓発では、男性12.9%に対し女性が16.2%と、女性の方が3.3ポイント高かった。

年齢別では、**ウ**の道路や河川清掃などへの住民や企業の参画促進が、65歳未満が13.1%に対し65歳以上は16.6%で、65歳以上の方が3.5ポイント高かった。また、**エ**の地域が協働して行う農業水利施設のような地域資源の保全活動や、農山漁村のもつ魅力を生かした都市住民との交流や定住の促進も、65歳未満が18.7%に対し65歳以上は21.5%で、65歳以上の方が2.8ポイント高かった。一方、**キ**の良好な景観づくりのための普及啓発では、65歳未満が15.0%に対し65歳以上は12.9%で、65歳未満の方が2.1ポイント高かった。

圏域別では、**エ**の地域が協働して行う農業水利施設のような地域資源の保全活動や、農山漁村のもつ魅力を生かした都市住民との交流や定住の促進で、栗原圏域(23.8%)、気仙沼・本吉圏域(22.5%)が高かった。

取組 3 1 「宮城県沖地震に備えた施設整備や情報ネットワークの充実」

【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

宮城県沖地震等の発生に備え、迅速・的確な津波避難のための対策や地震防災上必要な施設の整備等の地震防災対策を推進する計画を作成し、推進に取り組んでいます。

地震災害発生時に、負傷者の搬送や緊急物資の輸送路を確保できるよう、防災拠点間を結ぶ緊急輸送道路に当たる橋の耐震化を進めています。

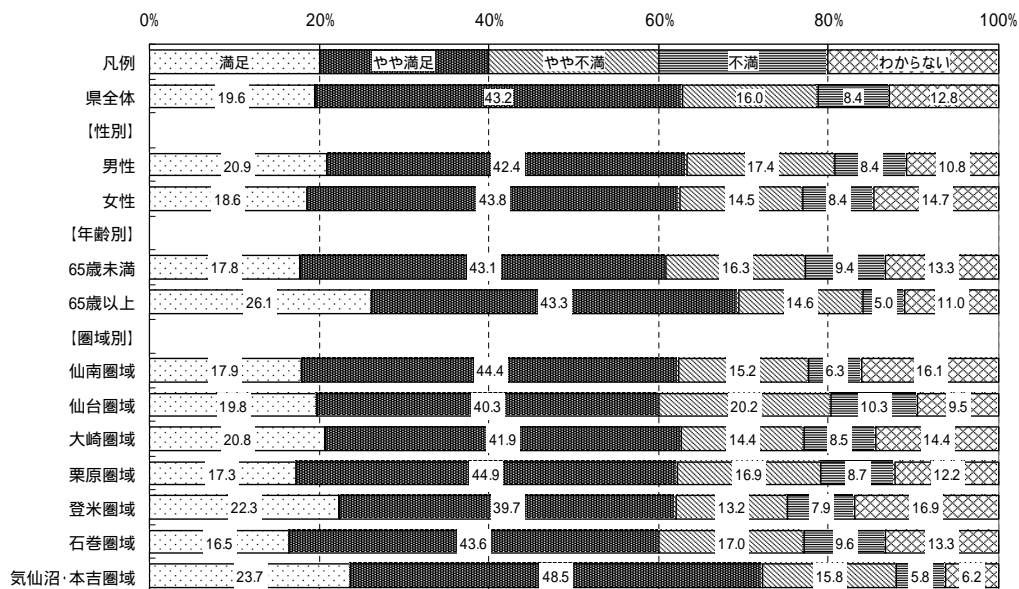
宮城県沖地震に備え、現行の耐震化基準（阪神淡路大震災後に改定）に適合していない水管橋の耐震補強設計・工事を進めています。

昭和 56 年 5 月以前に建築された木造戸建て住宅の耐震化を促進するため、耐震診断費用の助成、耐震化に関する相談会の開催や相談所の設置を行っています。

津波発生時の人命防護のため、防潮水門や陸こうの耐震対策や開閉速度の改善などを実施しており、今後は、遠隔操作化を進めていきます。

津波防災の施設整備には膨大な経費と時間が必要なため、国・県・市が連携して安全な避難を助ける避難誘導標識を設置するなどの避難対策や官民一体となった施設のパトロールなど、ソフト対策も進めています。

津波観測情報を迅速に伝達するため、宮城県総合防災情報システムを活用した、津波情報のネットワーク化について検討しています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が62.8%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の24.4%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が72.0%、『不満』は28.0%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が63.3%に対し、女性は62.4%で、ほぼ同じ割合であった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が60.9%に対し65歳以上の『満足』が69.4%と、65歳以上の方が8.5ポイント高かった。

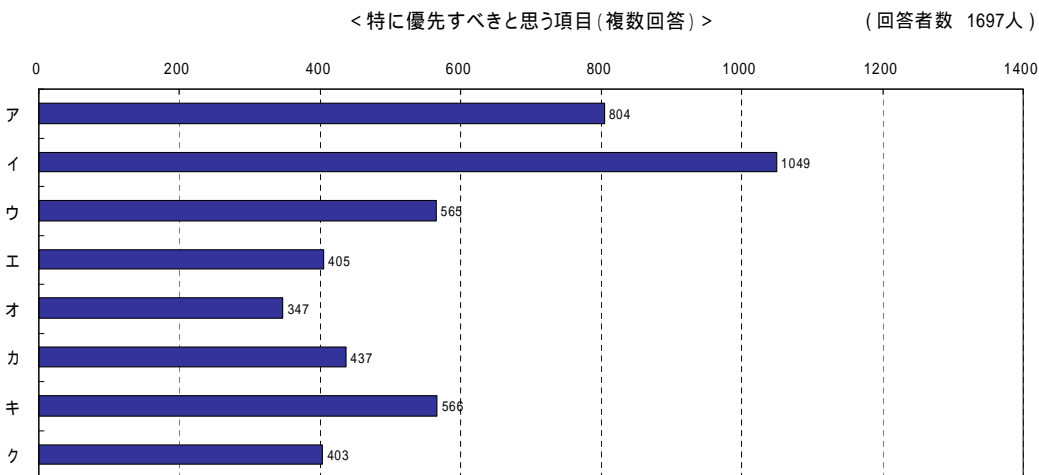
圏域別では『満足』の割合が高いのは、気仙沼・本吉圏域(72.2%)であった。一方、『満足』の割合が比較的低いのは、仙台圏域(60.1%)、石巻圏域(60.1%)であった。

		有効					欠損値 合計	合計	
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	334	736	273	143	219	1705	73	1778
	パーセント	18.8	41.4	15.4	8.0	12.3	95.9	4.1	100.0
	有効パーセント	19.6	43.2	16.0	8.4	12.8	100.0		
	有効パーセント (「わからない」を除く有効パーセント)	22.5	49.5	18.4	9.6	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	174	353	145	70	90	832	28	860
	パーセント	20.2	41.0	16.9	8.1	10.5	96.7	3.3	100.0
	有効パーセント	20.9	42.4	17.4	8.4	10.8	100.0		
女性	度数	160	377	125	72	126	860	33	893
	パーセント	17.9	42.2	14.0	8.1	14.1	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	18.6	43.8	14.5	8.4	14.7	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	232	563	213	123	174	1305	31	1336
	パーセント	17.4	42.1	15.9	9.2	13.0	97.7	2.3	100.0
	有効パーセント	17.8	43.1	16.3	9.4	13.3	100.0		
65歳以上	度数	100	166	56	19	42	383	31	414
	パーセント	24.2	40.1	13.5	4.6	10.1	92.5	7.5	100.0
	有効パーセント	26.1	43.3	14.6	5.0	11.0	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	40	99	34	14	36	223	7	230
	パーセント	17.4	43.0	14.8	6.1	15.7	97.0	3.0	100.0
	有効パーセント	17.9	44.4	15.2	6.3	16.1	100.0		
仙台圏域	度数	48	98	49	25	23	243	5	248
	パーセント	19.4	39.5	19.8	10.1	9.3	98.0	2.0	100.0
	有効パーセント	19.8	40.3	20.2	10.3	9.5	100.0		
大崎圏域	度数	49	99	34	20	34	236	5	241
	パーセント	20.3	41.1	14.1	8.3	14.1	97.9	2.1	100.0
	有効パーセント	20.8	41.9	14.4	8.5	14.4	100.0		
栗原圏域	度数	44	114	43	22	31	254	20	274
	パーセント	16.1	41.6	15.7	8.0	11.3	92.7	7.3	100.0
	有効パーセント	17.3	44.9	16.9	8.7	12.2	100.0		
登米圏域	度数	54	96	32	19	41	242	9	251
	パーセント	21.5	38.2	12.7	7.6	16.3	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	22.3	39.7	13.2	7.9	16.9	100.0		
石巻圏域	度数	36	95	37	21	29	218	6	224
	パーセント	16.1	42.4	16.5	9.4	12.9	97.3	2.7	100.0
	有効パーセント	16.5	43.6	17.0	9.6	13.3	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	57	117	38	14	15	241	6	247
	パーセント	23.1	47.4	15.4	5.7	6.1	97.6	2.4	100.0
	有効パーセント	23.7	48.5	15.8	5.8	6.2	100.0		

【優先項目】

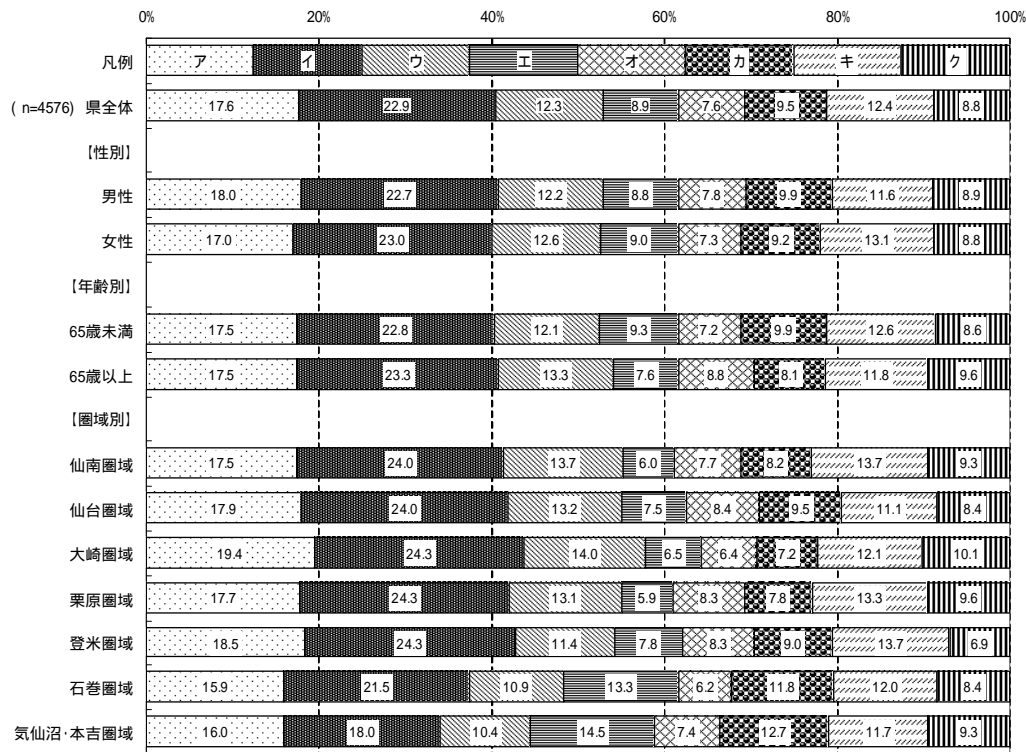
県が取組 3 1 に関し 1 0 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 緊急輸送道路に当たる橋、物資輸送のための岸壁、防災拠点施設となる公共建築物の耐震化の促進や防災公園の整備
- イ 電気、ガス、上下水道などの耐震化と、それぞれの管理者との連携強化による震災時の早期復旧体制づくり
- ウ 住宅等の耐震化の促進
- エ 津波被害を防ぐ水門等の施設整備と、市町村や地域と連携した維持管理の充実
- オ 広報・避難誘導態勢の整備や、住民の防災意識の向上を図る津波に備えたまちづくりなどのソフト対策の促進
- カ G P S 波浪計の津波観測や地震計の地震観測など、観測体制の充実
- キ 宮城県総合防災情報システムなどの情報ネットワークの充実
- ク 国、市町村、大学、研究機関が連携して行う地震・津波の調査研究と先端科学技術活用の促進



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、4 5 7 6 度であった (複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、イの電気、ガス、上下水道などの耐震化と、それぞれの管理者との連携強化による震災時の早期復旧体制づくりで、1 0 4 9 度であった。次に、アの緊急輸送道路に当たる橋、物資輸送のための岸壁、防災拠点施設となる公共建築物の耐震化の促進や防災公園の整備が、8 0 4 度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、**キ**の宮城県総合防災情報システムなどの情報ネットワークの充実が、男性 11.6% に対し女性が 13.1% と、女性の方が 1.5 ポイント高かった。

年齢別では、**オ**の広報・避難誘導態勢の整備や、住民の防災意識の向上を図る津波に備えたまちづくりなどのソフト対策の促進が、65歳未満が 7.2% に対し 65歳以上は 8.8% で、65歳以上の方が 1.6 ポイント高かった。一方、**カ**の観測体制の充実では、65歳未満が 9.9% に対し 65歳以上は 8.1% で、65歳未満の方が 1.8 ポイント高かった。

圏域別では、**イ**の電気、ガス、上下水道などの耐震化と、それぞれの管理者との連携強化による震災時の早期復旧体制づくりで、大崎圏域(24.3%)、栗原圏域(24.3%) 及び登米圏域(24.3%) が高かった。

また、**ア**の緊急輸送道路に当たる橋、物資輸送のための岸壁、防災拠点施設となる公共建築物の耐震化の促進や防災公園の整備では、大崎圏域(19.4%)、登米圏域(18.5%) が高かった。

取組 3 2 「洪水や土砂災害などの大規模地震災害対策の推進」

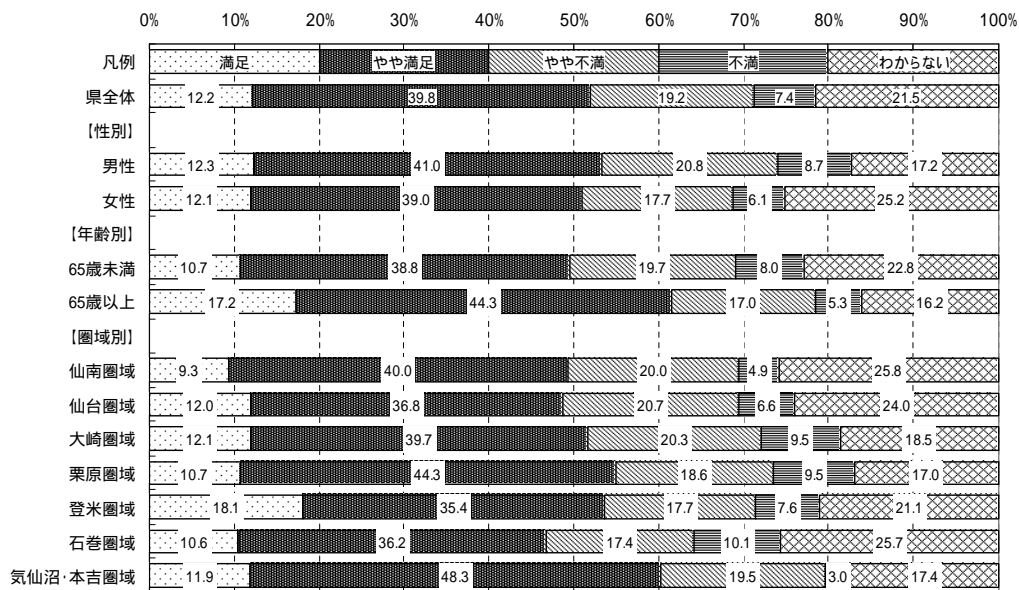
【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

インターネットや携帯電話による雨量や河川水位などの情報提供を行っています。また、「みやぎ緊急水害対策プロジェクト」により、洪水予報河川の指定や洪水ハザードマップを作成する市町村への支援などのソフト対策を推進しています。近年多発するゲリラ的豪雨から県民の安全と安心を守るため、「見える川づくり(10か年計画)」を策定し、優先度や整備効果を明確にして計画的に河川改修等を進めています。

土砂災害の犠牲になりやすい高齢者や乳幼児などに関連した施設や、住民が安全に避難するための避難所・避難路を対象とした防災工事を重点的に進めています。県内にある8千箇所を超える土砂災害危険箇所や土砂災害の情報を、県民や市町村に提供する砂防総合情報システムの運用を開始し、機能の充実を進めています。土砂災害についての情報や土砂災害防止法について分かりやすく説明する「押し掛け出前講座」を県内各地で開催しています。

荒廃した渓流や崩壊地に治山ダムや土留などを設置して山地災害を防ぐとともに、保安林の間伐などの手入れを行っています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が52.0%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の26.6%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が66.2%、『不満』は33.8%であった。

性別に見ると、『満足』は男性が53.3%に対し、女性は51.1%で、男性の方が2.2ポイント高かった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が49.5%に対し65歳以上の『満足』が61.5%と、65歳以上の方が12.0ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が高いのは、気仙沼・本吉圏域(60.2%)であった。

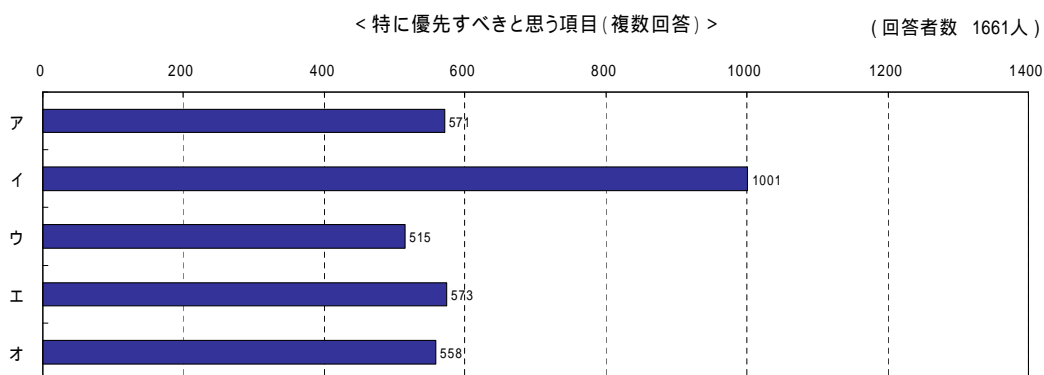
一方、『満足』の割合が比較的低いのは、石巻圏域(46.8%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	206	673	324	125	363	1691	87	1778
	パーセント	11.6	37.9	18.2	7.0	20.4	95.1	4.9	100.0
	有効パーセント	12.2	39.8	19.2	7.4	21.5	100.0		
	有効パーセント 「わからない」を除く有効 パーセント	15.5	50.7	24.4	9.4	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	101	338	171	72	142	824	36	860
	パーセント	11.7	39.3	19.9	8.4	16.5	95.8	4.2	100.0
	有効パーセント	12.3	41.0	20.8	8.7	17.2	100.0		
女性	度数	103	333	151	52	215	854	39	893
	パーセント	11.5	37.3	16.9	5.8	24.1	95.6	4.4	100.0
	有効パーセント	12.1	39.0	17.7	6.1	25.2	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	139	503	255	104	296	1297	39	1336
	パーセント	10.4	37.6	19.1	7.8	22.2	97.1	2.9	100.0
	有効パーセント	10.7	38.8	19.7	8.0	22.8	100.0		
65歳以上	度数	65	167	64	20	61	377	37	414
	パーセント	15.7	40.3	15.5	4.8	14.7	91.1	8.9	100.0
	有効パーセント	17.2	44.3	17.0	5.3	16.2	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	21	90	45	11	58	225	5	230
	パーセント	9.1	39.1	19.6	4.8	25.2	97.8	2.2	100.0
	有効パーセント	9.3	40.0	20.0	4.9	25.8	100.0		
仙台圏域	度数	29	89	50	16	58	242	6	248
	パーセント	11.7	35.9	20.2	6.5	23.4	97.6	2.4	100.0
	有効パーセント	12.0	36.8	20.7	6.6	24.0	100.0		
大崎圏域	度数	28	92	47	22	43	232	9	241
	パーセント	11.6	38.2	19.5	9.1	17.8	96.3	3.7	100.0
	有効パーセント	12.1	39.7	20.3	9.5	18.5	100.0		
栗原圏域	度数	27	112	47	24	43	253	21	274
	パーセント	9.9	40.9	17.2	8.8	15.7	92.3	7.7	100.0
	有効パーセント	10.7	44.3	18.6	9.5	17.0	100.0		
登米圏域	度数	43	84	42	18	50	237	14	251
	パーセント	17.1	33.5	16.7	7.2	19.9	94.4	5.6	100.0
	有効パーセント	18.1	35.4	17.7	7.6	21.1	100.0		
石巻圏域	度数	23	79	38	22	56	218	6	224
	パーセント	10.3	35.3	17.0	9.8	25.0	97.3	2.7	100.0
	有効パーセント	10.6	36.2	17.4	10.1	25.7	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	28	114	46	7	41	236	11	247
	パーセント	11.3	46.2	18.6	2.8	16.6	95.5	4.5	100.0
	有効パーセント	11.9	48.3	19.5	3.0	17.4	100.0		

【優先項目】

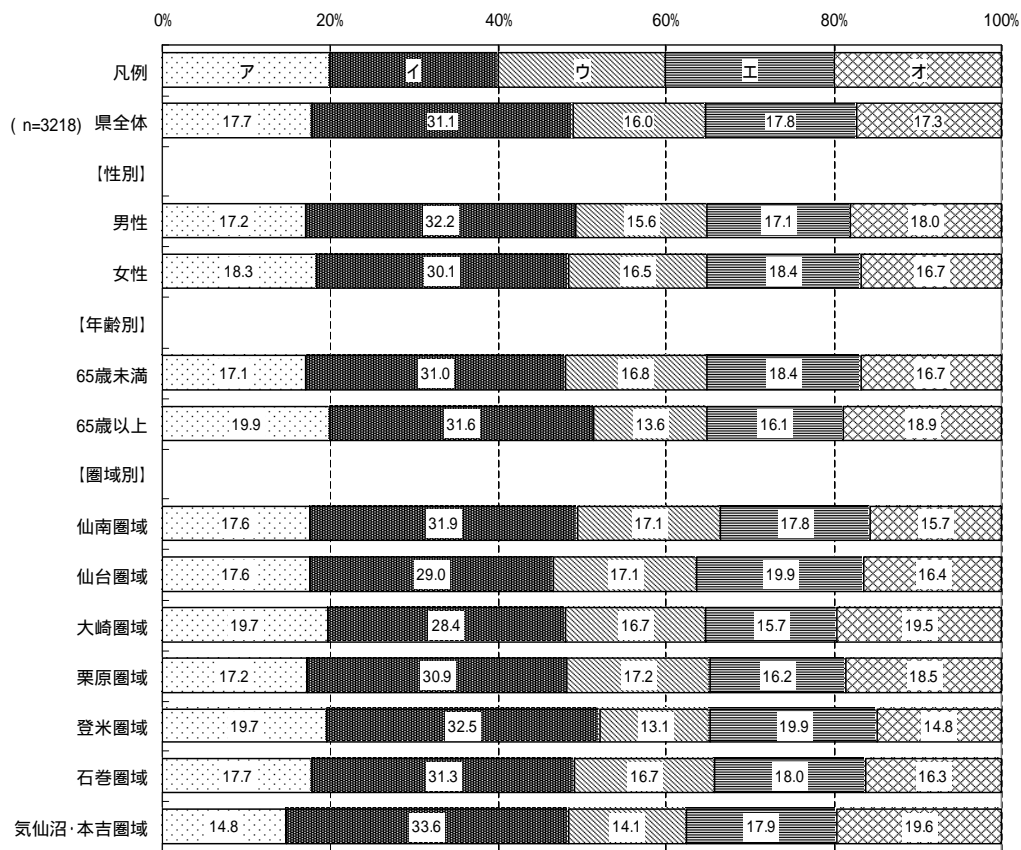
県が取組 3 2 に関し 1 0 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 宮城県河川流域情報システムなどによる洪水情報提供体制の充実
- イ 洪水被害を防ぐための効果的な河川の整備と堤防・護岸などの維持管理
- ウ 土砂災害を防ぐための砂防ダムなど土砂災害を防止する施設の整備と維持管理
- エ 宮城県砂防総合情報システムなどによる土砂災害情報提供体制の充実と、土砂災害警戒区域の指定などによる市町村と連携した警戒避難体制の整備
- オ 山地災害を防ぎ、水源のかん養、生活環境の保全を図るための治山施設の整備



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、3 2 1 8 度であった(複数回答)。

このうち、最も多く選ばれた項目は、イの洪水被害を防ぐための効果的な河川の整備と堤防・護岸などの維持管理で、1 0 0 1 度であった。次いで、エの宮城県砂防総合情報システムなどによる土砂災害情報提供体制の充実と、土砂災害警戒区域の指定などによる市町村と連携した警戒避難体制の整備が5 7 3 度、アの宮城県河川流域情報システムなどによる洪水情報提供体制の充実が、5 7 1 度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、どの項目もほとんど差はなかった。

年齢別では、アの宮城県河川流域情報システムなどによる洪水情報提供体制の充実が、65歳未満が17.1%に対し65歳以上は19.9%で、65歳以上の方が2.8ポイント高かった。一方、ウの土砂災害を防ぐための砂防ダムなど土砂災害を防止する施設の整備と維持管理では、65歳未満が16.8%に対し65歳以上は13.6%で、65歳未満の方が3.2ポイント高かった。

圏域別では、イの洪水被害を防ぐための効果的な河川の整備と堤防・護岸などの維持管理で、気仙沼・本吉圏域(33.6%)、登米圏域(32.5%)、仙南圏域(31.9%)及び石巻圏域(31.3%)が高かった。

また、エの宮城県砂防総合情報システムなどによる土砂災害情報提供体制の充実と、土砂災害警戒区域の指定などによる市町村と連携した警戒避難体制の整備では、仙台圏域(19.9%)、登米圏域(19.9%)が高かった。

取組 3 3 「地域ぐるみの防災体制の充実」

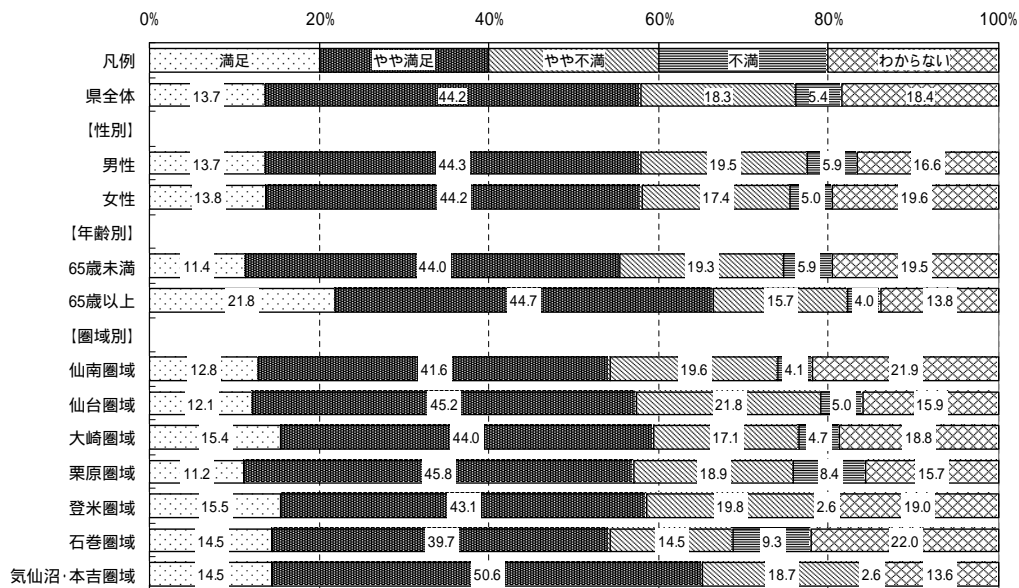
【満足度】

宮城県が今まで行ってきた、下記の取組に対する満足度を調査した。

各種災害時の初動体制の確立、被害の拡大防止を図るため、災害情報の迅速・的確な収集と市町村等への伝達、災害情報を関係機関が共有するためのシステムの維持管理を行っています。

災害ボランティア受け入れを効果的に行うため、関係団体の連携を図るとともに、災害ボランティアコーディネーター研修や、災害ボランティアセンター設置運営訓練等を実施しています。

地域防災活動の中核となる自主防災組織などの結成や活動を支援するため、専門家をアドバイザーとして地域に派遣するとともに防災リーダー研修を行っています。災害時の対応能力を上げ、住民の防災意識を高めるため、防災関係機関や住民の参加による防災訓練を実施しています。



県全体では「満足」「やや満足」を合わせた『満足』が57.9%で、「やや不満」「不満」を合わせた『不満』の23.7%を大幅に上回った。

なお、回答全体から「わからない」を除き集計すると、『満足』が70.9%、『不満』は29.1%であった。

性別に見ると、『満足』は男性、女性ともに58.0%と同じ割合であった。

年齢別では、65歳未満の『満足』が55.4%に対し65歳以上の『満足』が66.5%と、65歳以上の方が11.1ポイント高かった。

圏域別では『満足』の割合が比較的高いのは、気仙沼・本吉圏域(65.1%)であった。

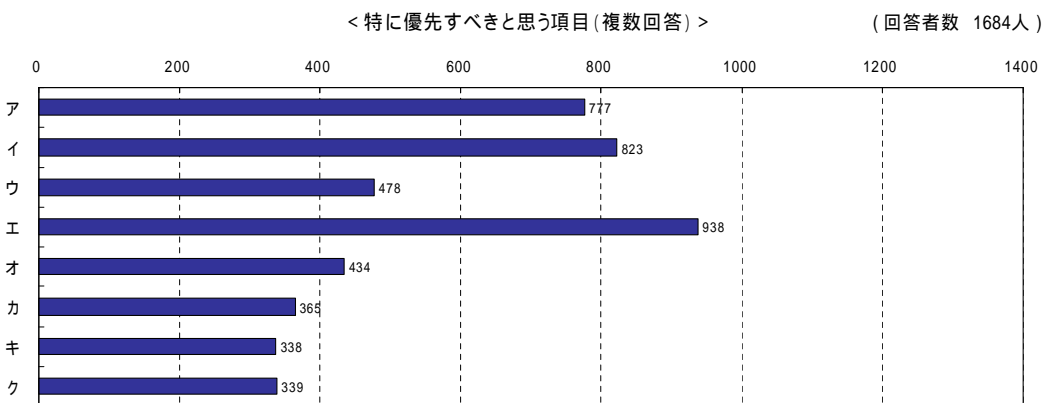
一方、『満足』の割合が比較的低いのは、石巻圏域(54.2%)、仙南圏域(54.4%)であった。

		有効					合計	欠損値	合計
		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない			
県全体	度数	228	735	305	90	306	1664	114	1778
	パーセント	12.8	41.3	17.2	5.1	17.2	93.6	6.4	100.0
	有効パーセント	13.7	44.2	18.3	5.4	18.4	100.0		
	「わからない」を除く有効パーセント	16.8	54.1	22.5	6.6	-	100.0		
【性別】									
男性	度数	111	359	158	48	135	811	49	860
	パーセント	12.9	41.7	18.4	5.6	15.7	94.3	5.7	100.0
	有効パーセント	13.7	44.3	19.5	5.9	16.6	100.0		
女性	度数	117	374	147	42	166	846	47	893
	パーセント	13.1	41.9	16.5	4.7	18.6	94.7	5.3	100.0
	有効パーセント	13.8	44.2	17.4	5.0	19.6	100.0		
【年齢別】									
65歳未満	度数	145	562	246	75	249	1277	59	1336
	パーセント	10.9	42.1	18.4	5.6	18.6	95.6	4.4	100.0
	有効パーセント	11.4	44.0	19.3	5.9	19.5	100.0		
65歳以上	度数	82	168	59	15	52	376	38	414
	パーセント	19.8	40.6	14.3	3.6	12.6	90.8	9.2	100.0
	有効パーセント	21.8	44.7	15.7	4.0	13.8	100.0		
【圏域別】									
仙南圏域	度数	28	91	43	9	48	219	11	230
	パーセント	12.2	39.6	18.7	3.9	20.9	95.2	4.8	100.0
	有効パーセント	12.8	41.6	19.6	4.1	21.9	100.0		
仙台圏域	度数	29	108	52	12	38	239	9	248
	パーセント	11.7	43.5	21.0	4.8	15.3	96.4	3.6	100.0
	有効パーセント	12.1	45.2	21.8	5.0	15.9	100.0		
大崎圏域	度数	36	103	40	11	44	234	7	241
	パーセント	14.9	42.7	16.6	4.6	18.3	97.1	2.9	100.0
	有効パーセント	15.4	44.0	17.1	4.7	18.8	100.0		
栗原圏域	度数	28	114	47	21	39	249	25	274
	パーセント	10.2	41.6	17.2	7.7	14.2	90.9	9.1	100.0
	有効パーセント	11.2	45.8	18.9	8.4	15.7	100.0		
登米圏域	度数	36	100	46	6	44	232	19	251
	パーセント	14.3	39.8	18.3	2.4	17.5	92.4	7.6	100.0
	有効パーセント	15.5	43.1	19.8	2.6	19.0	100.0		
石巻圏域	度数	31	85	31	20	47	214	10	224
	パーセント	13.8	37.9	13.8	8.9	21.0	95.5	4.5	100.0
	有効パーセント	14.5	39.7	14.5	9.3	22.0	100.0		
気仙沼・本吉圏域	度数	34	119	44	6	32	235	12	247
	パーセント	13.8	48.2	17.8	2.4	13.0	95.1	4.9	100.0
	有効パーセント	14.5	50.6	18.7	2.6	13.6	100.0		

【優先項目】

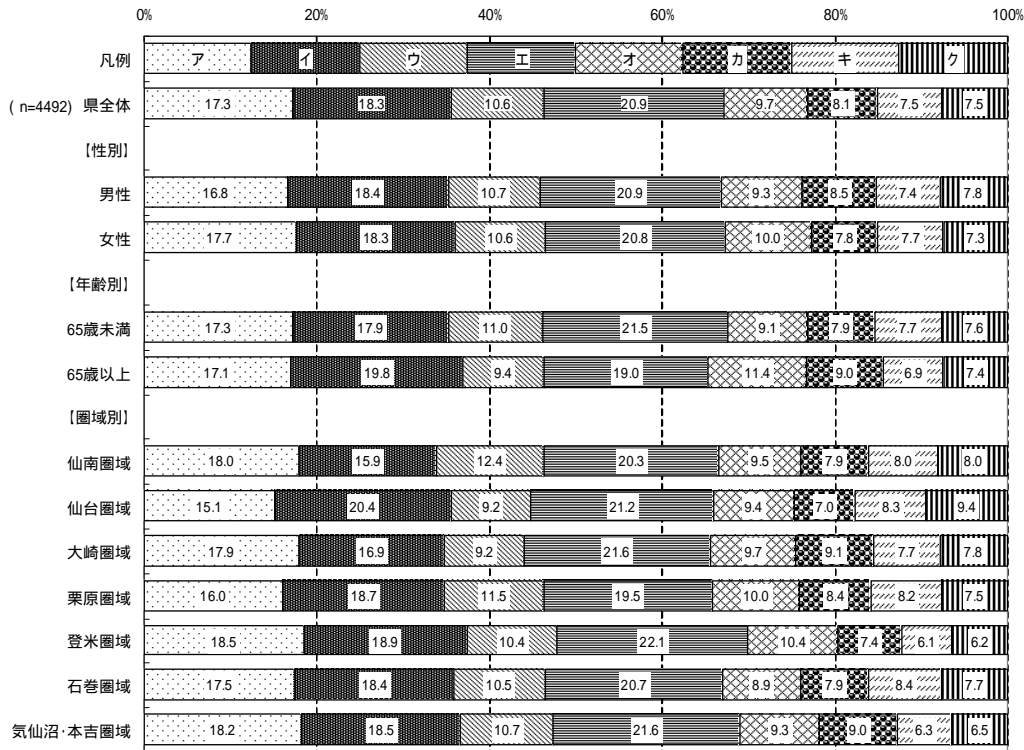
県が取組 3 3 に関し 1 0 年後をめざして行う下記の項目について、特に優先すべきと思う項目を調査した。

- ア 宮城県総合防災情報システムなど素早い情報伝達のためネットワークの充実
- イ 高齢者、障害者などの要援護者をはじめとした住民のすみやかな避難体制や避難所運営体制づくりへの支援と、地域間の相互応援体制づくりへの支援
- ウ 災害ボランティアの受け入れや活動がスムーズに行えるための体制づくりへの支援と、民間事業者との協力体制づくり
- エ 被災後のすみやかな生活安定を支援する体制づくり
- オ 自主防災組織の育成、防災訓練への参加促進、幼年期からの防災教育の充実
- カ 行政や関係機関での、防災に関する深い知識や高い判断力を持った防災担当職員の育成
- キ 企業や地域において防災活動の中心となる防災リーダーの育成
- ク 企業における B C P（緊急時でも被害を最小限に食い止め、事業を継続・早期復旧できるようにするために定める計画）策定など企業の防災対策への支援



県全体で、優先すべき項目として選ばれた項目の総数は、4 4 9 2 度であった（複数回答）。

このうち、最も多く選ばれた項目は、**エ**の被災後のすみやかな生活安定を支援する体制づくりで、9 3 8 度であった。次に、**イ**の高齢者、障害者などの要援護者をはじめとした住民のすみやかな避難体制や避難所運営体制づくりへの支援と、地域間の相互応援体制づくりへの支援が 8 2 3 度であった。



本表は、全体度数に占める各々の項目度数の割合を属性別に示したものである。

性別では、どの項目もほとんど差はなかった。

年齢別では、エの被災後のすみやかな生活安定を支援する体制づくりが、65歳未満が21.5%に対し65歳以上は19.0%で、65歳未満の方が2.5ポイント高かった。一方、イの高齢者、障害者などの要援護者をはじめとした住民のすみやかな避難体制や避難所運営体制づくりへの支援と、地域間の相互応援体制づくりへの支援は、65歳未満が17.9%に対し65歳以上は19.8%で、65歳以上の方が1.9ポイント高かった。

圏域別では、エの被災後のすみやかな生活安定を支援する体制づくりで、登米圏域(22.1%)、大崎圏域(21.6%)、及び気仙沼・本吉圏域(21.6%)が高かった。また、イの高齢者、障害者などの要援護者をはじめとした住民のすみやかな避難体制や避難所運営体制づくりへの支援と、地域間の相互応援体制づくりへの支援では、仙台圏域(20.4%)、登米圏域(18.9%)、栗原圏域(18.7%)が高かった。